



HP Sprinter for Mobile Center

ソフトウェア・バージョン: 12.50

ユーザーズ・ガイド

ドキュメントリリース日: 2015 年 9 月
ソフトウェアリリース日: 2015 年 9 月

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002-2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® およびWindows® は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は、The Open Groupの登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインタフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 <https://softwaresupport.hp.com>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。 <https://softwaresupport.hp.com> で **[Register]** をクリックします。

サポート

次のHPソフトウェアサポートオンラインのWebサイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hp.com> で **[Register]** をクリックします。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。 <https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP ソフトウェアのソリューションおよび統合とベスト・プラクティス

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) では、HPソフトウェアのカタログ記載製品がどのような仕組みで連携、情報の交換、ビジネスニーズの解決に対応するのかご確認いただけます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) では、ベストプラクティスに関するさまざまなドキュメントや資料をご覧いただけます。

目次

新機能	10
詳細情報の参照	11
ヘルプ・センタの検索方法	11
ドキュメントの更新情報	11
第1章: ユースケース・シナリオ	12
Sprinter の初めての使用	12
テストの作成	13
テストのオープンと実行準備	13
パワー・モードでテストを実行するかどうかの判断	15
実行の開始	16
不具合の送信	17
注釈	19
マクロの使用	20
実行結果の表示	20
第2章: Sprinter の概略	25
Sprinter の概要	25
ユーザ情報が保持される仕組み	27
Sprinter の起動方法	28
[ようこそ] ダイアログ・ボックス	28
メイン・ウィンドウ	29
[不具合追跡システムの設定] ダイアログ・ボックス	31
[設定] ダイアログ・ボックス	34
[一般設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス)	34
[ホットキー設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス)	35
[計画設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス)	36
[実行設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス)	37
[モバイル設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス)	38
トラブルシューティングと制限事項 - 一般	40
一般	40
Sprinter 統合	40
Sprinter Agent のタイムアウト	40
Sprinter ポート	41

第3章: テストの作成	42
テストの作成の概要	42
テストを作成する方法	42
[計画] 領域	44
テスト・リストを使用して作業するときの注意事項	46
[開く] ダイアログ・ボックス	46
[保存] ダイアログ・ボックス/ [名前を付けて保存] ダイアログ・ボックス	47
[定義] グループ ([テスト] タブ)	48
[詳細] 表示枠 (計画モードの [定義] グループ)	49
[パラメータ] 表示枠 (計画モードの [定義] グループ)	50
[添付ファイル] 表示枠 (計画モードの [定義] 表示枠)	51
[ステップ] タブ	52
[パラメータの挿入] ダイアログ・ボックス	56
[新規パラメータ] ダイアログ・ボックス	56
[アプリケーションの選択] ダイアログ・ボックス	57
[キャプチャ] サイドバー	59
[キャプチャされたステップ] サイドバー	60
第4章: テストの実行	64
ステップ単位のテスト	64
予備テスト	65
パワー・モードの概要	65
パワー・モードでのテストの実行	66
テストをSprinter で実行する方法	67
ステップの操作方法	69
ステップのステータスの設定方法	70
実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法	71
予備テストをSprinter で実行する方法	72
HP Mobile Center を使用してモバイル・アプリをテストする方法	73
前提条件	73
Mobile Center への接続	73
テスト実行リストを使用して作業するときの注意事項	78
[実行セットアップ] 領域	78
[お気に入りの管理] ダイアログ・ボックス	82
[テスト<'テスト名'> : すべての実行] ダイアログ・ボックス	82
[モバイルデバイスリスト] ダイアログ・ボックス	84
[実行セットアップ] の [定義] グループ	85
[一般設定] 表示枠 ([実行セットアップ] の [定義] グループ)	85
[ステップ] 表示枠 ([実行セットアップ] の [定義] グループ)	86
[パラメータ] 表示枠 ([実行セットアップ] の [定義] グループ)	87

[実行制御] サイドバー	88
[実行の添付ファイル] ダイアログ・ボックス	90
[テストの詳細] ダイアログ・ボックス	91
[ステップ] サイドバー	92
[ステップの添付ファイル] ダイアログ・ボックス	96
[ステップの編集] ダイアログ・ボックス	97
[実際の結果] ダイアログ・ボックス	98
[サブタイトル] ツールバー	99
[サブタイトルの設定] ダイアログ・ボックス	100
[テストの生成] ダイアログ・ボックス	101
トラブルシューティングと制限事項 - テストの実行	102
第5章: 不具合の検出と送信, およびツールの使用	103
不具合の検出と送信の概要	103
注釈ツールによる不具合の検出	104
不具合の送信	106
不具合を検出および送信する方法	107
DTS で使用するフィールドのカスタマイズ方法	109
[ツール] サイドバー	111
[ツール] サイドバーへのカスタム・ツールの追加	113
[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス	114
[カスタム選択] ダイアログ・ボックス	116
[新規不具合] ダイアログ・ボックス	117
Sprinter 不具合追跡システム API	120
[不具合メモ] ダイアログ・ボックス	120
[コメント] ダイアログ・ボックス	121
[注釈ツール] サイドバー	122
トラブルシューティングと制限事項 - DTS	125
JIRA 不具合追跡システムのカスタマイズ	125
Bugzilla 不具合追跡システムのカスタマイズ	126
第6章: 実行結果	127
実行結果の概要	127
実行結果の表示方法	128
結果グループ	130
[実行の概要] 表示枠 (結果グループ)	131
[ステップ] タブ (結果グループ)	132
[実行不具合] 表示枠 (結果グループ)	132
[不具合メモ] 表示枠 (結果グループ)	133

[ユーザ操作] 表示枠/ [ユーザ操作の概要] ダイアログ・ボックス	134
[ストーリーボード] ウィンドウ	135
トラブルシューティングと制限事項 - 実行結果	138
第7章: パワー・モード	139
パワー・モードの概要	139
アプリケーション	140
パワー・モードで実行するテストの準備方法	142
[パワー・モード] グループ	143
[アプリケーション] 表示枠 ([パワー・モード] グループ)	144
[アプリケーションの追加/編集] ダイアログ・ボックス	146
トラブルシューティングと制限事項 - パワー・モード	147
第8章: マクロ	149
マクロの概要	149
マクロの記録方法と実行方法	150
[マクロ] 表示枠 ([パワー・モード] グループ)	151
[マクロ] サイドバー	151
[マクロの詳細] ダイアログ・ボックス	152
[マクロの管理] ダイアログ・ボックス	154
トラブルシューティングと制限事項 - マクロ	155

新機能

HP Sprinter for Mobile Center 12.50 は、HP Mobile Center とともに使用して、モバイル・アプリケーションの手動テストを行う製品です。HP Sprinter for Mobile Center の実行には Mobile Center インスタンスが必要ですが、アクティブな ALM 接続は不要です。HP Sprinter for Mobile Center には、手動テストを効率的かつ効果的に実行できるようにするための高度な機能とツールがあります。

手動テストでは多くの場合、テストに関連するタスクを完了するためにテスト・アプリケーションの操作を中断する必要があります。たとえば、グラフィック・ソフトウェアを使用してアプリケーションの画面キャプチャを取得したり、テスト中にアプリケーションのムービーを録画したりしなければならないことがあるほか、不具合追跡ソフトウェアに切り替えて不具合を報告する必要があります。

HP Sprinter for Mobile Center では、これらのタスクをテスト・フローを中断せずに実行できます。HP Sprinter for Mobile Center では、手動テストの反復的で冗長的なタスクの多くを自動的に実行することができます。HP Sprinter for Mobile Center には、不具合を検出して送信するのに役立つ数多くのツールが含まれています。これらの機能により、テスト作業の中断を最小限に抑えて手動テストに必要なすべてのタスクを行うことができます。

また、ユーザ・インタフェースを使って直接手動テストの作成、編集、管理を行い、ファイル・システムに保存することも可能です。

さらに HP Sprinter for Mobile Center は外部の不具合追跡システムと統合可能であり、HP Agile Manager、JIRA、Bugzilla をサポートします。追加の不具合追跡システムを拡張して実装するための API が用意されています。

詳細については、「[HP Mobile Center を使用してモバイル・アプリをテストする方法](#)」(73ページ)を参照してください。

詳細情報の参照

次のドキュメントが提供されています。

ドキュメント	説明	形式
ユーザーズ・ガイド	HP Sprinter で手動テストを作成および実行する方法と、予備テストを実行する方法について説明します。	オンライン, PDF
Readme	ダウンロード手順, 最新情報, 修正済みの問題, インストール要件などの情報を提供します。	HTML

ヘルプ・センタの検索方法

ヘルプ・センタを検索するには、[ヘルプ] ページの左下にある [検索] ボタンをクリックします。

検索キーワードは、1 つまたは複数指定できます。キーワードを組み合わせる場合は、引用符に囲むと指定した順序で検索を実行できます。

ドキュメントの更新情報

Sprinter のドキュメントは HP ソフトウェア・マニュアル・サイトでも入手できます。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

第1章: ユースケース・シナリオ

この章では、あるユーザ事例という形式で Sprinter の操作方法の概要について説明します。この事例の目的は、Sprinter を使用して作業をすぐに始められるように、Sprinter の機能を紹介することです。Sprinter を使用して作業しながら、必要に応じてその機能を詳しく調べることができます。

この事例は、最後まで通してお読みください。お読みいただく際にプログラムを開く必要はありません。Sprinter を操作するための詳しい手順の説明ではなく、機能についてもすべてが取り上げられているわけではありません。このガイドの他の章は、機能を詳しく説明することを目的としています。Sprinter を操作しながら、必要に応じて参照してください。

本事例の内容

- 「Sprinter の初めての使用」(12ページ)
- 「テストの作成」(13ページ)
- 「テストのオープンと実行準備」(13ページ)
- 「パワー・モードでテストを実行するかどうかの判断」(15ページ)
- 「実行の開始」(16ページ)
- 「不具合の送信」(17ページ)
- 「注釈」(19ページ)
- 「マクロの使用」(20ページ)
- 「実行結果の表示」(20ページ)

Sprinter の初めての使用

今日は、アプリケーションをテストするために Sprinter を初めて使用する日です。



コンピュータの前に座り、デスクトップの Sprinter アイコン  をダブルクリックすると、Sprinter が起動します。

Mobile Center を使用するには、ログインが必要です。[**Mobile Center 接続**] ウィンドウで Mobile Center URL、ユーザ名、パスワードを入力し、[**ログイン**] をクリックします。



Mobile Center 接続

Mobile Center:

URL:

Mobile Center の URL を入力します (例: http://YourMobileCenterName:8080)

ユーザ名:

パスワード:

起動時に再接続

ログイン Sprinter の終了

テストの作成

計画モードに切り替えます。このモードでは、テストの作成と編集を手動で行うことができます。

【テスト】リストにある【新規】ボタンをクリックし、テストを新規作成します。

【テスト】タブでは、【詳細】表示枠で説明やコメントなどテストに関する内容を指定します。テストで使用する添付ファイルやパラメータを追加します。【ステップ】タブでは、【追加】ボタンをクリックしてテスト・ステップを追加します。ステップのフィールドに、説明や期待される結果などステップに関する内容を入力します。また、フィールドに入力するテキストの書式指定には、リボンの書式設定ツールのリッチ・テキスト機能を使用できます。このステップに添付ファイルと画面キャプチャを追加します。【テスト】表示枠で定義したパラメータをステップに挿入します。

上記の手順を繰り返して、ステップを複数作成します。

【保存】ボタンをクリックして、テストを保存します。

テストのオープンと実行準備

実行モードの【実行セットアップ】領域にある【開く】ボタン  をクリックすると、テストが開きます。実行するテストを選択して開きます。

Sprinter のメイン・ウィンドウの【実行セットアップ】領域にある【テスト実行】リストに、テストが表示されます。



【**テスト実行**】リストに表示されているテストは、次回の実行に含めることができます。ここで、【**テスト実行**】リストでテストを追加または削除したり、右クリック・オプションを使用してリスト内のテストの順序を変更したりすることができるほか、テストをリスト内に残したまま次回の実行に含めないようにすることができます。

今回は、テストのリストを変更しないことにします。また、**ステータス・バー**を見て、【**テスト実行**】リストにあるテストのうち、次回の実行に含まれるテストの数を確認します。

テスト: 3 | アクティブ テスト: 2

ここで、テストと実行に関する情報を確認できます。この情報は、【**テスト実行**】リストでテストを選択し、【**定義**】グループでノードを選択すると、メイン・ウィンドウの右側の表示枠に表示されます。



【**一般設定**】ノードには、テストの一般情報と同じ情報（テスト設計者、テストの説明など）が表示されるので、確認します。

テストのステップの確認は、【**定義**】グループの【**ステップ**】ノードで行います。

テストのパラメータの確認は、【**定義**】グループの【**パラメータ**】ノードで行います。必要に応じて、実際の値を変更します。

パワー・モードでテストを実行するかどうかの判断

パワー・モードを使用するには、**マクロ**（ユーザ・アクションの記録および再生）など、Sprinter の高度な機能

パワー・モードになっている場合、アプリケーションで実行した各操作が Sprinter によってキャプチャされ、その**ユーザ操作**（アプリケーションで実行した操作）のリストが説明文の形式で保存されます。例：

```
"Enter "マイ・ユーザ" in the "userName" edit field."

"Enter the encrypted password in the "password" edit field."

"Click the "サインイン" image."

"Select the "ニューヨーク" item from the "fromPort" combo box."

"Select the "2 月" item from the "fromMonth" combo box."

"Select the "パリ" item from the "toPort" combo box."

"Select the "3 月" item from the "toMonth" combo box."
```

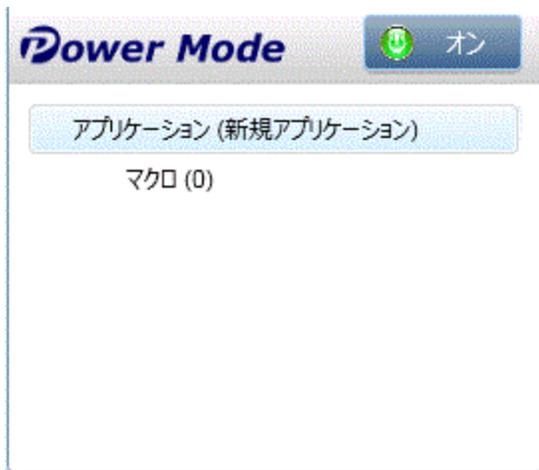
このようなユーザ操作は、実行結果や、実行の最後に表示される（テストで実行した各操作が表示される）ストーリーボード・ビューアで確認できます。また、関連するユーザ操作のリストを、送信する不具合に追加して、Sprinter で不具合シナリオが自動的に挿入されるようにすることも可能です。

テストをパワー・モードで実行するときに、マクロを設定しないと、すべてのユーザ操作が Sprinter で検出されます。このユーザ操作は、不具合に追加したり、テスト結果のストーリーボードで表示したりすることができます。

あるアプリケーションをテストするためにパワー・モードを設定すると、そのアプリケーションをテストするたびにその設定が Sprinter で使用されます。

マクロ機能は、テストの実行時に非常に便利であると判断されます。マクロを使用してアプリケーションの初期画面のいくつかを自動的に通過し、厳密なテストが必要な領域にすばやく到達することもできます。

[テスト実行] リストの **[パワー・モード]** グループにあるパワー・モードボタンをクリックして、パワー・モードに切り替えます。



パワー・モードを使用するには、テストに対して**アプリケーション**を定義する必要があります。これはテスト対象のアプリケーションです。テストに対してアプリケーションを定義すると、Sprinter は前述のパワー・モード機能を使用するためにアプリケーションのオブジェクトや画面を検出できるようになります。

テストに対してアプリケーションを定義すると、Sprinter はすべてのパワー・モード設定をそのアプリケーションに関連付けます。つまり、パワー・モードでテストを実行し、テストに対してアプリケーションを選択すると、そのアプリケーションに関連付けられているすべてのマクロが自動的にテストで利用できる状態になります。

[パワー・モード] グループで [アプリケーション] ノードを選択して、[アプリケーション] 表示枠を表示し、アプリケーションをテストに対して定義します。

マクロの使用

テスト・プロセスのいくつかの部分で、Sprinter に一連の操作を実行させなければならないことがあります。また、アプリケーションの複数のセクションで同じ一連の操作を実行する必要がある部分がテストに存在することもあります。**マクロ**は一連の操作を1つのコマンドとして実行するので、テストの時間とエラーを減らすことができます。

現在のアプリケーション用に新しいマクロを作成するには、テストの実行中にマクロを記録します。記録されたマクロは、現在のテストで利用できるほか、このアプリケーションを使用するように設定されているあらゆるテストで利用できます。

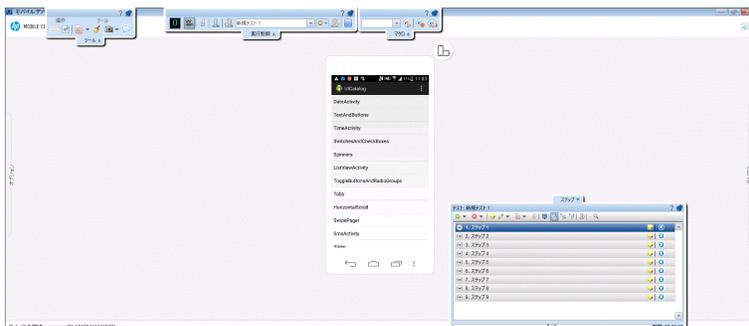
アプリケーションに対して利用可能なマクロのリストの表示および管理は、[パワー・モード] グループの [マクロ] 表示枠で行います。

実行の開始

[**実行セットアップ**] 領域の [**実行**] ボタン  をクリックすると、実行が開始され、Sprinter のメイン・ウィンドウが非表示になります。

Sprinter が画面のスペースをほとんど占有していないことがすぐにわかります。また、実行中に Sprinter の機能を使用するには、画面の縁にある**サイドバー**を使用することもわかります。

サイドバーのタブをクリックすることで、1つ、複数、またはすべてのサイドバーを一度に開くことができます。サイドバーは、サイドバー上またはサイドバー以外の領域をクリックすることで自動的に開閉します。また、必要に応じて開いた位置に固定したり、位置を変更することができます。

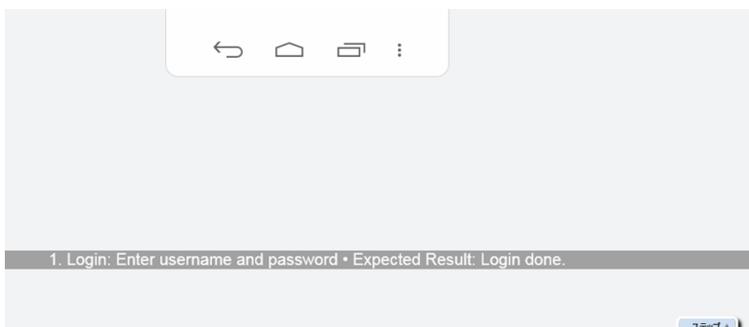


これにより、アプリケーションを表示しながらテストを実行するために画面を最大限に使用し、特定の Sprinter の機能を必要に応じて表示することが可能です。

テスト・ステップを【ステップ】サイドバーで確認できるように、【ステップ】タブをクリックします。

テストのステップに目を通し、説明、期待される結果、添付ファイルを確認します。

テストのすべてのステップに目を通した結果、【ステップ】サイドバーの【サブタイトル】ボタンをクリックして、**サブタイトル・モード**に切り替えることにしました。サブタイトル・モードでは、各ステップの説明が、サイドバーではなく、サブタイトルとして画面に表示され、ステップのステータスを設定したり、添付ファイルをステップに追加したりすることができます。このため、使用できる画面の領域がさらに広くなり、確認できるアプリケーションの領域もさらに広がります。



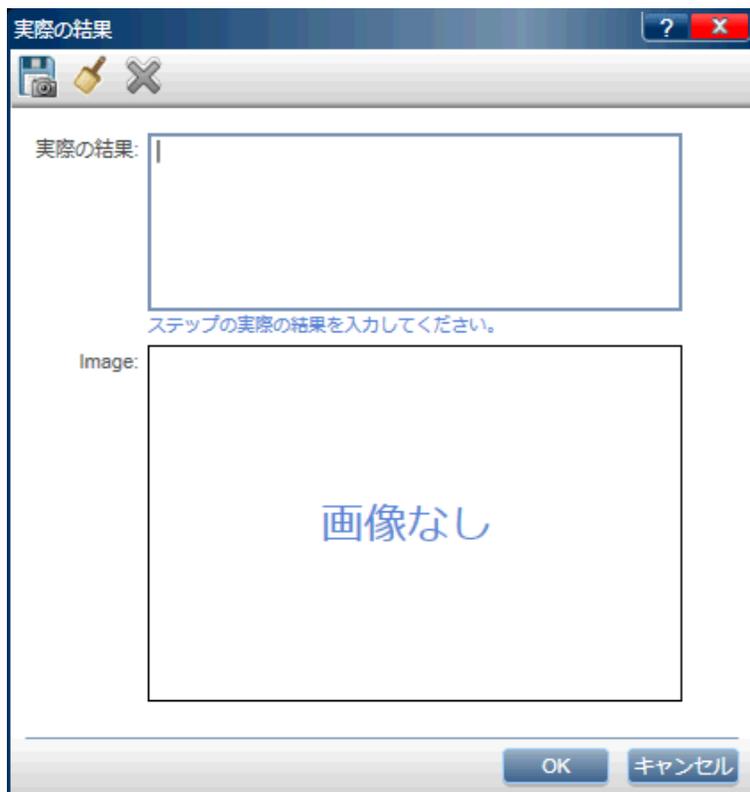
テストのステップを実行するときは、各ステップのステータスを右のカラムで設定します。

例：**Passed**または**Failed**。

不具合の送信

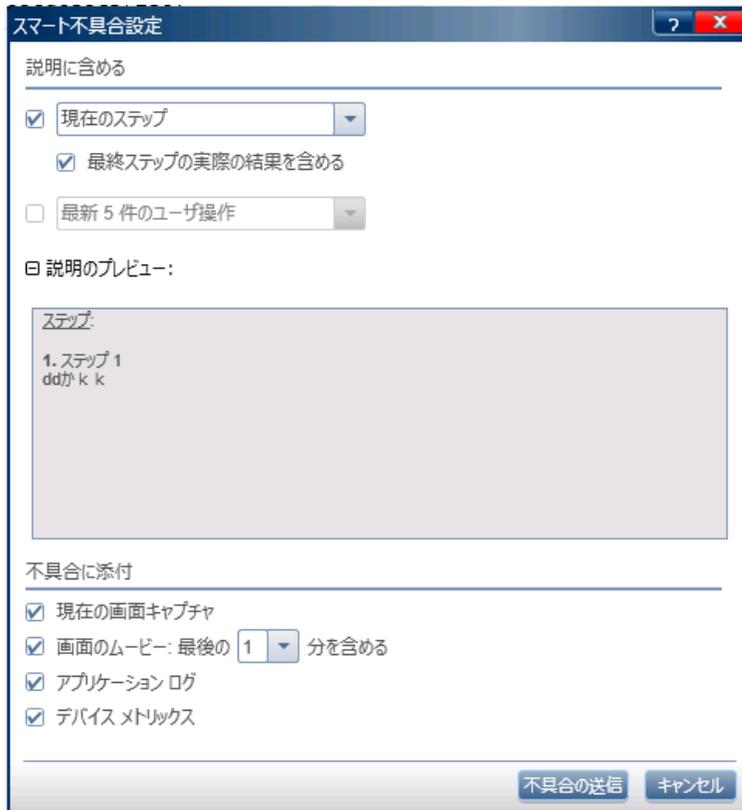
テストのステップの実行を続けていると、あるステップで、実際の結果が【期待される結果】で記述されている結果と異なっています。まず、ステータスを「**失敗**」にします。次に、【**実際の結果**】ボ

タンをクリックします。[実際の結果] ダイアログ・ボックスが開いたら、アプリケーションで実際に発生した内容をテキストで入力します。



[ステップ] サイドバーのツールバーで [スマート不具合] ボタンをクリックします。

この不具合は以前に開発者が再現するのに苦労していたものであるため、再現シナリオとして不具合の説明にユーザ操作のリストを追加し、実行を記録したムービーを不具合に添付します。



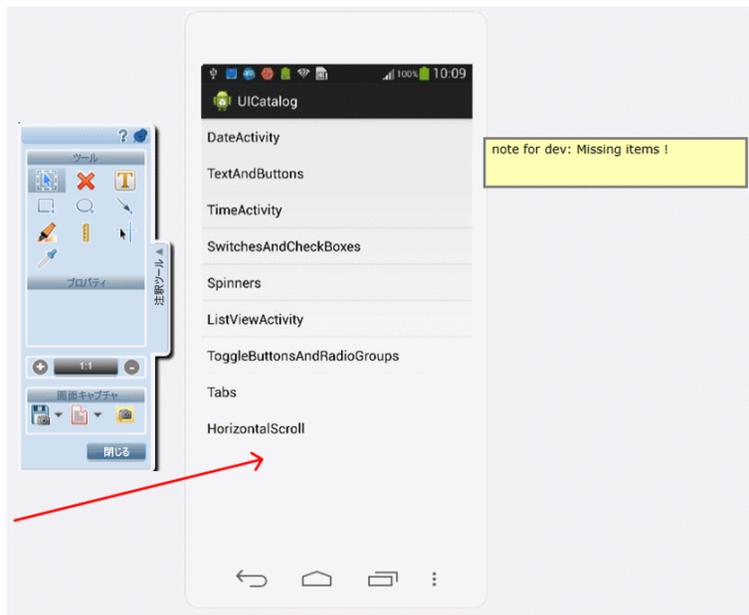
実行を続行すると、別の不具合が見つかりますが、これはもっと簡単な不具合です。不具合の送信や不具合追跡システムのフィールド入力によって実行フローを中断したくない場合は、**不具合メモ**を作成します。

不具合メモでは、アプリケーションの不具合を要約できます。メモはテスト結果に追加され、テストの最後に確認できます。その後、テスト結果から不具合を送信します。テスト中に利用可能な情報と同じ情報を、テスト結果からも利用できます。このため、その時点で、注釈付きの画面キャプチャ、ムービー、ステップや操作に関する情報を不具合に追加することが可能です。

注釈

ステップの1つで、アプリケーションの別の不具合が見つかりました。Sprinter でイメージをキャプチャして、ステップ、実行、実際の結果、不具合に添付できますが、画像内で問題を強調表示しておけば、結果を確認する担当者が不具合を見つけやすくなります。そこで、**注釈ワークスペース**を使用して画面キャプチャに注釈を付けることにします。[**実際の結果**] ダイアログ・ボックスで [**注釈を実際の結果として保存**] ボタンをクリックします。[**注釈ワークスペース**] が開きます。ここで**注釈ツール**を使用して画面キャプチャに注釈を入れます。

四角形、**カラー・ピッカー**、**矢印**を使用して問題を強調表示し、説明を**テキスト**で入力します。[**注釈ワークスペース**] を閉じると、注釈付きの画面キャプチャがステップの実際の結果に添付されます。



実際の結果に画面キャプチャを保存するだけでなく、その画面キャプチャを不具合に追加し、電子メール・オプションを使用して、似た問題に気付いたと最近話していた同僚にそのキャプチャを送信できます。

マクロの使用

テストのステップの実行を続けていると、一連の操作を Sprinter に実行させる必要があるアプリケーションのセクションにたどり着きました。そこで、**【マクロ】** タブをクリックして、**【マクロ】** サイドバーを開きます。



記録ボタンをクリックし、マクロに必要な操作の実行を開始します。一連の操作を実行し終わったら、**【記録の停止】** ボタンをクリックしてマクロを保存します。

保存したマクロは、現在の実行で使用できるほか、現在のアプリケーションを使用するように設定されている今後のすべてのテストで利用できます。

実行結果の表示

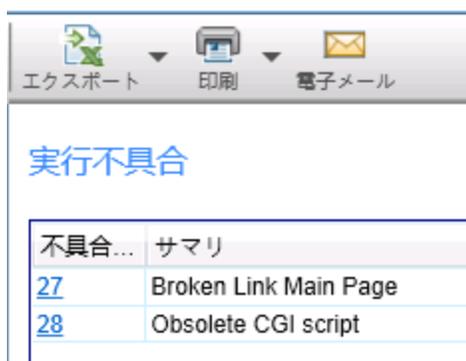
【実行制御】 サイドバーの **【停止】** ボタン  をクリックして、実行を終了します。サイドバーが閉じ、メイン・ウィンドウで **【実行の概要】** 表示枠が開きます。この概要には、テストと実行に関する

情報, 行った操作の数 (パワー・モード・テストのみ), 送信した不具合の数, 作成した不具合メモの数, 追加したコメントの数 (パワー・モード・テストのみ), 行ったステップのステータスが含まれています。



【結果】 グループの各ノードを選択すると, 右の表示枠に詳細が表示されます。

【実行不具合】 ノードを選択して, テスト中に送信した不具合のリストを表示します。

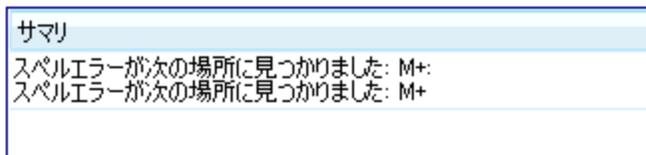


不具合 ID をクリックすると, その不具合の詳細が表示されます。

次に, 【不具合メモ】 ノードを選択すると, テスト中に作成した不具合メモのリストが表示されます。

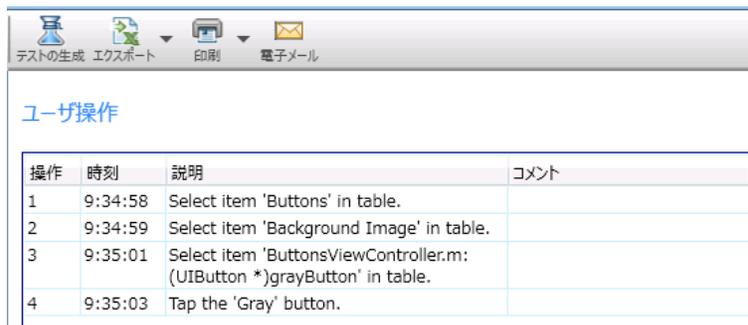


不具合メモ



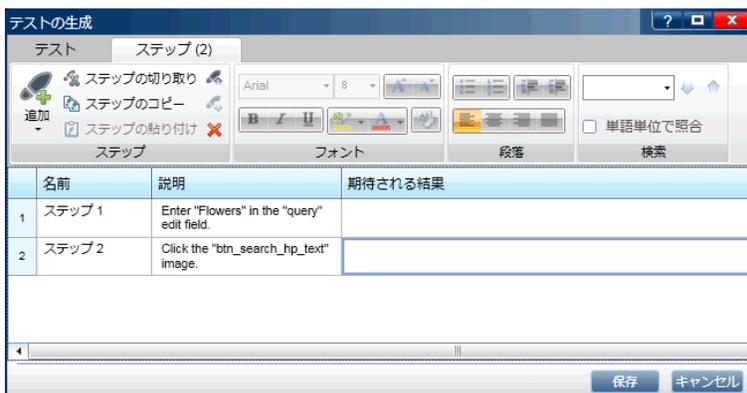
メモを選択し、**【不具合の送信】** をクリックすると、不具合が送信されます。不具合のすべての情報は、実行結果にも含まれています。不具合には、注釈付きの画面キャプチャ、ムービー、ステップやユーザ操作に関する情報を追加することができます。

パワー・モードでテストを実行する場合、**【ユーザ操作】** ノードを選択して、実行中に行ったユーザ操作のリストを表示します。



このユーザ操作のリストは、Excel のスプレッドシートにエクスポートできます。

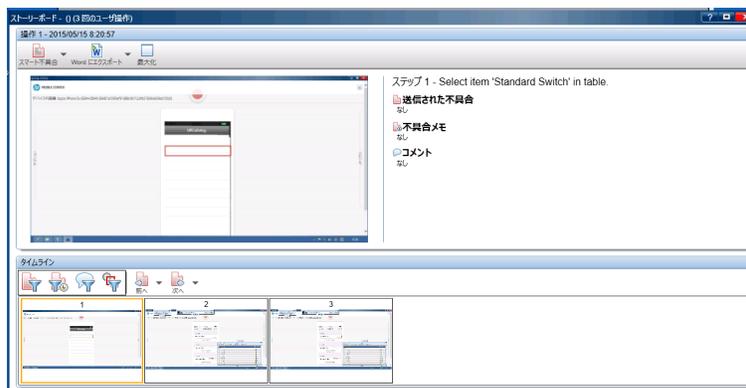
【テストの生成】 ボタンをクリックすると、現在のテスト実行を、手動テストの新規作成時に適用するテンプレートとして使用します。



【ステップ】ノードを開くと、各ステップの詳細情報が表示されます。サマリには、ステータス、名前、説明、期待される結果、実際の結果、画面キャプチャ、添付ファイルが含まれます。

#	ステータス	名前	説明	期待される結果
1	+	ステップ 1	"i_username" フィールドに "jo" を入力する。	
2	+	ステップ 2	"i_password" フィールドにパスワードを入力する。	
3	+	ステップ 3	"Login" ボタンをクリックする。	
4	+	ステップ 4	"Money Transfer" リンクをクリックする。	
5	+	ステップ 5	"fromAccount" コンボボックスから "Money Market [543877 \$84.00]" を選択する。	
6	+	ステップ 6	"toAccount" コンボボックスから "Checking [843875] \$1.757.00" を選択する。	
7	+	ステップ 7	"Next" ボタンをクリックする。	
8	+	ステップ 8	"amount" フィールドに "68" を入力する。	
9	+	ステップ 9	"25" リンクをクリックする。	
10	+	ステップ 10	"Next" ボタンをクリックする。	
11	+	ステップ 11	"OK" ボタンをクリックする。	
12	+	ステップ 12	"Logout" ボタンをクリックする。	

【ストーリーボード】ノードを選択して、ストーリーボードを開きます。ストーリーボードの上部には、【タイムライン】で選択されているユーザ操作が実行された後に表示されたアプリケーションの画面キャプチャと、操作の概要表示枠が表示されます。ストーリーボードの下部には、実行のタイムラインが表示されます。



【操作の詳細】表示枠には、各操作の説明と送信された不具合、または追加された不具合のメモやコメントが表示されます。

操作の概要表示枠でリンクをクリックして、【不具合の詳細】ダイアログ・ボックスを開いたり、不具合メモから不具合を作成したり、差異ビューアを開いたりすることができます。また、新しい不具合をストーリーボードから送信することも可能です。

ストーリーボードの下部には、テストのタイムラインが表示されます。タイムラインには、テストの各ユーザ操作の画面キャプチャがサムネイル表示されます。タイムラインに表示されるサムネイルをフィルタ処理して、不具合を送信した操作のみを表示できるほか、不具合メモを作成した操作のみ、またはコメントを追加した操作のみ、差異が見つかった操作のみを表示することができます。

これで、架空のテストの設定、実行、結果の表示を行う基本的なプロセスをひとつおしり学んだので、Sprinter を使用する準備ができました。

第2章: Sprinter の概略

本章の内容

概念

- 「Sprinter の概要」 (25ページ)
- 「ユーザ情報が保持される仕組み」 (27ページ)

タスク

- 「Sprinter の起動方法」 (28ページ)

リファレンス

- 「[ようこそ] ダイアログ・ボックス」 (28ページ)
- 「メイン・ウィンドウ」 (29ページ)
- 「[不具合追跡システムの設定] ダイアログ・ボックス」 (31ページ)
- 「[設定] ダイアログ・ボックス」 (34ページ)
- 「トラブルシューティングと制限事項 - 一般」 (40ページ)

Sprinter の概要

HP Sprinter は、モバイル・アプリケーションの手動テスト向けに HP が提供するソリューションです。Sprinter には、手動テストを効率的かつ効果的に実行できるようにするための高度な機能とツールがあります。

手動テストでは多くの場合、テストに関連するタスクを完了するためにテスト・アプリケーションの操作を中断する必要があります。たとえば、グラフィック・ソフトウェアを使用してアプリケーションの画面キャプチャを取得したり、テスト中にアプリケーションのムービーを録画したりしなければならないことがあるほか、不具合追跡ソフトウェアに切り替えて不具合を報告する必要があります。

Sprinter では、これらのタスクをテスト・フローを中断せずに実行できます。Sprinter では、手動テストの多くの反復的で冗長的なタスクを自動的に実行することもできます。Sprinter には、不具合を検出して送信するのに役立つ数多くのツールが含まれています。これらの機能により、テスト作業の中断を最小限に抑えて手動テストに必要なすべてのタスクを行うことができます。

また、ユーザ・インタフェースを使って手動テストの作成、編集、管理を直接行い、ファイル・システムに保存することも可能です。

Sprinter で実行できるタスクを次に示します。

- **テストとビジネス・コンポーネントの作成：**
Sprinter の計画モードでは、手動テストとビジネス・コンポーネントの作成を行います。ステップ・キャプチャ・ツールは、ステップを手動または自動で追加する機能です。詳細については、「[テストの作成](#)」 (42ページ) を参照してください。

- **テストを、次の機能を備えた新しいステップ表示で実行します。**
- **ユーザ・フレンドリな表示**：わかりやすく整理されたユーザ・フレンドリなデザインでステップが表現され、ステップ情報の確認、ステップの操作、ステップ情報の変更が簡単にできるようになっています。詳細については、「[\[ステップ\] サイドバー](#) (92ページ)を参照してください。
- **ナビゲーション**：テスト・フローを中断せずに、実行に含まれるテスト間の移動が可能です。Sprinter では、表示されているステップおよび実行に関するすべての情報が現在のテストに合わせて更新されます。
- **テストの実行中にパラメータの値を編集**：テストの実行中に、テストのパラメータの実際の値を簡単に編集できます。
- **複数の表示方法**：テストの要件に応じて、ステップの表示方法を変更できます。詳細が必要なときは通常モードで表示し、アプリケーションの表示面積を大きくする必要がある場合はサブタイトル・モードで表示します。詳細については、「[\[ステップ\] サイドバー](#) (92ページ)を参照してください。
- **画面キャプチャ**：アプリケーションの未加工の画面キャプチャまたは注釈付きの画面キャプチャをステップの実際の値に添付できます。詳細については、「[\[ステップ\] サイドバー](#) (92ページ)を参照してください。
- **事前定義のステップを使用せずに予備テストを実行**：事前定義のステップを使用せずにテストを実行すると、Sprinter では、テストで行ったすべてのユーザ操作を記録します。Sprinter では、略式のテスト・セッションで行ったユーザ操作のリストを、次の形式にエクスポートすることもできます。
 - 正式な手動テスト。すべてのユーザ・アクションをステップに変換します。
 - Excel スプレッドシート。エクスポート後、必要に応じてテキストを修正し、スプレッドシートをテストにインポートすることによって、事前定義のステップを使用して予備テストを正式なテストに変換できます。詳細については、「[\[ユーザ操作\] 表示枠/ \[ユーザ操作の概要\] ダイアログ・ボックス](#) (134ページ)を参照してください。
- **不具合を不具合追跡システム (DTS) に送信**：不具合を Sprinter から直接送信できます。詳細については、「[\[ツール\] サイドバー](#) (111ページ)を参照してください。
 - **スマート不具合のオープン**：スマート不具合では、テストに含まれるすべてのユーザ操作またはステップの説明テキストを自動的に生成することによって不具合シナリオが作成されます。また、不具合にアプリケーションの画面キャプチャやムービーを添付することもできます。詳細については、「[\[スマート不具合設定\] ダイアログ・ボックス](#) (114ページ)を参照してください。
 - **不具合メモ**を作成して実行の最後に不具合を送信することで、テストの実行フローを中断せずにテストを続けることができます。
- **アプリケーションの画面キャプチャの作成と注釈付け**：Sprinter には、テスト・プロセスの任意の時点でアプリケーションの画面キャプチャを取得し、注釈を付けることができるツールがあります。ツールはユーザ・インタフェース要素を測定および比較するために用意されています。画面の不具合は、注釈付きの画面キャプチャを不具合に添付するか、ファイルとして保存するか、電子メールに添付するかのいずれかの方法で報告できます。また、注釈付きの画面キャプチャをステップの実際の結果に含めることも可能です。詳細については、「[\[注釈ツール\] サイドバー](#)」

(122ページ)を参照してください。

- **テスト・アプリケーションでのマクロの記録および実行**：マクロを作成および実行して、アプリケーションでの一連の操作を Sprinter に実行させることができます。詳細については、「[\[マクロ\] サイドバー](#)」(151ページ)を参照してください。
- **テスト結果の表示**：Sprinter には、テストで行った各操作が表示されるストーリーボードがあります。操作ごとに、その画面キャプチャ、報告した不具合、実行に追加した不具合メモやコメントを確認することができます。テストを複数の構成で実行した場合は、別々のコンピュータの画面の差異を確認することができます。詳細については、「[実行結果の概要](#)」(127ページ)を参照してください。

これらの機能はいずれも Sprinter 内で利用でき、テストのフローを中断せずに実行できます。

ユーザ情報が保持される仕組み

Sprinter には、設定および他のユーザ固有の構成が保存され、この情報が次に Sprinter を起動したときに適用されます。

Sprinter を実行すると、この情報は Windows ユーザ・プロファイルごとにローカル・コンピュータ上に保存されます。

次に Sprinter を起動したとき、このような設定および構成が利用可能であれば、それが適用されます。情報には、ユーザ別に保存および適用されるものや、テストに対して定義されているアプリケーションに応じて保存および適用されるものがあります。

次の表では、ユーザ情報の保存と適用の方法について説明します（パワー・モード機能のみに該当するユーザ情報は、パワー・モード・アイコン  で示します）。

ユーザ別に適用される情報

ユーザ情報	定義されている場所	情報の適用方法
お気に入り	「 [実行セットアップ] 領域 」(78ページ)	<ul style="list-style-type: none">• 前回の Sprinter セッションのリストを使用します。• テストをロードすると、Sprinter で最初のテストがチェックされ、アプリケーションが定義されているかどうかを確認されます。定義されている場合は、そのアプリケーションが [アプリケーション] 表示枠のアプリケーション・リストにあるかどうかチェックされます。リストになければ、そのアプリケーションがリストに追加され、選択されます。
設定	「 [設定] ダイアログ・ボックス 」(34ページ)	
 アプリケーション	「 [アプリケーション] 表示枠 （ [パワー・モード] グループ ）」(144ページ)	

アプリケーション別に適用される情報

ユーザ情報	定義されている場所	情報の適用方法
 マクロ	「 [マクロ] サイドバー 」(151ページ)	マクロの保存行くと、 「[アプリケーション] 表示枠 ([パワー・モード] グループ) 」 (144ページを参照) でテストに対して定義されているアプリケーションに関連付けられます。 [アプリケーション] 表示枠でテストに対してアプリケーションを選択すると、そのアプリケーションに関連付けられているすべてのマクロがテストで利用できる状態になります。 この情報は、ローカル・コンピュータ上のユーザ・プロファイルごとに取得されます。

Sprinter の起動方法

Sprinter を起動する方法について説明します。



このガイドでは、パワー・モードでのみ利用可能な機能の説明が  アイコンで示されています。

このタスクは次の手順で構成されています。

- テストの作成と編集。詳細については、[「テストを作成する方法」](#) (42ページ) を参照してください。
- テストの実行。詳細については、[「テストをSprinter で実行する方法」](#) (67ページ) を参照してください。

[ようこそ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、Sprinter の機能に簡単にアクセスできます。また、テストのオープンまたは作成も可能です。

アクセス方法	次のいずれかを行います。 <ul style="list-style-type: none">• Sprinter を起動する。• メイン・ウィンドウで、[ヘルプ] ボタンの隣のドロップダウン矢印で [ようこそ] 画面を選択する。
重要な情報	[起動時に表示] オプションを選択すると、Sprinter の起動時に [ようこそ] ダイアログ・ボックスが開きます。 [ようこそ] ダイアログ・ボックスを開かない設定は、 「[一般設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス) 」 (34ページを参照) で行います。

【はじめに】 タブ

【はじめに】 タブには、Sprinter の機能が表示されます。

【ヘルプ】 タブ

【ヘルプ】 タブには、このユーザーズ・ガイド、カスタマ・サポート、【バージョン情報】 画面へのリンクがあります。

【計画】 タブ

【計画】 タブのユーザ・インタフェース要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
新規テスト	Sprinter テストを新規作成し、【テスト】 リストに追加します。
テストを開く	【開く】 ダイアログ・ボックスが開き、ファイル・システムのテストを【テスト】 リストに追加します。

【実行】 タブ

【実行】 タブのユーザ・インタフェース要素は次のとおりです。

UI 要素	説明
テストを開く	【開く】 ダイアログ・ボックスが開き、ファイル・システムのテストをメイン・ウィンドウの【テスト実行】 リストに追加します。
お気に入り	お気に入りの Sprinter テストのリストです。

メイン・ウィンドウ

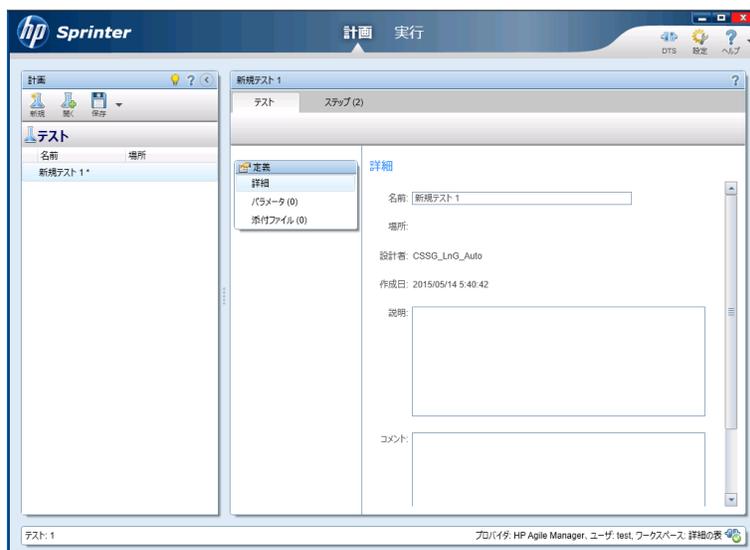
このウィンドウでは、テストの管理、定義の作成、テスト結果の表示、Sprinter 設定の構成を行うことができます。また、【設定】 ダイアログ・ボックスにアクセスすることも可能です。

Sprinter のメイン・ウィンドウには、テストの作成、テスト実行など、実行する操作に応じて表示枠が表示されます

メイン・ウィンドウで実行できるタスクを次に示します。

- [「Sprinter の起動方法」 \(28ページ\)](#)
- [「テストを作成する方法」 \(42ページ\)](#)
- [「テストをSprinter で実行する方法」 \(67ページ\)](#)
- [「実行結果の表示方法」 \(128ページ\)](#)

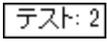
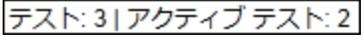
次に、計画モードのメイン・ウィンドウの図を示します。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Sprinter を起動します。[ようこそ] ウィンドウが開く場合は閉じます。 2. メイン・ツールバーで [計画] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • [詳細] 表示枠の内容は、[テスト] リストで選択したテストによって異なります。 • Sprinter を終了するには、メイン・ウィンドウを閉じます。
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> • 「Sprinter の概要」(25ページ) • 「パワー・モードの概要」(65ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	Sprinter が 実行 モードであることを示します。左の表示枠には [実行セットアップ] 領域が表示されず。詳細については、「 [実行セットアップ] 領域 」(78ページ)を参照してください。
	Sprinter が 計画 モードであることを示します。左の表示枠には [計画] 領域が表示されます。詳細については、「 [計画] 領域 」(44ページ)を参照してください。
	「 [不具合追跡システムの設定] ダイアログ・ボックス 」(31ページを参照)が開き、DTS への接続を設定できます。
	「 [設定] ダイアログ・ボックス 」(34ページを参照)が開きます。

UI 要素	説明
	<p>メイン・ウィンドウのヘルプが開きます。</p> <p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ヘルプ• 印刷用マニュアル : Sprinter マニュアルを印刷に便利な Adobe PDF (Portable Document Format) 形式で開きます。• HP ソフトウェア・サポート : HP ソフトウェア・サポート・オンライン Web サイトに接続します。• 【ようこそ】画面• 概要
<ステータス・バー>	<p>ステータス・バーには次の情報が表示されます。</p> <p>計画モード</p> <ul style="list-style-type: none">• テストの数 () : 【テスト】 リストにあるテストの数。 <p>実行モード</p> <ul style="list-style-type: none">• 【テスト実行】 リストのステータス () : 最初の数字は【テスト実行】 リスト内のテスト数, 2 番目の数字は次のテスト実行に含まれるテスト数を示します。•  DTS 接続のステータス. Sprinter から不具合追跡システムへの接続ステータスです。接続を切断すると、このアイコンは無効になります。このアイコンをダブルクリックすると、「【不具合追跡システムの設定】ダイアログ・ボックス」(31ページを参照)が開きます。

メイン・ウィンドウには、次の領域もあります。

計画モード

- 「**【計画】領域**」(44ページ)
- 「**【定義】グループ (【テスト】タブ)**」(48ページ)
- 「**【ステップ】タブ**」(52ページ)

実行モード

- 「**【実行セットアップ】領域**」(78ページ)
- 「**【パワー・モード】グループ**」(143ページ)
- 「**【実行セットアップ】の【定義】グループ**」(85ページ)
- 「**【結果グループ】**」(130ページ)

[不具合追跡システムの設定] ダイアログ・ボックス

この表示枠では、不具合追跡システムへの接続を設定します。

このダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「[テストをSprinter で実行する方法](#)」(67ページ)

次に、[不具合追跡システムの設定] ダイアログ・ボックスの図を示します。

The screenshot shows a dialog box titled "不具合追跡システムの設定" (Configure Defect Tracking System). It contains the following fields and controls:

- サーバ: (Server) Provider: JIRA (dropdown menu)
- URL: (text input field)
- ユーザ名: (text input field)
- パスワード: (password input field)
- 接続 (Connect) button
- 起動時に再接続 (Reconnect on startup)
- 閉じる (Close) button

次に、Bugzilla DTS への接続が確立された後の [不具合追跡システムの設定] ダイアログ・ボックスの図を示します。

The screenshot shows the same dialog box "不具合追跡システムの設定" (Configure Defect Tracking System) after successful connection to Bugzilla DTS. The fields and controls are updated as follows:

- サーバ: (Server) Provider: Bugzilla (dropdown menu)
- URL: (text input field) containing "http://16.59.61.236"
- ユーザ名: (text input field) containing "sprinter@sprinter.com"
- パスワード: (password input field) containing "....."
- 切断 (Disconnect) button
- プロジェクト: (Project) *製品: Préférences 1 (dropdown menu)
- ログイン (Login) button
- 起動時に再接続 (Reconnect on startup)
- 閉じる (Close) button

アクセス方法

	 メイン・ウィンドウでDTS ボタン  をクリックします。
--	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
プロバイダ	不具合追跡システム製品 : HP Agile Manager, Bugzilla, ファイル・システム, JIRA, 電子メール。
URL	DTS システムの完全な URL。 Bugzilla の REST API : <i>http(s)://host:port/</i> HP Agile Manager の REST API : <i>http(s)://host:port/</i> JIRA の REST API : <i>http(s)://host:port/rest/API/latest</i> 現在サポートされている JIRA REST API バージョン 2 : <i>http(s)://host:port/rest/API/2</i>
ユーザ名, パスワード	DTS サーバへの接続に使用する資格情報。
接続	上記のフィールドで入力した情報を元に DTS に接続します。
切断	現在接続された状態の場合, DTS から切断します。
ログイン/ログアウト	選択した製品またはプロジェクトにログインまたはログアウトします。 注 : このオプションが表示されるのは, DTS サーバへの接続が確立されている場合のみです。
<製品固有のフィールド>	画面を分割する線の下には, 不具合追跡システム固有のフィールドが表示されます。 Bugzilla * 製品。不具合の送信先となる製品。 JIRA * プロジェクト。不具合の送信先となる JIRA プロジェクト。 HP Agile Manager * プロジェクト。不具合の送信先となる HP Agile Manager プロジェクト。 * ドメイン。不具合の送信先となる HP Agile Manager ドメイン。 * ワークスペース。不具合の送信先となる HP Agile Manager ワークスペース。 電子メール * 受信者。不具合の電子メール通知を受け取るユーザ。 ファイル・システム
起動時に再接続	Sprinter の起動時に, 上記の資格情報で不具合追跡システムに自動接続します。

[設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには次の表示枠があります。

- ・ 「 [一般設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス) 」 (34ページ)
- ・ 「 [ホットキー設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス) 」 (35ページ)
- ・ 「 [計画設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス) 」 (36ページ)
- ・ 「 [実行設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス) 」 (37ページ)
- ・ 「 [モバイル設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス) 」 (38ページ)

[一般設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス)

この表示枠では Sprinter の全般的な設定を行うことができます。

次に、 [一般設定] 表示枠の図を示します。



アクセス方法

 [設定] ボタン > [一般] ノードの順に選択します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

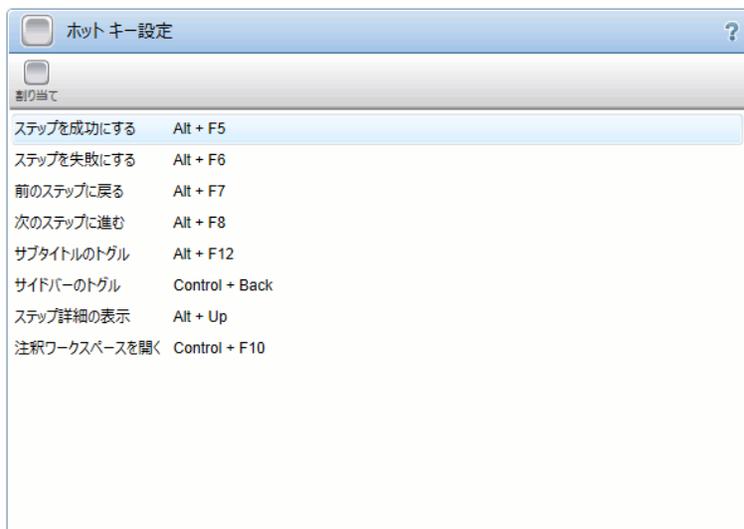
UI 要素	説明
起動時に [ようこそ] ダイアログを表示	Sprinter を起動するたびに [ようこそ] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、 「 [ようこそ] ダイアログ・ボックス」 (28ページ) を参照してください。 ヒント: ダイアログを非表示にするには、このダイアログ・ボックスにある [起動時に表示] チェック・ボックスをクリアします。

UI 要素	説明
【パワー モードへようこそ】ダイアログの表示	<p>パワー・モードをアクティブにするたびに【パワー モードへようこそ】ダイアログ・ボックスを開きます。</p> <p>ヒント: ダイアログを非表示にするには、このダイアログ・ボックスにある【パワー モード オン時にこの画面を表示】チェック・ボックスをクリアします。</p>
アニメーションを有効にする	<p>テスト中の注釈アニメーションでアニメーションを有効にします。アプリケーションの操作表示にアニメーションを使うことにより、実行のロック・アンド・フィールをわかりやすく伝えることができます。</p> <p>注: アニメーションを有効にすると、パフォーマンスに影響することがあります。</p>
言語	<p>インタフェース言語をドロップダウン・リストで選択します。</p> <p>注: インタフェース言語を変更した場合、変更内容を有効にするには Sprinter を再起動する必要があります。</p>

[ホット キー設定] 表示枠([設定] ダイアログ・ボックス)

この表示枠では、Sprinter のさまざまな機能に対してホット・キーを指定できます。

次に、[ホット キー設定] 表示枠の図を示します。



アクセス方法

[設定] ボタン  > [ホット キー] ノードの順に選択します。

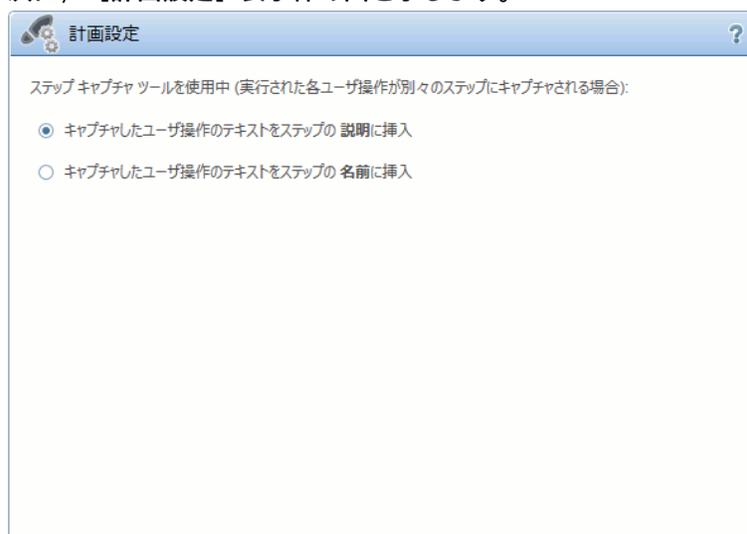
次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
割り当て	新しいホット・キーを機能に割り当てます。 機能のホット・キーを変更するには、次の手順で行います。 <ol style="list-style-type: none">1. 機能をリストで選択します。2. [割り当て] ボタンをクリックします。[ホットキーの割り当て] ダイアログ・ボックスが開きます。3. ホット・キーとして使用するキーの組み合わせを押します。4. [OK] をクリックします。
<機能リスト>	機能とそれに現在割り当てられているホット・キーのリストです。

[計画設定] 表示枠([設定] ダイアログ・ボックス)

この表示枠では、テストの計画モードの設定を行います。

次に、[計画設定] 表示枠の図を示します。



アクセス方法	 [設定] ボタン > [計画] ノードを選択します。
重要な情報	この設定を使用できるのは、ステップ・キャプチャ・セッションで【ステップごとに単一のユーザ操作】を選択した場合のみです。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
計画設定	キャプチャした操作のテキストを挿入する場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • キャプチャしたユーザ操作のテキストをステップの説明に挿入。 • キャプチャしたユーザ操作のテキストをステップの名前に挿入。

[実行設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス)

この表示枠では、実行の画面キャプチャやムービーが Sprinter で保存される時点および自動保存の設定を定義します。

次に、[実行設定] 表示枠の図を示します。



アクセス方法	 [設定] ボタン > [実行] ノードを選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • 画面キャプチャを管理する [実行設定] 表示枠のオプションは、パワー・モードで実行されたテストにのみ適用されます。また、この設定によって、ストーリーボードでの操作表示で利用可能な画面キャプチャが決まります。詳細については、「[ストーリーボード] ウィンドウ」(135ページ)を参照してください。 • Sprinter は、実行の各操作のイメージを一時的にキャプチャして保存します。[実行] 表示枠のオプションによって、実行結果に保存するキャプチャと破棄するキャプチャが決まります。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

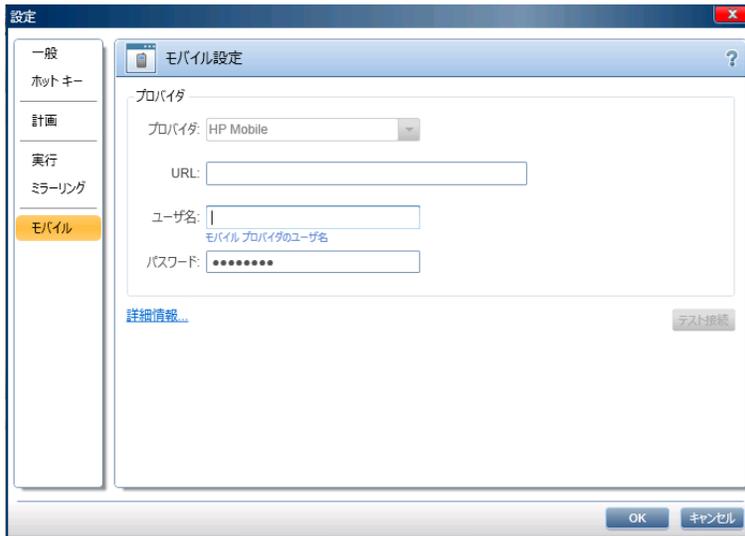
UI 要素	説明
テスト中にすべての画像をキャプチャ	各ユーザ操作について、アプリケーションの画面キャプチャが保存されます。  パワー・モードで実行されたテストにのみ該当します。 注: すべての画像をキャプチャすると、不具合を送信する際にかかる時間が長くなります。
失敗したテストのすべての画像をキャプチャ	失敗した実行の各ユーザ操作について、アプリケーションの画面キャプチャが保存されます。  パワー・モードで実行されたテストにのみ該当します。
失敗したステップのすべての画像をキャプチャ (ステップ単位のテストのみ)	失敗したすべてのステップについて、アプリケーションの画面キャプチャが保存されます。  パワー・モードで実行されたテストにのみ該当します。
画像をキャプチャしない	アプリケーションの画面キャプチャは保存されません。  パワー・モードで実行されたテストにのみ該当します。
キャプチャ画像のサイズ (%)	実際のサイズに対するキャプチャ画像のサイズの割合を設定します。  パワー・モードで実行されたテストにのみ該当します。
キャプチャ画像の品質 (%)	キャプチャ画像の品質の割合を設定します。  パワー・モードで実行されたテストにのみ該当します。
自動保存を <値> 分おきに行う	実行中に Sprinter でテストを自動的に保存する頻度を指定します。

[モバイル設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス)

この表示枠では、モバイル・テストのプロバイダ・アカウントを設定します。

 モバイルの対象となるのは、パワー・モードで実行されたテストだけです。

次に、HP Mobile プロバイダの [モバイル設定] 表示枠の図を示します。



アクセス方法	 [設定] ボタン > [モバイル] ノードを選択します。
参照情報	<ul style="list-style-type: none">• 「パワー・モードで実行するテストの準備方法」(142ページ)• 「HP Mobile Center を使用してモバイル・アプリをテストする方法」(73ページ)
重要な情報	<p>HP Mobile によるテストを実行するには、HP Mobile Center サーバをセットアップする必要があります。詳細については、HP Mobile Center のヘルプ・サイトを参照してください。</p> <p>HP Mobile との統合では、次のシステム要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• コンピュータ・プロセッサ : 1.6 GHz 以上• オペレーティング・システム : 32 ビット版または 64 ビット版 Windows 7 (SP1)• メモリ : 2 GB 以上 <p>注: 複数のテクノロジーを使用するアプリケーションのテストや、自動画面ムービー録画オプションを使用して実行セッション中にムービーを録画する場合、メモリの増設が必要になります。</p> <ul style="list-style-type: none">• ハード・ディスク・ドライブ : 5400 RPM• 色の設定 : ハイカラー (16 ビット), 解像度 1024 x 768 以上• グラフィック・カード : 64 MB のビデオ・メモリ搭載のグラフィック・カード• ハードディスクの空き容量 : アプリケーション・ファイルおよびフォルダ用に 1180 MB の空き容量 <p>注: また、システム・ディスク (オペレーティング・システムがインストールされているディスク) に、さらに 1 GB の空き容量が必要です。</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
プロバイダ	モバイル・プロバイダの名前。
URL	モバイル・プロバイダの URL。例 : http://yourServerName:8080
ユーザ名	モバイル・プロバイダのユーザ名。
パスワード	モバイル・プロバイダのパスワード。
テスト接続	モバイル・プロバイダへの接続をテストします。

トラブルシューティングと制限事項 - 一般

ここでは、Sprinter のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

一般

- **Windows 8, 8.1 での添付ファイルの表示と UAC** : 添付ファイルを標準設定の Windows プログラムで開く設定にしている場合、UAC が有効になっている Windows 8 または 8.1 環境では添付ファイルは開けません。

Sprinter統合

• Unified Functional Testing

- Sprinter 12.50 は UFT 12.51 と同一マシン上にインストールできます。Sprinter のテストは、UFT が稼働中はパワー・モード で実行できません。また、Sprinter がパワー・モード で稼働している間は UFT は稼働できません。
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Mercury Interactive\QuickTest Professional\MicTest\ の下に UFT レジストリ・キー AbortIfHangInSendData を手動で入力している場合、Sprinter 12.50 のインストールで競合が発生することがあります。
回避策 : UFT 12.51 が稼働するマシンでは、Sprinter のインストール後にこのレジストリを手動で追加してください。

Sprinter Agent のタイムアウト

ステップ・キャプチャまたはテストの実行の開始時、そのマシンで初めて操作を実行する場合、Sprinter Agent が応答しない、というメッセージが表示されます。所定の時間が経過してもエージェントの初期化が完了しないことを示します。

回避策 1 : (マシンごと)

何回か操作を繰り返します。問題が解決されない場合は、回避策 2 を試してください。

回避策 2: (マシンごと)

1. Sprinter を終了します。
2. エージェントの初期化時間を長く設定します。Sprinter の **bin** フォルダにある **Sprinter.exe.config** ファイルを開き、Initialize:80 というエントリを探します。大きな値を設定します (Initialize:280 など)。
3. Sprinter を起動し、問題があった操作を行います (ステップのキャプチャまたはテストの実行の開始)。
4. 操作が問題なく実行されたら、上記で変更した **Sprinter.exe.config** ファイルを開きます。元の値 (Initialize:80) に戻します。

Sprinter ポート

Sprinter の標準設定では、実行時にポートを選択します。Sprinter がエージェントや他のクライアントと通信する際に使用するポートは、設定が可能です。このような設定は、ファイアウォールを介して通信を行う場合に必要になります。

ポートを設定するには、**bin** フォルダにある Sprinter の設定ファイルを編集します。次の表を参照し、キーのコメントを解除してください。標準設定のポートを使用するか、カスタム・ポートを指定します。

編集するファイル	対象となる処理	コメントを解除して編集するキー
SprinterRTE.exe.config	SprinterRTE.exe プロセスで TCP リスナが使用するポート番号 (Sprinter.exe プロセスからの要求を有効化)。	<!--<add key="Port.Station.Tcp" value="9092"/>-->
SprinterAgent.exe.config	SprinterAgent.exe プロセスで TCP リスナが使用するポート番号 (Sprinter.exe プロセスからの要求を有効化)。	<!--<add key="Port.Agent.Tcp" value="9093"/>-->

変更内容は、Sprinter または Sprinter Agent を次回起動したときに適用されます (Sprinter Agent を再起動するには、トレイ・アイコンを右クリックして **[終了]** を選択し、**[スタート]** メニューから **[Sprinter Agent]** を選択します)。

それぞれの設定の詳細は、設定ファイルのコメントを参照してください。

注: この設定が適用されるのは、各マシンで Sprinter インスタンスを 1 つ実行する場合です。したがって、ターミナル・サーバまたは Citrix 環境で複数の Sprinter インスタンスを実行することはできません。

第3章: テストの作成

本章の内容

概念

- 「[テストの作成の概要](#)」(42ページ)

タスク

- 「[テストを作成する方法](#)」(42ページ)

リファレンス

- 「[\[計画\] 領域](#)」(44ページ)
- 「[テスト・リストを使用して作業するときの注意事項](#)」(46ページ)
- 「[\[開く\] ダイアログ・ボックス](#)」(46ページ)
- 「[\[保存\] ダイアログ・ボックス/ \[名前を付けて保存\] ダイアログ・ボックス](#)」(47ページ)
- 「[\[定義\] グループ \(\[テスト\] タブ \)](#)」(48ページ)
- 「[\[ステップ\] タブ](#)」(52ページ)
- 「[\[アプリケーションの選択\] ダイアログ・ボックス](#)」(57ページ)
- 「[\[キャプチャ\] サイドバー](#)」(59ページ)
- 「[\[キャプチャされたステップ\] サイドバー](#)」(60ページ)

テストの作成の概要

Sprinterの**計画**モードでは、テストをSprinterで直接作成および編集し、ファイル・システムに保存することができます。ステップの作成と編集は、手動で行う場合は**[ステップ] タブ**を使用します。また、**[ステップ キャプチャ]**ではユーザ操作からステップを自動生成できます。作成したステップには、画面キャプチャや添付ファイルを追加できます。さらに、各ステップの入力パラメータの定義が可能です。

タスクの詳細については、[「テストを作成する方法」\(42ページ\)](#)を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については、[「\[計画\] 領域」\(44ページ\)](#)を参照してください。

テストを作成する方法

ここでは、Sprinterでテストを作成および管理する手順について説明します。

このタスクは次の手順で構成されています。

- [前提条件](#)
- [テストを新規作成します。](#)
- [既存のテストを開く](#)
- [手動でのステップの追加と編集](#)
- [\[ステップ キャプチャ\] でステップを自動的に追加](#)
- [ステップ・パラメータの管理](#)
- [ステップの添付ファイルの管理](#)
- [テストの保存](#)

前提条件

必要なユーザ・アクセス権があることを確認してください。ツールバーに計画モード  であることが表示されていることを確認します。

テストの新規作成

[計画] 領域にある [新規] ボタン  をクリックします。[テスト] リストに新しいテストが追加されます。

既存のテストを開く

[計画] 領域にある [開く] ボタン  をクリックします。

手動でのステップの追加と編集

[ステップ] タブでは、次の操作を実行できます。

- テストの追加, 編集, 移動, 削除
- Excel または CSV ファイルからのステップのインポート
- リッチテキスト編集機能によるステップの書式設定
- 画面キャプチャと添付ファイルの追加
- ステップへのパラメータの挿入

詳細については、「[\[ステップ\] タブ](#)」(52ページ)を参照してください。

注: [説明] など、リッチテキストをサポートするフィールドの入力は、2500文字までに制限することをお勧めします。

【ステップ キャプチャ】でステップを自動的に追加

【ステップ】タブでテストするアプリケーションを選択して【ステップ キャプチャ】ボタンをクリックし、アプリケーション内のナビゲーションや一般的なユーザ操作を実行します。詳細については、「[【ステップ】タブ](#)」(52ページ)を参照してください。

Sprinter は実行した操作をキャプチャし、これをステップに変換します。【キャプチャされたステップ】サイドバーでは、1つのユーザ操作を1つのステップに変換するオプションと、複数のユーザ操作をステップにグループ化するオプションのいずれかを選択できます。詳細については、「[【キャプチャされたステップ】サイドバー](#)」(60ページ)を参照してください。

ステップ・パラメータの管理

【テスト】タグの【パラメータ】表示枠で、テストにパラメータを追加します。追加したパラメータは、【ステップ】タブでステップに関連付けることができます。

【パラメータ】表示枠の詳細については、「[【パラメータ】表示枠（計画モードの【定義】グループ）](#)」(50ページ)を参照してください。

ステップの添付の管理

テストの添付ファイルを追加または削除するには、【テスト】タブの【添付】表示枠を使用します。

【添付】表示枠の詳細については、「[【添付ファイル】表示枠（計画モードの【定義】表示枠）](#)」(51ページ)を参照してください。

Application Lifecycle Managementでのテストの保存

【テスト】表示枠で、次のいずれかの手順を実行します。

- 【保存】ボタンをクリックします。テストを初めて保存する場合は、【保存】ダイアログ・ボックスが開きます。
- 【保存】 > 【名前を付けて保存】を選択します。【名前を付けて保存】ダイアログ・ボックスが開いたら、テストに別の名前を指定して保存します。

【保存】ダイアログ・ボックスと【名前を付けて保存】ダイアログ・ボックスについては、「[【保存】ダイアログ・ボックス/【名前を付けて保存】ダイアログ・ボックス](#)」(47ページ)を参照してください。

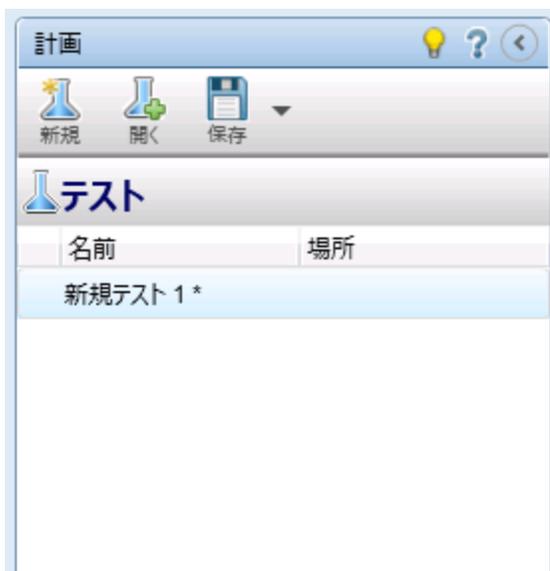
【計画】領域

この領域では、テストを作成、オープン、保存します。

【計画】領域で実行できるタスクを次に示します。

- [「テストを作成する方法」](#) (42ページ)

次に、【計画】領域の図を示します。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Sprinter を起動します。[ようこそ] ウィンドウが開く場合は閉じません。 2. Sprinter タイトルバーの [計画] をクリックします。
参照情報	「テスト・リストを使用して作業するときの注意事項」(46ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
	新しいテストを作成し、 [テスト] リストに追加します。
	既存のテストを [テスト] リストに追加します。
	<p>「 [保存] ダイアログ・ボックス/ [名前を付けて保存] ダイアログ・ボックス」 (47ページ参照) が開きます。このダイアログ・ボックスでは、項目を [テスト] リストに保存できます。</p> <p>ショートカット・キー： Ctrl + S</p> <p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保存： 選択したテストを保存します。 • 名前を付けて保存： 選択したテストのコピーを指定した場所に保存します。 <p>注： テストを複数選択している場合、上記の保存オプションは無効になります。</p>
名前	開いているテストのリストです。 注：

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • テストを選択すると、[詳細] 表示枠にテストの定義グループが表示されます。詳細については、「[定義] グループ ([テスト] タブ)」(48ページ)を参照してください。 • テストの変更が保存されていない場合、名前の隣にアスタリスクが表示されます。 • テストの名前の隣に警告記号  がある場合、テストの定義または [ステップ] タブの定義に問題があることを示します。このテストを選択し、[定義] グループまたはステップを表示すると、警告の原因になっているノードの隣に警告記号が表示されます。ノードを選択すると、警告メッセージに関して表示される定義を確認できます。詳細については、「[定義] グループ ([テスト] タブ)」(48ページ)を参照してください。
<p><テストのショートカット・メニュー (右クリック) オプション></p>	<p>次のオプションは、テストをリストから選択した後、ショートカット・メニューから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 削除：選択したテストを [テスト] リストから削除します。 • 保存：選択したテストを保存します。 • 名前を付けて保存：選択したテストのコピーを指定した場所に保存します。
	<p>表示/非表示： [計画] 領域を表示または非表示にします。</p>

テスト・リストを使用して作業するときの注意事項

- テストの名前の隣に警告記号  がある場合、テストの定義または **[ステップ]** タブの定義に問題があることを示します。このテストを選択し、**[定義]** グループまたはステップを表示すると、警告の原因になっているノードの隣に警告記号が表示されます。ノードを選択すると、警告メッセージに関して表示される定義を確認できます。詳細については、「[\[定義\] グループ \(\[テスト\] タブ \)](#)」(48ページ)を参照してください。
- テストの横に鍵の記号  は、ファイル・システム上の別のユーザがロックしている状態を示します。
- **[テスト]** リストのすべての機能の詳細な説明については、「[\[計画\] 領域](#)」(44ページ)を参照してください。

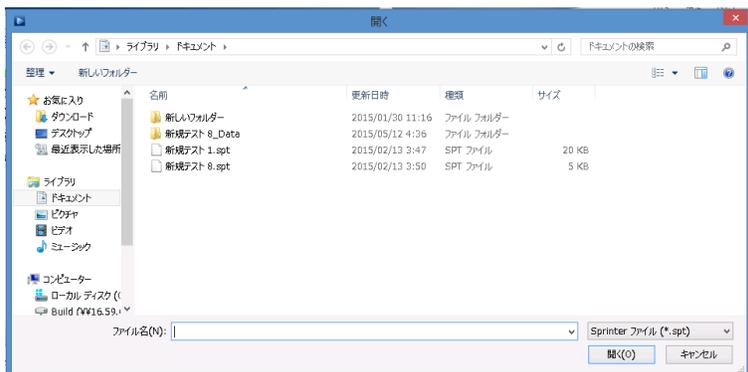
[開く] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テストを開きます。テストは、ファイル・システムまたはネットワークから開きます。表示するテストをフィルタ処理すれば、選択の対象を絞り込むことができます。

[開く] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- [「テストを作成する方法」](#) (42ページ)

次に、**【開く】** ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法

【計画】 領域で **【開く】** をクリックします。

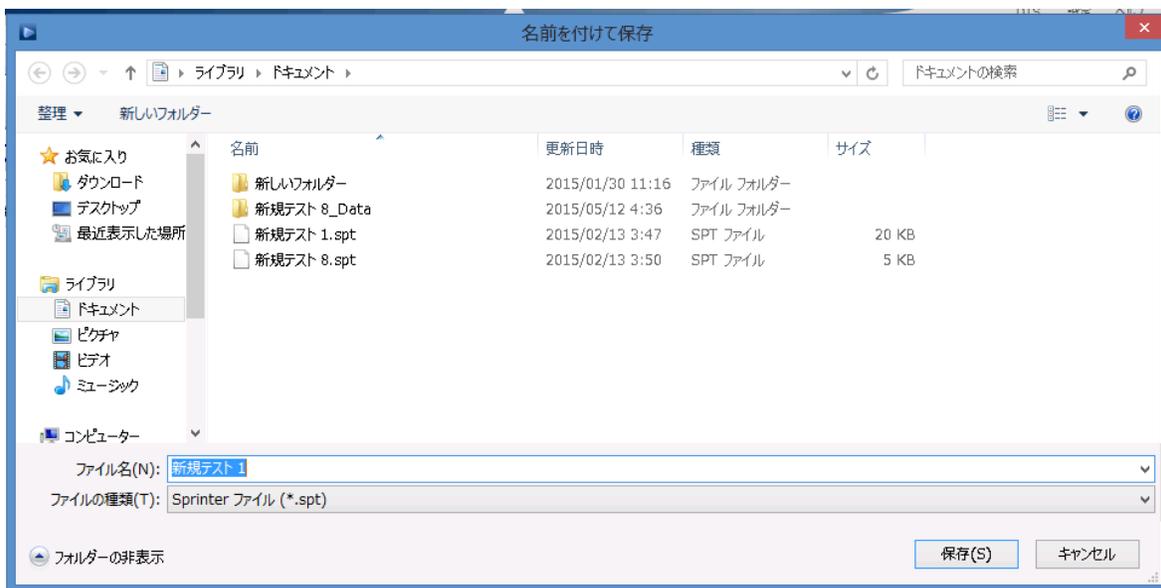
【保存】 ダイアログ・ボックス/ 【名前を付けて保存】 ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テストの保存先を選択します。

【保存/名前を付けて保存】 ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- [「テストを作成する方法」\(42ページ\)](#)

次に、**【名前を付けて保存】** ダイアログ・ボックスの図を示します。



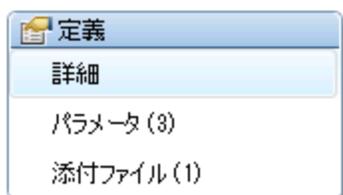
アクセス方法	<p>【計画】領域で、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 【保存】をクリックするか、【CTRL + S】を押します。・ 【保存】 > 【名前を付けて保存】を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">・ 【保存】ダイアログ・ボックスには、【名前を付けて保存】ダイアログ・ボックスと同じオプションが表示されます。・ テストを初めて保存する場合は、【保存】ダイアログ・ボックスが開きます。・ 【名前を付けて保存】ダイアログ・ボックスでは、テストに別の名前を指定できません。

【定義】グループ（【テスト】タブ）

計画モードの【定義】グループは、メイン・ウィンドウの【テスト】タブの左側に表示されます。
このグループには次の表示枠があります。

- ・ 「【詳細】表示枠（計画モードの【定義】グループ）」(49ページ)
- ・ 「【パラメータ】表示枠（計画モードの【定義】グループ）」(50ページ)
- ・ 「【添付ファイル】表示枠（計画モードの【定義】表示枠）」(51ページ)

【パラメータ】ノードと【添付ファイル】ノードでは、選択したテストに含まれる項目の数がカッコ内に表示されます。



[詳細]表示枠(計画モードの[定義]グループ)

この表示枠には、テストの詳細が表示されます。

[一般設定]表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- 「[テストを作成する方法](#)」(42ページ)

次に、[詳細]表示枠の図を示します。

アクセス方法	次の作業を行います。 <ol style="list-style-type: none">1. [計画]領域で、[テスト]リストからテストを選択します。2. 右側の表示枠にある[テスト]タブをクリックします。3. [定義] > [詳細]ノードを選択します。
重要な情報	テストの[詳細]表示枠には、読み取り専用の[設計者]フィールドがあります。

カーソルをユーザ・インタフェース要素上に移動すると、説明が表示されます。

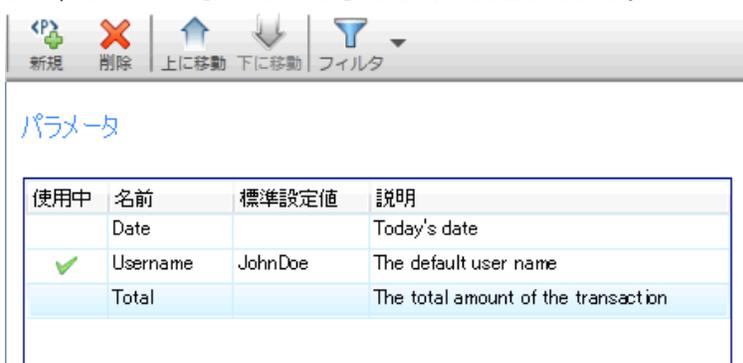
[パラメータ]表示枠(計画モードの[定義]グループ)

この表示枠では、パラメータの作成と詳細情報の編集を行います。この表示枠には既存のパラメータが表示されるので、値を編集できます。

[パラメータ]表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- 「[テストを作成する方法](#)」(42ページ)

次に、テストの [パラメータ] 表示枠の図を示します。



アクセス方法	次の作業を行います。 <ol style="list-style-type: none">1. [計画] 領域で、[テスト] リストからテストを選択します。2. 右側の表示枠にある [テスト] タブをクリックします。3. [定義] > [パラメータ] ノードを選択します。
---------------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	新しい入力パラメータを追加します。
	選択したパラメータがリストから削除されます。
	選択したパラメータをリスト内で上に移動します。
	選択したパラメータをリスト内で下に移動します。
	指定したテキスト文字列に基づいて、パラメータ・リストをフィルタ処理します。 注: テキストにはワイルドカード (*) を使用できます。

UI 要素	説明
使用中	テストでパラメータが使用されているかどうかを示します。
名前	パラメータの名前。
標準設定値	入力パラメータの標準設定の値
説明	パラメータの説明と目的を示します。

[添付ファイル] 表示枠(計画モードの[定義] 表示枠)

この表示枠では、テストで使用する添付ファイルを表示し、添付ファイルを管理できます。

[添付ファイル] 表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- 「[テストを作成する方法](#)」(42ページ)

次に、[添付ファイル] 表示枠の図を示します。



添付ファイル

名前	説明
NTUSER.DAT.LOG	
index.dat	

アクセス方法	説明
	<p>次の作業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [計画] 領域で、[テスト] リストからテストを選択します。 2. 右側の表示枠にある [テスト] タブをクリックします。 3. [定義] > [添付ファイル] ノードを選択します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	リストに添付ファイルを追加します。
	添付ファイルのファイル・タイプに関連付けられた外部アプリケーションを使って、選択した添付が開きます。

UI 要素	説明
	注: 添付を開くには、関連付けられたアプリケーションがコンピュータにインストールされている必要があります。
	選択した添付がリストから削除されます。
名前	添付ファイルの名前。
説明	添付の説明がテキストで表示されます。

[ステップ] タブ

このタブでは、テストのステップを表示、編集、移動、削除します。また、添付ファイル、画面キャプチャの追加も可能です。

[ステップ] タブで実行できるタスクを次に示します。

- [「テストを作成する方法」\(42ページ\)](#)

次に、テストの [ステップ] タブの図を示します。



アクセス方法	次の作業を行います。 <ol style="list-style-type: none"> 1. [計画] 領域で、[テスト] リストからテストを選択します。 2. [ステップ] タブをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されている Sprinter のウィンドウやカラムのサイズを変更して、情報がすべて表示されるようにすることができます。 • 表示されるカラムを選択するには、カラム・ヘッダ領域を右クリックします。 • ステップのパラメータは << パラメータ名 >> で示されます。[パラメータ] リストから削除したパラメータは、< パラメータ名 > と表示されます。
参照情報	「[キャプチャ] サイドバー」(59ページ)

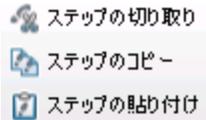
【ステップ】タブには、リボンとステップのグリッドが表示されます。

【ステップ】タブ - リボン

リボンには、【ステップ】、【フォント】、【段落】、【検索】の各セクションがあります。

【ステップ】セクション

リボンの【ステップ】セクションでは、テストのステップを管理します。次の表で、ユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	ステップ・グリッドに新しいステップを追加します。 ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。 <ul style="list-style-type: none">現在のステップの後にステップを追加 (標準設定) (ALT+N)現在のステップの前にステップを追加 (SHIFT+ALT+N)すべてのステップの後にステップを追加 (CTRL+ALT+N)
	ステップ・キャプチャ・セッションを開始します。通常の実行セッションと同様に、アプリケーションのナビゲーションとユーザ操作の実行を行います。実行したユーザ操作がキャプチャされ、ステップに変換されて、ステップ・グリッドで選択したステップの後に追加されます。 ステップ・キャプチャ・セッション で利用できる機能の詳細は、「 【キャプチャされたステップ】サイドバー 」(60ページ)を参照してください。
	ステップの切り取り/ステップのコピー/ステップの貼り付け ：単一のステップまたは複数のステップの切り取り、コピー、貼り付けを行います。
	上に移動/下に移動 ：選択したステップをステップ・グリッド内で上下に移動します。
	ステップの削除 ：選択したステップを削除します。
	パラメータの挿入 ：「 【パラメータの挿入】ダイアログ・ボックス 」(56ページを参照)が開きます。【説明】フィールドまたは【期待される結果】フィールドの現在のカーソル位置にパラメータを挿入します。
	添付ファイルの追加 ：選択したステップに、ファイル・システム上のファイルを添付として追加します (テストのみ)。
	画面キャプチャ ：選択したステップに画面キャプチャを追加します (ALT+C)。 ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。 <ul style="list-style-type: none">画面キャプチャの取得：【キャプチャ】サイドバーが開きます。デスクトップの画面キャプチャを取得し、選択したステップにアタッチします。詳細については、「【キャプチャ】サイドバー」(59ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● 画面キャプチャの削除：選択したステップから、アタッチされている画面キャプチャを削除します。
	<p>ステップのインポート：Excel ファイルまたは CSV ファイルからステップをインポートします。</p> <p>インポート・ファイルは、次のガイドラインに準拠する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ワークブックにある最初のシートにあるテーブルが対象になります。 ● ステップをテーブル構造で宣言する必要があります。一番上にヘッダがあり、その下にステップのデータが続く構造です。 ● テーブルのヘッダと [ステップ] 表示枠のカラムが一致するように指定します。CSV ファイルの場合、マシンのロケールで共通区切り文字として定義された文字で、ヘッダ行とデータ行が区切られていることを確認します。 ● 標準カラム（ [名前] , [説明] , [期待される結果] ）は、英語またはローカル言語のいずれかで指定できます。 ● 英語以外のオペレーティング・システム環境から、カンマ以外の区切り文字を使用した CSV ファイルをインポートすると、すべてのデータが1つのカラムにインポートされてしまいます。たとえばドイツ語の Windows 7 の場合、標準設定の区切り文字はセミコロンですが、無視されます。 <p>回避策：標準設定の区切り文字をカンマに変更します。 [コントロールパネル] > [地域と言語] > [追加の設定] を選択します。 [区切り記号] をカンマに変更します。</p>

【フォント】セクション

リボンの【フォント】セクションでは、リッチテキスト機能を使ってフィールド内のテキストの書式設定を行います。これには、[説明] フィールド、[期待される結果] フィールド、[メモ] タイプのユーザ定義フィールドが含まれます。このセクションでは、次の標準コントロールを使用できません。

- フォントの選択
- フォント・サイズの設定
- フォント・サイズの調整
- 強調表示するテキストの色の設定
- テキストの色の設定
- テキストの字体：太字/斜体/下線
- テキストの書式の削除

【段落】セクション

リボンの【段落】セクションでは、[説明] フィールドと [期待される結果] フィールド内のテキストに段落プロパティを設定します。このセクションでは、次の標準コントロールを使用できます。

- 箇条書き項目の作成
- 番号付き項目の作成
- 左右インデント
- 左揃え、中央に配置、右揃え、両端揃え

【検索】セクション

リボンの【検索】セクションでは、ステップに関連するテキストを検索します。次の表で、ユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<検索テキスト>	ステップ内で検索するテキスト。【名前】フィールド、【説明】フィールド、【期待される結果】フィールド、ユーザ定義のフィールドのテキストを検索できます。
	上方向に検索/下方向に検索：検索方向を選択します。
単語単位で照合	単語単位の検索を実行します。

【ステップ】タブ-ステップ・グリッド

【ステップ】グリッドには、テストがグリッドで表示されます。次に、ユーザ・インタフェースの詳細を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	画面キャプチャ ：選択したステップに画面キャプチャがアタッチされているかどうかを表示します。画面キャプチャがアタッチされていると、【画面キャプチャ】アイコン  が表示されます。
名前	ステップの名前です。 標準設定値（新しいステップ） ：ステップ <番号>
説明	ステップの説明がテキストで表示されます。 ヒント ：このフィールドにはリッチテキストを入力できます。
期待される結果	ステップで期待される結果を指定します。 ヒント ：このフィールドにはリッチテキストを入力できます。
添付ファイル	ステップにアタッチされているファイルのリストです。
<ショートカット・メニュー（右クリック）オプション> - 【ステップ】カラム	ステップ・グリッドで【ステップ番号】カラムを右クリックすると、次のオプションが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ステップの切り取り (CTRL + X) ステップのコピー (CTRL + C) ステップの貼り付け (CTRL + V) 現在のステップの前にステップを追加 (SHIFT + ALT + N) 現在のステップの後にステップを追加 (ALT + N) ステップの削除 (CTRL + DEL)
<ショートカット・メニュー（右クリック）オプション> - 編集可能なテ	ステップ・グリッドで編集可能なテキストを右クリックすると、次のオプションが表示されます。

UI 要素	説明
キスト・カラム	<ul style="list-style-type: none">・ 切り取り・ コピー・ 貼り付け

[パラメータの挿入] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ステップに挿入してステップで使用するパラメータをリストから選択します。また、新しいパラメータをリストに追加することも可能です。

[パラメータの挿入] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- ・ [「テストを作成する方法」\(42ページ\)](#)

次に、[パラメータの挿入] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法	次の作業を行います。 <ol style="list-style-type: none">1. ステップのテーブル内で、ステップの 説明 カラムまたは 期待される結果 カラムをクリックします。2. パラメータの挿入 をクリックします。
参照情報	「[新規パラメータ] ダイアログ・ボックス」(56ページ)

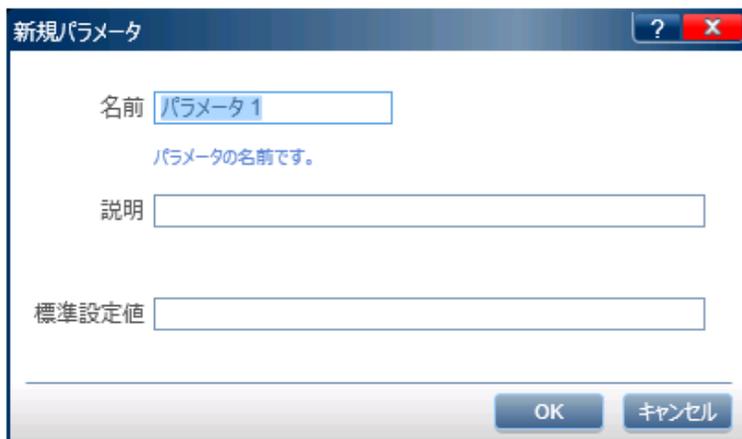
[新規パラメータ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規パラメータを定義し、利用可能なパラメータのリストに追加します。

[新規パラメータ] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- ・ [「テストを作成する方法」\(42ページ\)](#)

次に、[新規パラメータ] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法	「 [パラメータの挿入] ダイアログ・ボックス 」(56ページ)で [新規] をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">パラメータは、「[パラメータ] 表示枠 (計画モードの [定義] グループ)」(50ページを参照)に直接追加できます。

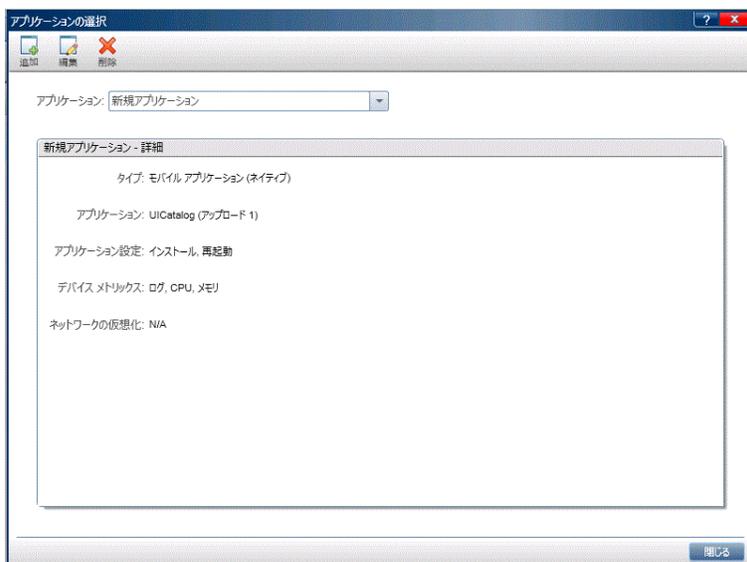
【アプリケーションの選択】ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テストで使用するアプリケーションを定義または選択できます。また、アプリケーションを追加、変更、削除することも可能です。

【アプリケーションの選択】ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- [「テストを作成する方法」\(42ページ\)](#)

次の図は、定義済みのアプリケーションが存在する場合の【アプリケーションの選択】ダイアログ・ボックスです。



<p>アクセス方法</p>	<p>次の作業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計画モードに切り替えます。 2. テストを開くか、新規作成します。 3. [ステップ] タブを選択します。 4. [ステップ キャプチャ] ボタンを展開し、ドロップダウン・リストから[アプリケーションの選択] を選択します。
<p>重要な情報</p>	<p>Sprinter でアプリケーション・リストが保持される仕組みの詳細については、「ユーザ情報が保持される仕組み」(27ページ)を参照してください。</p>
<p>参照情報</p>	<p>このダイアログ・ボックスには、実行モード時のアプリケーション管理機能に類似した機能が含まれています。詳細については、「アプリケーション」(140ページ)を参照してください。</p>

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
	<p>「[アプリケーションの追加/編集] ダイアログ・ボックス」(146ページを参照)が開きます。このダイアログ・ボックスでは、アプリケーション・リストに追加する新しいアプリケーションを手動で定義できます。</p>
	<p>「[アプリケーションの追加/編集] ダイアログ・ボックス」(146ページを参照)が開きます。このダイアログ・ボックスでは、アプリケーション・リストで選択したアプリケーションの詳細情報を編集できます。</p>
	<p>選択したアプリケーションがアプリケーション・リストから削除されます。</p>
<p>アプリケーション</p>	<p>利用可能なアプリケーションのリストです。[追加] , [編集] , [削除] の各ボタンを使</p>

UI 要素	説明
	用して、アプリケーション・リストを管理します。 事前に定義したアプリケーションを使用するには、アプリケーション名の最初の文字を入力し、表示されたリストからアプリケーションを選択します。 Sprinter でアプリケーション・リストが保持される仕組みの詳細については、「 ユーザ情報が保持される仕組み 」(27ページ)を参照してください。
アプリケーションの詳細領域	アプリケーション・リストで選択したアプリケーションの情報が表示されます。[編集] ボタンをクリックすると、「 [アプリケーションの追加/編集] ダイアログ・ボックス 」(146ページを参照)が開きます。ここで詳細を編集します。

[キャプチャ] サイドバー

このサイドバーでは、スナップショットをテストに追加します。

[キャプチャ] サイドバーで実行できるタスクを次に示します。

- 「[テストを作成する方法](#)」(42ページ)

次に、[キャプチャ] サイドバーの図を示します。



アクセス方法 - ステップ・スナップショット	ステップ・スナップショットを追加するには、次の手順で行います。 <ol style="list-style-type: none">1. [計画] 領域で、[テスト] リストからエントリを選択します。2. 右の表示枠の [ステップ] タブをクリックします。3. [画面キャプチャ] ボタンをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">• サイドバーを閉じるには、[キャンセル]  ボタンをクリックします。• サイドバーを開いた位置にロックするには、押しピン  アイコンをクリックします。• サイドバーの位置を変更するには、サイドバーのヘッダをドラッグします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	キャプチャ ：現在の画面をキャプチャし、サイドバーを閉じます。
	画面キャプチャの注釈付け ：画面ショットをキャプチャし、注釈ワークスペースで開きます。詳細については、「 [注釈ツール] サイドバー 」(122ページ)を参照してください。
	キャンセル ：画面キャプチャを実行しないで、キャプチャ・セッションを終了します。

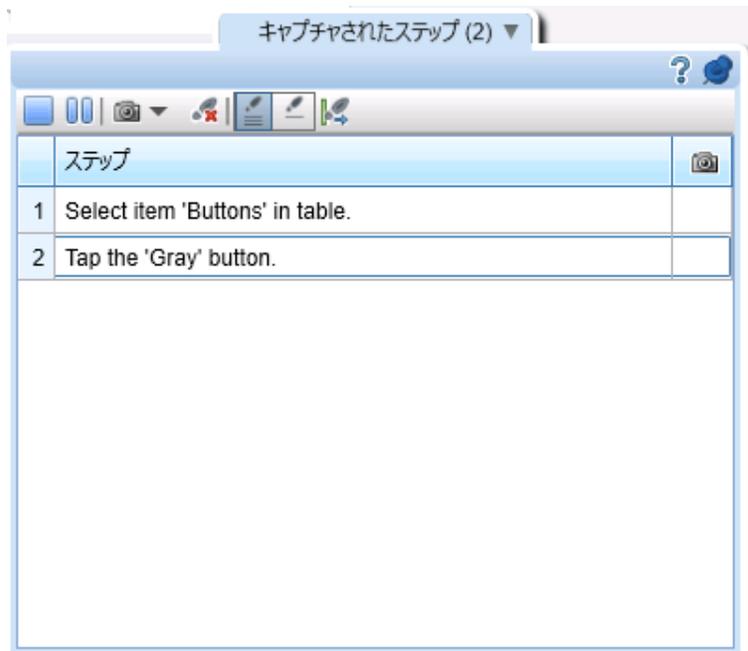
[キャプチャされたステップ] サイドバー

このサイドバーでは、ステップ・キャプチャ・セッションで実行したユーザ操作のステップが表示されます。

[**キャプチャされたステップ**] サイドバーで実行できるタスクを次に示します。

- [「テストを作成する方法」\(42ページ\)](#)

次に、[**キャプチャされたステップ**] サイドバーの図を示します。



アクセス方法

計画モードで、[ステップ] タブの [**ステップ キャプチャ**] ボタンをクリックします。

- サイドバーを閉じるには、 [**ステップ キャプチャ セッションの終了**]  ボタンをク

	<p>リックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サイドバーを開いた位置にロックするには、押しピン  アイコンをクリックします。 • サイドバーの位置を変更するには、サイドバーのヘッダをドラッグします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • このサイドバーに表示されるステップは読み取り専用です。ステップを編集するには、ステップ・キャプチャ・セッションを終了してから、「[ステップ] タブ」(52ページ)でステップを編集します。 • 標準設定では、[ステップキャプチャ] で新しいステップを指定するまでの間、複数のユーザ操作が1つのステップに追加されます。1つのユーザ操作に新しいステップを1つ作成するには、次で説明する[ステップごとに単一のユーザ操作] ボタンをクリックします。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
	ステップ・キャプチャ・セッションの終了 ：ステップ・キャプチャ・セッションを終了し、キャプチャしたステップをステップ・グリッドに追加します。
 	<ul style="list-style-type: none"> • 一時停止：ユーザ操作のキャプチャを一時停止します。 • キャプチャの再開：ユーザ操作のキャプチャを再開します。
	<p>画面キャプチャの管理ツール：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画面キャプチャ：画面をキャプチャし、サイドバーで選択したステップにアタッチします。 • 注釈付き画面キャプチャ：[注釈ツール] サイドバーが開きます。サイドバーで選択したステップに、注釈を付けた画面キャプチャをアタッチします。詳細については、「[注釈ツール] サイドバー」(122ページ)を参照してください。 • 画面キャプチャの削除：選択したステップの画面キャプチャが削除されます。
	ステップの削除 ：選択したステップをステップ・グリッドから削除します。
	ステップごとに複数のユーザ操作 ：すべてのユーザ操作を最後のステップに追加します。
	ステップごとに単一のユーザ操作 ：1つのユーザ操作に新しいステップを1つ作成します。
	<p>新しいステップの開始：新しいステップを作成し、これから実行するユーザ操作をすべて追加します。</p> <p>注：このボタンが表示されるのは、[ステップごとに複数のユーザ操作] を選択した場合のみです。</p>
【ステップ】表示領域	<p>ステップについて、次の内容がグリッドで表示されます。</p> <p>ステップ番号：ステップの通番です。</p> <p>ステップ：実行したユーザ操作の説明です。標準設定では、ステップ・キャプチャ・セッションが終了すると、ステップの説明領域にこのテキストが追加されます。また、ステップの</p>

UI 要素	説明
	<p>【名前】 フィールドに追加する設定も可能です。詳細については、「【計画設定】表示枠（【設定】ダイアログ・ボックス）」(36ページ)を参照してください。ステップ名は変更も可能です。</p> <p>キャプチャ：ステップに画面キャプチャがアタッチされている場合、アイコン  が表示されます。アイコンが表示されていない場合、画面キャプチャはありません。</p>

第4章: テストの実行

このガイドでは、パワー・モードでのみ利用可能な機能をパワー・モード  アイコンで示します。

本章の内容

概念

- 「ステップ単位のテスト」 (64ページ)
- 「予備テスト」 (65ページ)
- 「パワー・モードの概要」 (65ページ)
- 「パワー・モードでのテストの実行」 (66ページ)

タスク

- 「テストをSprinter で実行する方法」 (67ページ)
- 「ステップの操作方法」 (69ページ)
- 「ステップのステータスの設定方法」 (70ページ)
- 「実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法」 (71ページ)
- 「予備テストをSprinter で実行する方法」 (72ページ)
- 「HP Mobile Center を使用してモバイル・アプリをテストする方法」 (73ページ)

リファレンス

- 「[実行セットアップ] 領域」 (78ページ)
- 「テスト実行リストを使用して作業するときの注意事項」 (78ページ)
- 「[テスト <'テスト名'> : すべての実行] ダイアログ・ボックス」 (82ページ)
- 「[モバイルデバイスリスト] ダイアログ・ボックス」 (84ページ)
- 「[実行セットアップ] の [定義] グループ」 (85ページ)
- 「[実行制御] サイドバー」 (88ページ)
- 「[ステップ] サイドバー」 (92ページ)
- 「[テストの生成] ダイアログ・ボックス」 (101ページ)
- 「トラブルシューティングと制限事項 - テストの実行」 (102ページ)

ステップ単位のテスト

Sprinter では、テストに手動で追加したステップや外部ファイルからインポートしたステップを実行できます。

テストを実行すると、ステップが [ステップ] サイドバーに表示されます。[ステップ] サイドバーでは、次の作業を行うことができます。

- ステップを操作する
- ステップのステータスを設定する
- ステップの実際の結果を修正する
- 添付ファイルをステップに追加する
- ステップの実際の結果に画面キャプチャを追加する
- ステップの詳細を編集する
- 不具合を送信する
- ステップ内を検索する

[ステップ] サイドバーには、サブタイトル・モードがあります。このモードでは、アプリケーションの表示領域を広くして、ステップの説明を表示できるほか、1行のサブタイトル内でステップを操作したり、ステップのステータスを設定したりすることができます。

実行が終了すると、実行の実行結果への変更内容が Sprinter に保存されます。

予備テスト

パワー・モードを有効にすると、事前に定義した手順に従わなくても、アプリケーションを操作できます。アプリケーションの操作中、Sprinter は実行されたユーザ操作をキャプチャします。

キャプチャしたユーザ操作は、新しいローカル・テスト、Excel ファイルにエクスポートできます。詳細については、「[予備テストを Sprinter で実行する方法](#)」(72ページ)を参照してください。

パワー・モードの概要

Sprinter テストをパワー・モードで実行すると、Sprinter はアプリケーションの表示を調べて、そのオブジェクトを識別することができます。このため、マクロの記録と再生など、Sprinter の高度な機能が利用できるようになっています。

パワー・モードでは、すべてのユーザ操作の記録が Sprinter で保持されるため、実行の最後にリストまたはストーリーボードでユーザ操作を確認できます。また、ステップまたはユーザ操作のリストを、送信する不具合に追加して、Sprinter で不具合シナリオが自動的に作成されるようにすることも可能です。

実行の最後にユーザ操作のリストを Excel のスプレッドシートにエクスポートし、ステップとして使用できるように修正し、テストにインポートできます。実行の最後にステップのリストを Sprinter データ・ファイルにエクスポートし、Unified Functional Testing (UFT) にインポートすることも可能です。

テストの実行が終わったら、そのテスト・ステップをテンプレートとして使用して、自動的にテストを生成することができます。詳細については、「[\[テストの生成\] ダイアログ・ボックス](#)」(101ページ)を参照してください。

パワー・モードは、このような高度なテスト機能を利用する場合に使用します。パワー・モードを使用するには、「[メイン・ウィンドウ](#)」(29ページ)で [パワー・モード] ボタンをクリックし、「[\[パワー・モード\] グループ](#)」(143ページ)で各ノードを設定します。

詳細については、「[パワー・モード](#)」(139ページ)および「[パワー・モードでのテストの実行](#)」(66ページ)を参照してください。

パワー・モードでのテストの実行

Sprinter で手動テストを実行するときは、テストをパワー・モード  で実行する必要があるかどうかを判断しなければなりません。

次の表には、テストをパワー・モードで実行する必要があるかどうかを判断するときに役立つパワー・モードの機能がまとめられています。

機能	説明
アプリケーション	<p>パワー・モードを使用するテストに対してアプリケーションを指定する必要があります。テストに対してアプリケーションを指定すると、テストを開始するときそのアプリケーションを Sprinter で自動的にインストール、アンインストール、再起動することも可能になります。</p> <p>Sprinter には、設定および他のユーザ固有の構成が保存され、この情報が次に Sprinter を起動したときに適用されます。</p> <p>パワー・モードの多くの構成が、その構成に固有のアプリケーションに関連付けられています。</p> <p>テストに対してアプリケーションを定義するので、同じアプリケーションが定義されているすべてのテストは同じパワー・モードの構成を共有します。</p> <p>詳細については、次の項目を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• 「アプリケーション」 (140ページ)• 「ユーザ情報が保持される仕組み」 (27ページ)• 「[アプリケーション] 表示枠 ([パワー・モード] グループ) 」 (144ページ)
マクロ	<p>一連のユーザ操作を記録し、実行中に1つのコマンドとして実行することができます。詳細については、「マクロの概要」(149ページ)を参照してください。</p>
ストーリーボード	<p>テストで行ったユーザ操作を時系列表示できます。ストーリーボードには、テストの各操作の不具合、コメント、不具合メモが表示されます。詳細については、「[ストーリーボード] ウィンドウ」(135ページ)を参照してください。</p>
コメント	<p>実行に含まれるユーザ操作にコメントを追加できます。このコメントは後でストーリーボードで確認することが可能です。詳細については、「[コメント] ダイアログ・ボックス」(121ページ)および「実行結果の概要」(127ページ)を参照してください。</p>
ユーザ操作の概要	<p>テストに含まれるユーザ操作の概要を表示できます。詳細については、「[ユーザ操作] 表</p>

機能	説明
	示枠/ [ユーザ操作の概要] ダイアログ・ボックス (134ページ)を参照してください。

テストをSprinter で実行する方法

下記の手順では、テストを Sprinter で実行する方法が説明されています。

パワー・モード・アイコン  が表示されている部分は、パワー・モードが有効な場合のみ該当する内容です。

このタスクは次の手順で構成されています。

- [テストのオープン](#)
- [テスト定義の設定](#)
- [パワー・モードの設定](#)
- [実行の開始およびテストに含まれるユーザ操作の実行](#)
- [不具合の検出と送信](#)
- [テストでのマクロの使用](#)
- [実行の停止および実行結果の表示と分析](#)

テストのオープン

[実行セットアップ] 領域にある **[開く]** ボタン  をクリックします。

テストを開いたら、すぐに以降の手順に進むことができます。他のすべての手順は、テストの要件に応じて実行します。

- [実行の開始およびテストに含まれるユーザ操作の実行](#)
- [実行の停止および実行結果の表示と分析](#)

テスト定義の設定

テスト定義を設定するときは、テストや実行の詳細、パラメータ、ステップを表示および編集できます。

詳細については、「[\[実行セットアップ\] の \[定義\] グループ](#) (85ページ)を参照してください。

パワー・モードの設定

テストをパワー・モードで実行する前に、テストするアプリケーションに対してパワー・モードを設定する必要があります。パワー・モードの高度な機能を使用する必要があるかどうかを判断します。詳細については、「[パワー・モードでのテストの実行](#) (66ページ)および「[パワー・モードで実行するテストの準備方法](#) (142ページ)を参照してください。

実行の開始およびテストに含まれるユーザ操作の実行

[実行] ボタン  をクリックします。詳細については、「[メイン・ウィンドウ](#)」(29ページ)を参照してください。

- アプリケーションを起動します。

 テストをパワー・モードで実行していても、実行の開始時にアプリケーションを起動するように Sprinter を設定していなかった場合は、アプリケーションを手動で起動する必要があります。

注: アプリケーションでパワー・モードを有効にするには、実行開始時にアプリケーションを起動する設定を Sprinter で行うことをお勧めします。

- ステップ単位のテストを実行している場合、ステップを直接実行できます。
- 外部ファイルからローカル・システムにインポートしたステップを実行する手順は、「[\[ステップ\] タブ](#)」(52ページ)を参照してください。

テスト・ステップの実行については、次を参照してください。

- [「ステップの操作方法」](#) (69ページ)
- [「ステップのステータスの設定方法」](#) (70ページ)
- [「実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法」](#) (71ページ)
- テストにステップがない場合は、テストの実行を開始して、予備的なユーザ操作を実行できます。詳細については、「[予備テストを Sprinter で実行する方法](#)」(72ページ)を参照してください。

不具合の検出と送信

Sprinter では、不具合追跡システムに不具合を送信できます。また、不具合の記録を保存したり、後で不具合を送信するためにメモを作成したりできるほか、不具合の画面キャプチャを電子メールに添付することが可能です。

詳細については、「[不具合を検出および送信する方法](#)」(107ページ)を参照してください。

テストでのマクロの使用

パワー・モードでテストを実行している場合、マクロでユーザ操作を自動実行できます。

詳細については、「[マクロの記録方法と実行方法](#)」(150ページ)を参照してください。

実行の停止および実行結果の表示と分析

[実行の終了] ボタン  をクリックします。詳細については、「[\[実行制御\] サイドバー](#)」(88ページ)を参照してください。

これで、実行結果をメイン・ウィンドウで確認できます。詳細については、「[実行結果の表示方法](#)」(128ページ)を参照してください。

ステップの操作方法

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一部です。詳細については、「[テストをSprinterで実行する方法](#)」(67ページ)を参照してください。

テストに含まれるステップは、**【ステップ】** サイドバーまたは**サブタイトル**・モードで表示できません。

【ステップ】 サイドバー（標準設定モード）

【ステップ】 サイドバーには、ステップの情報がすべて表示されます。また、このサイドバーでは、ステップのステータスの設定、ステップの修正、ステップへの添付ファイルの追加といった機能をすべて使用できるほか、不具合を開くことができます。

- **【展開/折りたたみ】** ボタン  をクリックすると、ステップの展開または折りたたみが実行されます。また、ステップの見出しをダブルクリックしてステップを折りたたむこともできます。
- 標準設定では、**【ステップ】** 表示領域は**【自動展開】** に設定されているので、ステップの見出しをクリックすると、そのステップが展開されます。**【自動展開】** が選択されていない場合は、ステップの見出しをダブルクリックすると、そのステップが展開されます。
- 実行を開始すると、展開された最初のステップが**【ステップ】** 表示領域に表示されます。別の実行に切り替えると、ステータスが設定されている中で一番最後のステップが展開されます。
- ステップのステータスを **Passed** に設定すると、**【ステップ】** 表示領域がテストの次のステップに自動的に進みます。

詳細については、「[【ステップ】 サイドバー](#)」(92ページ)を参照してください。

サブタイトル・モード

サブタイトル・モードでは、各ステップの説明がサブタイトルとして画面に表示され、ステップのステータスを設定したり、添付ファイルをステップに追加したりすることができます。

- **【ステップ】** サイドバー > **【サブタイトルの表示】** ボタン  の順にクリックすると、ステップがサブタイトル・モードで表示されます。
- 実行を開始すると、サブタイトルに最初のステップが表示されます。別の実行に切り替えると、ステータスが設定されている最後のステップが表示されます。
- ステップのステータスを **Passed** に設定すると、サブタイトルがテストの次のステップに自動的に進みます。
- サブタイトルの表示は「[【サブタイトルの設定】 ダイアログ・ボックス](#)」(100ページ)で変更できます。

- ホット・キーを使用して、ステップのステータスの設定、ステップの操作、その他の機能をサブタイトル・モードで実行できます。詳細については、「[\[ホット キー設定\] 表示枠 \(\[設定\] ダイアログ・ボックス\)](#)」(35ページ)を参照してください。

詳細については、「[\[サブタイトル\] ツールバー](#)」(99ページ)を参照してください。

ステップのステータスの設定方法

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一部です。詳細については、「[テストをSprinter で実行する方法](#)」(67ページ)を参照してください。

テストのステップのステータスは、次の場所で設定できます。

- [\[ステップ\] サイドバーのツールバー](#)
- [\[サブタイトル\] ツールバー](#)
- [\[ステップ\] 表示領域](#)

[\[ステップ\] サイドバーのツールバー](#)

- テストの1つまたは複数のステップを選択し、ステータス・ボタン  のいずれかをクリックしてステップのステータスを設定します。
- 複数のステップを選択するには、CTRL キーを押しながらクリックします。
- ステップをクリックしてから、別のステップを SHIFT キーを押しながらクリックすると、その範囲のステップが選択されます。
- また、上記のボタンの隣のドロップダウン・オプションを使用して、現在のステップまでの全ステップのステータスを設定することもできます。

詳細については、「[\[ステップ\] サイドバー](#)」(92ページ)を参照してください。

[\[サブタイトル\] ツールバー](#)

- [\[ステップ\] サイドバー](#) > [\[サブタイトルの表示\] ボタン](#)  の順にクリックすると、ステップがサブタイトル・モードで表示されます。
- [\[成功\] ボタン](#) または [\[失敗\] ボタン](#)   をクリックして、現在表示されているステップのステータスを Passed または Failed に設定します。
- [\[ステップのステータス\] ボタン](#)  をクリックして、ドロップダウン・リストでステップのステータスを選択します。

詳細については、「[\[サブタイトル\] ツールバー](#)」(99ページ)を参照してください。

【ステップ】表示領域

- 【ステップ】表示領域の各ステップの見出しで【ステータス】ボタン（標準では [No Run] ） をクリックして、そのステップのステータスを設定します。
- 複数のステップを選択している場合は、選択したステップのいずれかで【ステータス】ボタンをクリックして、選択したすべてのステップのステータスを設定できます。
 - 複数のステップを選択するには、CTRL キーを押しながらクリックします。
 - 一定範囲のステップを選択するには、SHIFT キーを押しながらクリックします。

詳細については、「[【ステップ】サイドバー](#)」(92ページ)を参照してください。

実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一部です。詳細については、「[テストをSprinterで実行する方法](#)」(67ページ)を参照してください。

ステップの実際の結果の編集、ステップの追加と削除、ステップへの添付ファイルの追加を行うことができます。

このタスクは次の手順で構成されています。

- [ステップの実際の結果の編集](#)
- [ステップへの添付ファイルの追加](#)
- [ステップの詳細の編集](#)
- [ステップの追加と削除](#)

ステップの実際の結果の編集

ステップの実際の結果を編集したり、実際の結果に画面キャプチャを追加したりする作業は、次の場所で行います。

- **【ステップ】サイドバー:** 【**実際の結果**】ボタン をクリックして、ステップの実際の結果を編集したり、ステップの実際の結果に画面キャプチャを追加したりします。詳細については、「[【実際の結果】ダイアログ・ボックス](#)」(98ページ)を参照してください。
- **【サブタイトル】ツールバー:** 【**実際の結果**】ボタン をクリックして、ステップの実際の結果を編集したり、ステップの実際の結果に画面キャプチャを追加したりします。詳細については、「[【実際の結果】ダイアログ・ボックス](#)」(98ページ)を参照してください。
- **注釈ワークスペース:** 【**ツール**】サイドバーで、 【**注釈ワークスペース**】ボタンをクリックし

ます。注釈モードで**「実際の結果に保存」** ボタンをクリックすると、注釈付きの画面キャプチャがステップの実際の結果に追加されます。詳細については、「[「\[注釈ツール\] サイドバー」](#) (122 ページ)を参照してください。

ステップへの添付ファイルの追加

[ステップ] サイドバー > **「添付」** ボタン  の順にクリックして、テストのステップに添付ファイルを追加します。詳細については、「[「\[実行の添付ファイル\] ダイアログ・ボックス」](#) (90ページ)を参照してください。

ステップの詳細の編集

[ステップ] サイドバー > **「ステップの編集」** ボタン  の順にクリックして、テストのステップの名前、説明、期待される結果を編集します。詳細については、「[「\[ステップの編集\] ダイアログ・ボックス」](#) (97ページ)を参照してください。

ステップの追加と削除

[ステップ] サイドバーの隣の下向き矢印 > **「ステップの編集」** ボタン  の順にクリックし、**「ステップの編集」**、**「前に挿入」**、**「後に挿入」**、**「ステップの削除」** をクリックして、テストのステップを編集、追加、削除します。詳細については、「[「\[ステップの編集\] ダイアログ・ボックス」](#) (97ページ)を参照してください。

予備テストを Sprinter で実行する方法

パワー・モードのみが対象

下記の手順では、予備テストを Sprinter で実行する方法が説明されています。

このタスクは次の手順で構成されています。

- [予備テストの準備](#)
- [アプリケーションの予備テスト](#)
- [キャプチャしたユーザ操作の確認とエクスポート](#)

予備テストの準備

- Sprinter でテストを開きます（[「テストをSprinter で実行する方法」](#) (67ページ)を参照してください）。
- パワー・モードを有効にし、テストのアプリケーションを選択します（[「パワー・モードの設定」](#) (67ページ)のステップを参照してください）。

アプリケーションの予備テスト

実行セッションを開始し、アプリケーションに含まれるユーザ操作を実行します。実行したユーザ操作はすべて Sprinter によってキャプチャされます。ユーザ操作のキャプチャの管理と予備テストのステータス表示は、「[\[実行制御\] サイドバー](#)」(88ページ)で行います。たとえば、ユーザ操作のキャプチャを一時的に停止し、必要に応じて再開することができます。

詳細については、「[\[実行制御\] サイドバー](#)」(88ページ)を参照してください。

キャプチャしたユーザ操作の確認とエクスポート

実行セッションが完了したら、キャプチャしたユーザ操作を「[結果グループ](#)」(130ページ)の[ユーザ操作]表示枠で確認します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[ユーザ操作\]表示枠 / \[ユーザ操作の概要\] ダイアログ・ボックス](#)」(134ページ)を参照してください。

この表示枠では、キャプチャしたユーザ操作を次の形式にエクスポートできます。

- **ステップ単位の新しいローカル・テスト**：ユーザ操作を変換し、新しいテストのステップとしてインポートします。テストの詳細を編集してから保存することができます。詳細については、「[\[テストの生成\] ダイアログ・ボックス](#)」(101ページ)を参照してください。
- **Excel ファイルまたは CSV ファイル**：このファイルには、実行セッション中に実行したユーザ操作がすべて含まれます。ファイルの内容を編集してから、既存のテストにインポートできます。

HP Mobile Center を使用してモバイル・アプリをテストする方法

Sprinter の HP Mobile Center との統合機能を使用してモバイル・アプリでテストを実行します。

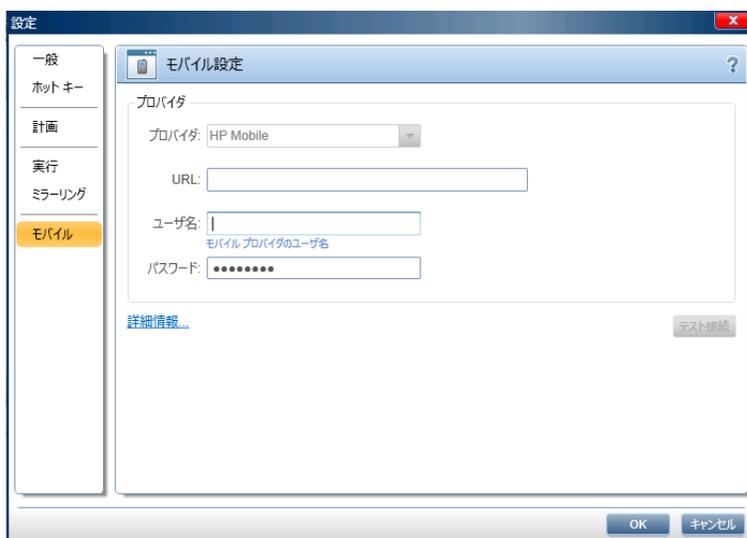
このタスクは、Sprinter でテストを実行する方法をすでに理解していることを前提としています。詳細については、「[テストをSprinter で実行する方法](#)」(67ページ)を参照してください。

前提条件

HP Mobile Center をインストールします。詳細については、[HP Mobile Center のヘルプ・サイト](#)を参照してください。

Mobile Center への接続

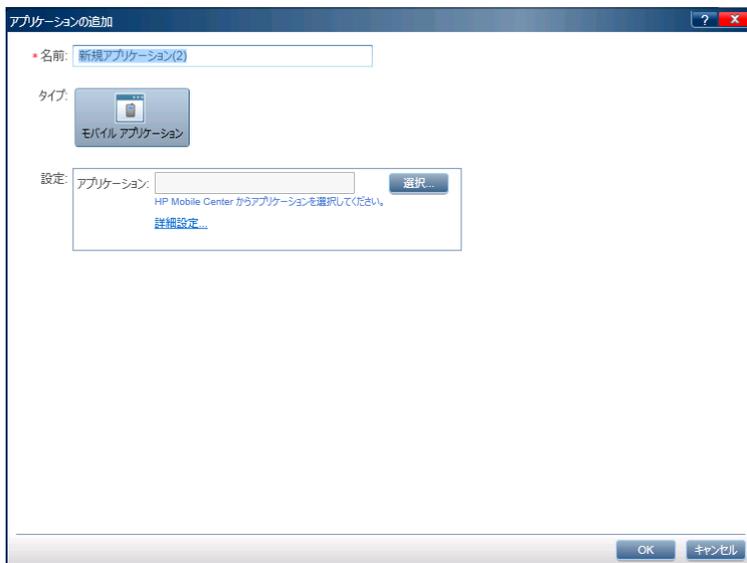
1. **[設定]** をクリックします。
2. **[モバイル]** タブで、Mobile Lab サーバのアドレスとログイン詳細情報を入力します。



計画モード

1. 計画モードで、[ステップ キャプチャ] > [アプリケーションの選択] 矢印をクリックしま

す。[アプリケーションの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。  をクリックします。
[アプリケーションの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。

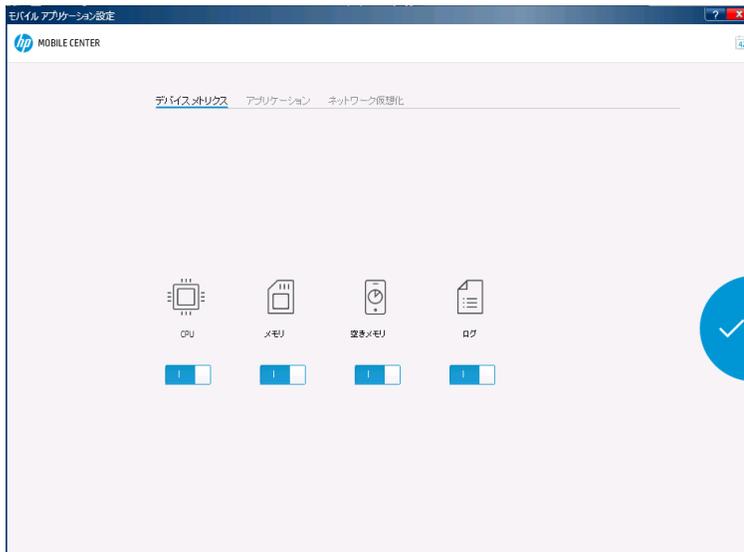


2. [選択] ボタンをクリックし、テスト対象のアプリケーションを選択します。新しいアプリケーションをアップロードする場合は、[+] ボタンをクリックして .apk または .ipa ファイルをアップロードします。

注: Sprinter のパワーモード機能を使用する場合は、アップロードする前に必ずテスト対

象のアプリケーションの再パッケージを行ってください。アプリケーションの準備の詳細については、「[Prepare your app for upload](#)」を参照してください。

3. **【詳細設定】** をクリックします。**【モバイルアプリケーション設定】** ダイアログ・ボックスが開きます。



- a. **【デバイス メトリクス】** タブで、Sprinter に収集させるデバイスのパラメータを選択します。
- b. **【アプリケーション】** タブで、各実行間のアプリケーションの動作を設定します。
 - **インストール** : テスト実行時に毎回アプリケーションを再インストールします。
 - **再起動** : テスト実行時に毎回アプリケーションを再起動します。
 - **アンインストール** : テスト終了時に毎回アプリケーションをアンインストールします。
- c. **【ネットワーク仮想化】** タブで、**【ネットワーク仮想化を使用する】** を選択してネットワーク・プロファイルを選択します。

注: Network Virtualization プロファイルの作成とデプロイの詳細については、『[HP Network Virtualization ユーザーズ・ガイド](#)』を参照してください。

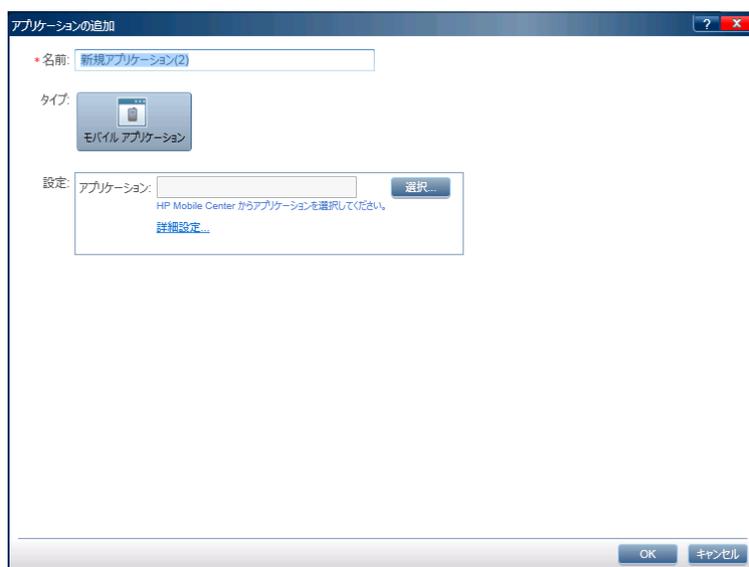
4. メイン・ウィンドウに戻り、**【ステップ キャプチャ】** をクリックします。**【モバイル デバイス リスト】** ダイアログ・ボックスが開きます。テストを実行する互換デバイスを選択します。
5. **【HP Mobile RDP】** ウィンドウが開きます。画面上のデバイス・エミュレータをクリックして、モバイル・デバイスを操作します。**【オプション】** タブでは、次のイベント・シミュレーション・コマンドを実行できます。
 - SMS の送信
 - 受信した呼び出しのシミュレーション

- GPS の場所の変更
- アプリケーションをバックグラウンドに移動
- 長押し, スワイプ, パンの各ジェスチャの実行

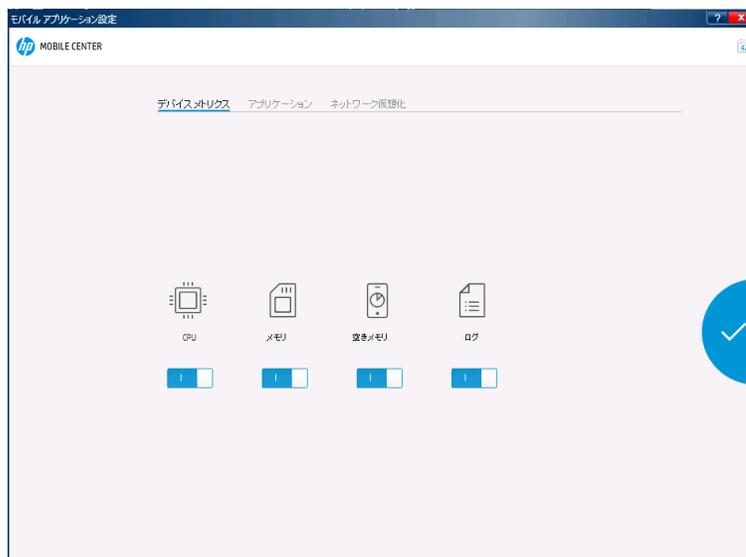
アクションがステップでキャプチャされます。アクションのグループごとに新しいステップを1つ作成します。

実行モード

1. 実行モードで**パワー・モード**を有効にします。
2. [アプリケーション] 表示枠で**追加**をクリックします。[アプリケーションの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。



3. **選択** ボタンをクリックし、テスト対象のアプリケーションを選択します。新しいアプリケーションをアップロードする場合は、**+** ボタンをクリックして .apk または .ipa ファイルをアップロードします。
4. **詳細設定** をクリックします。[モバイル アプリケーション設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- a. 【デバイス メトリクス】 タブで, Sprinter に収集させるデバイスのパラメータを選択します。
- b. 【アプリケーション】 タブで, 各実行間のアプリケーションの動作を設定します。
 - **インストール** : テスト実行時に毎回アプリケーションを再インストールします。
 - **再起動** : テスト実行時に毎回アプリケーションを再起動します。
 - **アンインストール** : テスト終了時に毎回アプリケーションをアンインストールします。
- c. 【ネットワーク仮想化】 タブで, 【ネットワーク仮想化を使用する】 を選択してネットワーク・プロファイルを選択します。

注: Network Virtualization プロファイルの作成とデプロイの詳細については, 『HP Network Virtualization ユーザズ・ガイド』 を参照してください。

5. メイン・ウィンドウに戻り, 実行対象のテストを開いて【**実行**】 ボタンをクリックします。
6. 【モバイルデバイスリスト】 ダイアログ・ボックスが開きます。テストを実行する互換デバイスを選択します。
7. 【HP Mobile RDP】 ウィンドウが開きます。モバイル・デバイスを画面上で操作して, テスト・ステップを進めます。【オプション】 タブでは, 次のイベント・シミュレーション・コマンドを実行できます。
 - SMS の送信
 - 受信した呼び出しのシミュレーション
 - GPS の場所の変更
 - アプリケーションをバックグラウンドに移動
 - 長押し, スワイプ, パンの各ジェスチャの実行

テスト実行リストを使用して作業するときの注意事項

- **[実行]** ボタンをクリックすると、**[テスト実行]** リストの**アクティブ**なテストのみが実行されます。テストを**アクティブ化**および**非アクティブ化**する方法の詳細については、「**[実行セットアップ] 領域**」(78ページ)に記載されている**ショートカット・メニュー (右クリック) のオプション**の説明を参照してください。非アクティブ化されているテストは、**[テスト実行]** リストで無効化されて (グレーで) 表示されます。
- 実行が完了したテストは、**[テスト実行]** リストで**非アクティブ**になります。テストをもう一度実行するには、**ショートカット・メニュー (右クリック) オプション**を使用して次の手順を行います。
 - テストをアクティブ化します。次回のテスト実行では、現在の実行が続行されます。
 - テストの新しい実行を追加します。
 - 現在の実行を新しい実行に置き換えます。
- **[テスト実行]** リストで表示するカラムを表示またはカラムを追加するには、**[カラムの選択]**
 ボタンをクリックするか、カラム・ヘッダを右クリックします。カラムのサイズを変更したり、カラムをドラッグして表示順序を変更することも可能です。
- **[テスト実行]** リストのすべての機能の詳細な説明については、「**[実行セットアップ] 領域**」(78ページ)を参照してください。

[実行セットアップ] 領域

この領域では、テストを開いたり、実行に含めるテストを選択したりすることができます。テストの詳細の定義、テストの前の結果の確認を行うことができるほか、**パワー・モード**で実行するように設定することも可能です。

[実行セットアップ] 領域で実行できるタスクを次に示します。

- 「**テストをSprinter で実行する方法**」(67ページ)
- 「**パワー・モードで実行するテストの準備方法**」(142ページ)
- 「**実行結果の表示方法**」(128ページ)

次に、**[実行セットアップ]** 表示領域の図を示します。



アクセス方法	実行モードに切り替えます。[実行セットアップ] 領域は左の表示枠にあります。
参照情報	「テスト実行リストを使用して作業するときの注意事項」(78ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
	<p>実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [テスト実行] リストでアクティブになっているテストがすべて実行されます。 ・ テストのアクティブ化および非アクティブ化の詳細については、下に記載されている [テスト実行] リストのショートカット・メニュー（右クリック）のオプションの説明を参照してください。
	<p>パワー・モードの [実行]。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [テスト実行] リストでアクティブになっているテストがすべて実行されます。 ・ テストのアクティブ化および非アクティブ化の詳細については、下に記載されている [テスト実行] リストのショートカット・メニュー（右クリック）のオプションの説明を参照してください。
	<p>テストを開く： [テスト実行] リストにテストを追加します。 ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テストを開く： [テスト実行] リストにテストを追加します。 [テスト実行] リストにテストがある場合、リスト内にある現在のテストが削除され、選択したテストに置き換えられます。テストを保存していないと、テストの保存に関する確認メッセージが表示されます。 ・ テストの追加： [テスト実行] リストにテストを追加します。この [追加] オプションでは、選択したテストが [テスト実行] リストの末尾に追加されます。

(続き)

UI 要素	説明
	<p>〔テスト実行〕リストで選択したテストを保存します。</p> <p>ショートカットキー : Ctrl+S</p> <p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保存 : 選択したテストの実行定義が保存されます。 ● すべて保存 : 〔テスト実行〕リストにあるすべてのテストのテスト定義が保存されます。 <p>注 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テストの保存では、テストと同じフォルダに新しくフォルダが作成され、テスト実行情報がすべて保存されます。フォルダ名は、 < テスト名_Runs > という形式です。
	<p>テストの現在のリストをお気に入りとして保存したり、保存されているテストのリストを〔テスト実行〕リストにロードしたりすることができます。</p> <p>Sprinter でお気に入りリストがどのように保持されるかについては、 「ユーザ情報が保持される仕組み」(27ページ)を参照してください。</p> <p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お気に入りに追加 : 現在の〔テスト実行〕リストをお気に入りとして〔お気に入り〕リストに保存します。 ● お気に入りの管理 : お気に入りリストの順序変更や、項目の削除を行います。詳細については、 「【お気に入りの管理】ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。
	<p>カラムの選択 : 〔テスト実行〕リストで表示するカラムを選択します。たとえば、実行名のカラムを追加するには、〔実行〕を選択します。</p> <p>また、カラム・ヘッダを右クリックしてカラムを選択することもできます。</p>
<p>名前</p>	<p>次の実行に含めることが可能なテストのリストです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 〔実行〕ボタンをクリックすると、〔テスト実行〕リストのアクティブなテストのみが実行されます。テストをアクティブ化および非アクティブ化する方法の詳細については、下に記載されているショートカット・メニュー（右クリック）のオプションの説明を参照してください。非アクティブ化されているテストは、〔テスト実行〕リストで無効化されて（グレーで）表示されます。 ● 〔テスト実行〕リストのテストを右クリックすると、ショートカット・メニュー（右クリック）オプションが表示されます（下の説明を参照）。 ● リストの各テストに対して、〔ステータス〕カラムをクリックし、ドロップダウン・リストで値を選択することで、テストのステータスを設定できます。 ● 〔テスト実行〕リストでテストを選択すると、そのテストのグループが〔詳細〕表示枠に表示されます。詳細については、 「【実行セットアップ】の【定義グループ】(85ページ)および 「結果グループ」(130ページ)を参照してください。 ● テスト名の隣のアスタリスクは、保存されていない変更がテストに存在することを示しています。

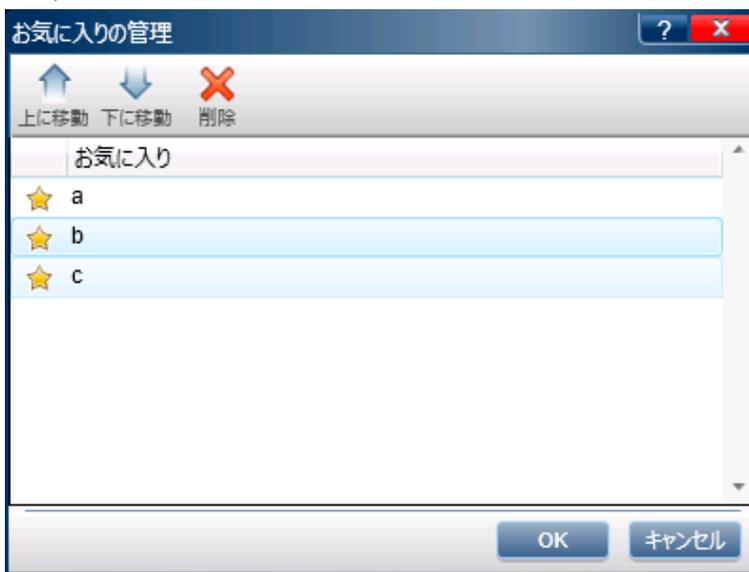
(続き)

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> 標準設定では 名前 カラムと ステータス カラムが表示されます。 テスト実行 リストのカラム・ヘッダを右クリックして、表示されるカラムを追加および選択したり、カラムの境界をドラッグしてカラムの幅を調整したりすることができます。また、カラムをドラッグして、カラムの表示順序を変更することも可能です。
<p><テストのショートカット・メニュー（右クリック）オプション></p>	<ul style="list-style-type: none"> 上に移動： テスト実行 リストで選択したテストが上に移動します。 下に移動： テスト実行 リストで選択したテストが下に移動します。 削除： 選択したテストが テスト リストから削除されます。 テストのアクティブ化/非アクティブ化： 次の実行セッションに対して、選択したテストが追加または削除されます。非アクティブ化されているテストは、 テスト実行 リストで無効化されて（グレーで）表示されます。 このテストのみ実行： 選択したテストのみを使用して実行が開始されます。 新規実行で置き換え： 選択したテストが テスト実行 リストから削除されて新しいコピーに置き換えられ、実行結果が保存されます（これが役に立つのは、 テスト実行 リストのテストが正常に動作せず、テストを再度実行したい場合です）。 新規実行の追加： 選択したテストの新しい実行が テスト実行 リストに追加されます。 すべての実行を表示： 「 テスト<'テスト名'>：すべての実行 ダイアログ・ボックス」 (82ページ) が開きます。
<p>ステータス</p>	<p>ステータス値には、次の標準のシステム値があります。</p> <ul style="list-style-type: none">  Passed： テストが成功しました。  Failed： テストが失敗しました。  Blocked： テストはブロックされています。  Not Completed： テストは実行の途中で停止されました。  No Run： （標準で選択）テストはまだ実行されていません。 <p>標準設定では 名前 カラムと ステータス カラムが表示されます。 テスト実行 リストのカラム・ヘッダを右クリックして、表示されるカラムを追加および選択したり、カラムの境界をドラッグしてカラムの幅を調整したりすることができます。また、カラムをドラッグして、カラムの表示順序を変更することも可能です。</p>
<p>実行</p>	<p>（標準では表示されません）実行の名前です。</p> <p>テスト実行 リストのカラム・ヘッダを右クリックして、表示されるカラムを選択します。</p>
	<p>テストのパワー・モードを設定およびアクティブ化できます。詳細については、「 パワー・モード グループ」 (143ページ) を参照してください。</p>

[お気に入りの管理] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、お気に入りリストのお気に入りの順序を変更したり、お気に入りリストからお気に入りを削除したりすることができます。

次に、[お気に入りの管理] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法	
	[実行セットアップ] 領域で、[お気に入り] > [お気に入りの管理] の順に選択します。

ダイアログ・ボックスでポインタをユーザ・インタフェース要素上に移動すると、その説明が表示されます。

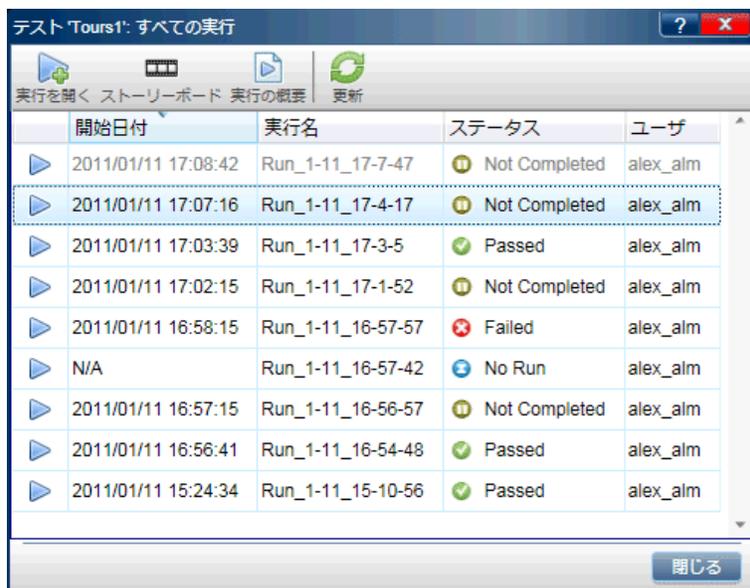
[テスト <'テスト名'> : すべての実行] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、前の実行結果を確認できます。[テスト実行] リストにある前の実行をロードし、実行結果をストーリーボードで確認して、実行結果の概要を確認できます。

[テスト '<テスト名>': すべての実行] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- [「実行結果の表示方法」\(128ページ\)](#)

次に、[テスト '<テスト名>' すべての実行] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法	【テスト実行】リストでテストを右クリックし、【すべての実行を表示】を選択します。
重要な情報	【テスト実行】リストの現在の実行は、常に【すべての実行】リストの上部に表示されますが、無効になっています。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
 実行を開く	選択した実行が テスト実行 リストに追加されます。
 ストーリーボード	選択した実行の「 【ストーリーボード】ウィンドウ 」(135ページ)が開きます。
 実行の概要	選択した実行について、実行の概要が表示されます。
 更新	ファイル・システムからの実行リストが更新されます。
<実行リスト>	<p>テストの実行のリストです。実行リストには、次のカラムが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実行アイコン：このアイコンは、Sprinter で行われた実行については青色で表示されます。 • 開始日付：テスト実行が開始した日時。 • 実行名：【一般設定】表示枠で実行に割り当てた名前。

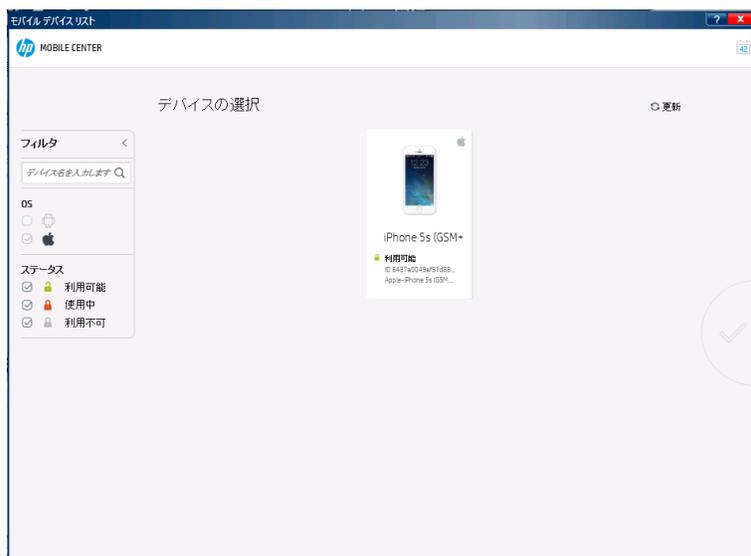
UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • ステータス : テストの現在のステータスです。 • ユーザ : テストを実行したユーザです。

[モバイルデバイスリスト] ダイアログ・ボックス

この表示枠では、クラウド・プロバイダのモバイル・テスト・デバイスを選択します。

 モバイルの対象となるのは、パワー・モード で実行されたテストだけです。

次に、[モバイルデバイスリスト] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法	 (パワー・モード) でモバイル・アプリケーションのテストを実行します。
参照情報	「[モバイル設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス) 」 (38ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ステータス	モバイル・デバイスのステータス。 利用可能 : デバイスは使用可能な状態です。 使用中 : デバイスは別のユーザによって開かれた状態です。

UI 要素	説明
	利用不可 : デバイスは使用できない状態です。
OS	モバイル・デバイスにインストールされているオペレーティング・システム。

[実行セットアップ] の [定義] グループ

[実行セットアップ] の [定義] グループは、メイン・ウィンドウの左側に表示されます。

このグループには次の表示枠があります。

- 「[\[一般設定\] 表示枠 \(\[実行セットアップ\] の \[定義\] グループ \)](#)」 (85ページ)
- 「[\[ステップ\] 表示枠 \(\[実行セットアップ\] の \[定義\] グループ \)](#)」 (86ページ)
- 「[\[パラメータ\] 表示枠 \(\[実行セットアップ\] の \[定義\] グループ \)](#)」 (87ページ)

[ステップ] ノードと [パラメータ] ノードでは、選択したテストのステップの数とパラメータの数が括弧で示されます。

[一般設定] 表示枠 ([実行セットアップ] の [定義] グループ)

この表示枠にはテストの詳細が表示され、編集もできます。

[一般設定] 表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- 「[テストを Sprinter で実行する方法](#)」 (67ページ)
- 「[予備テストを Sprinter で実行する方法](#)」 (72ページ)

次に、[一般設定] の図を示します。

一般設定

テスト名: 新規テスト 8

場所: C:\Users\CSSG_LnG_Auto\Documents

テスト担当者: CSSG_LnG_Auto

* 実行名: 5

説明:

添付ファイル: 添付ファイルなし

アクセス方法

メイン・ウィンドウの [テスト実行] リストでテストを選択し、[定義] > [一般設定] ノードの順に選択します。

表示枠で、編集可能なユーザ・インタフェース要素上にポインタを移動すると、その説明が表示されます。

[ステップ] 表示枠([実行セットアップ] の[定義]グループ)

このタブにはテストのステップが表示されます。

また、外部ファイルからステップをテストにインポートできます。

[ステップ] タブで実行できるタスクを次に示します。

- [「テストをSprinter で実行する方法」\(67ページ\)](#)

次に、テストの [ステップ] タブの図を示します。



ステップ

#	ステータス	名前	説明	期待される結果	画面キャプチャ (期待)
1	+	ステップ 1			
2	+	ステップ 2			
3	+	ステップ 3			

アクセス方法	メイン・ウィンドウの【テスト実行】リストでテストを選択し、【定義】>【ステップ】ノードの順に選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> 表示されている Sprinter のウィンドウやカラムのサイズを変更して、情報がすべて表示されるようにすることができます。 ステップのサムネイル画像を展開するには、画像をダブルクリックするか、ツールバーの【展開表示】ボタンを選択します。 表示されるカラムを選択するには、カラム・ヘッダ領域を右クリックします。 名前、説明、期待される結果のそれぞれの値は、テストの実行中に「【ステップ】サイドバー」で編集できます (92 ページを参照)。

ユーザ・インタフェース要素の説明は、この表示枠で確認できます。

[パラメータ] 表示枠 (【実行セットアップ】の【定義】グループ)

この表示枠では、テストで使用したパラメータの実際の値を表示および編集できます。

【パラメータ】表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- 「[テストを Sprinter で実行する方法](#)」(67 ページ)

次に、【パラメータ】表示枠の図を示します。

パラメータ

名前	実際の値	標準設定値	説明	テスト
From	San Francisco	San Francisco	Departure City	Tours1
Passengers	2	2	number of passengers	Tours1
User name	Bob	Bob	Default user name	Tours1
To	New York	New York	Destination city	Tours1
Credit first	Bob	Bob	Credit Card first name	Tours1

アクセス方法	メイン・ウィンドウの【テスト実行】リストでテストを選択し、【定義】>【パラメータ】ノードの順に選択します。
---------------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
名前	パラメータの名前。
実際の値	テストの実行で使用される値。実際の値がない場合は、標準設定の値が使用されま す。
標準設定値	パラメータの標準設定の値
説明	パラメータの説明。
テスト	パラメータのソース・テスト

[実行制御] サイドバー

このサイドバーでは、テストのステータスを設定したり、実行しているテストのリストで別のテストに移動したりできます。

[**実行制御**] サイドバーで実行できるタスクを次に示します。

- 「[テストをSprinter で実行する方法](#)」(67ページ)
- 「[予備テストをSprinter で実行する方法](#)」(72ページ)

次に、パワー・モードがオフになっているテストの [**実行制御**] サイドバーの図を示します。



 パワー・モードでは、テスト実行に含まれるユーザ操作の数をサイドバーで確認できます。



アクセス方法

次の作業を行います。

1. 実行モードに切り替えます。
2. テストを開きます。
3. [実行] ボタン  または [パワー・モードで実行] ボタン  をクリックします。

実行を終了してサイドバーを閉じるには、次の手順で行います。

1. サイドバーを展開します。

	<p>2. [停止]  ボタンをクリックします。</p> <p>ヒント: サイドバーを開いた位置にロックするには、押しピン  アイコンをクリックします。サイドバーの位置を変更するには、サイドバーのヘッダをドラッグします。</p>
--	---

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	 ユーザ操作: 現在の実行で行われたユーザ操作の数が表示されます。
	<p>キャプチャの一時停止/再開: ユーザ操作の実行中、Sprinter による各ユーザ操作のキャプチャを停止または再開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャプチャを停止すると、それ以降の操作はいずれも「[ストーリーボード] ウィンドウ」(135ページ)またはユーザ操作レポートに示されません。[設定] ダイアログ・ボックスで [自動動画ムービー録画] を有効にしている場合、録画も停止します。詳細については、「[実行設定] 表示枠」(設定) [設定] ダイアログ・ボックス」(37ページ)を参照してください。
	添付ファイル 「 [実行の添付ファイル] ダイアログ・ボックス 」(90ページを参照)が開きます。ここでは、実行の添付ファイルを追加、編集、削除できます。
	テストの詳細 「 [テストの詳細] ダイアログ・ボックス 」(91ページを参照)が開きます。
	<p>前のテスト: [テスト実行] リストにある前のテストに戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのサイドバーと画面が更新され、[テスト実行] リストにある前のテストの現在の状態が表示されます。 別のテストに移動するときは、テスト・アプリケーションで操作を行って、実行するテストに対してテスト・アプリケーションが正しい状態になるようにしなければなりません。  パワー・モードでのテスト実行中、上記の操作を行うときにキャプチャを停止して、操作が [実行制御] サイドバー、「[ストーリーボード] ウィンドウ」(135ページ)、不具合の操作のリストに示されないようにしなければなりません。
<テスト・リスト>	<p>実行に含まれるテストのリストです。リストの各テストには、テストの日付と時刻、テストのステータスが記録されています。</p> <p>別のテストに移動するには、[前のテスト] ボタン、または [次のテスト] ボタンをクリックするか、テスト・リストの隣の下向き矢印をクリックし、テストを選択します。</p>
<テスト・ステータス>	<p>現在のテストのステータスです。現在のテストのステータスを変更するには、テスト・ステータスのアイコンの隣にある下向き矢印をクリックし、リストでステータスを選択します。</p> <p>ステータス値:</p> <p>ステータス値には、次の標準のシステム値があります。</p> <ul style="list-style-type: none">  Passed: テストが成功しました。

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> Failed : テストが失敗しました。 Not Completed : テストは途中で停止されました。 Blocked : テストはブロックされています。 No Run : (標準で選択) テストはまだ実行されていません。
	<p>次のテスト : テスト実行 リストにある次のテストに進みます。</p> <ul style="list-style-type: none">すべてのサイドバーと画面が更新され、[テスト実行] リストにある次のテストの現在の状態が表示されます。別のテストに移動するときは、テスト・アプリケーションで操作を行って、実行するテストに対してテスト・アプリケーションが正しい状態になるようにしなければなりません。 テストをパワー・モードで行っている場合は、上記の操作を行うときにキャプチャを停止して、操作が[実行制御] サイドバー、「[ストーリーボード] ウィンドウ (135ページ)、不具合の操作のリストに示されないようにしなければなりません。
	<p>実行の終了 : テスト・セッションが終了し、「メイン・ウィンドウ」 (29ページ)に戻ります。</p>

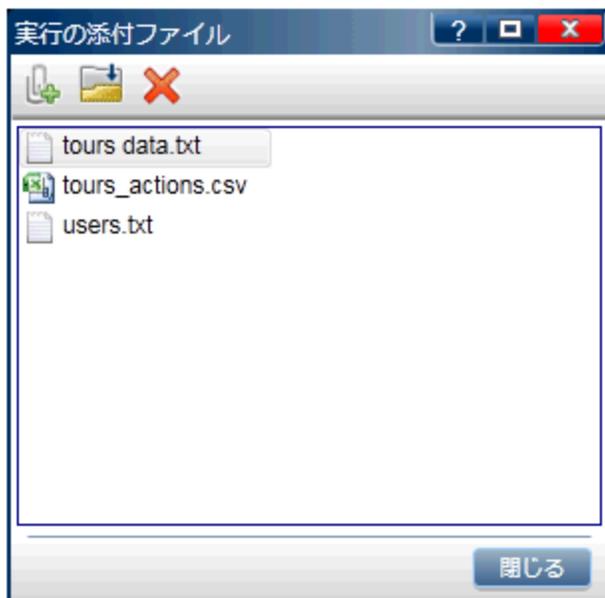
[実行の添付ファイル] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、実行またはステップの添付ファイルが表示されます。また、添付ファイルの追加、編集、削除を実行できます。

[実行の添付ファイル] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「[実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法](#)」(71ページ)

次に、[実行の添付ファイル] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法

「[実行制御] サイドバー」(88ページ)で、[実行の添付ファイル] ボタン  をクリックします。

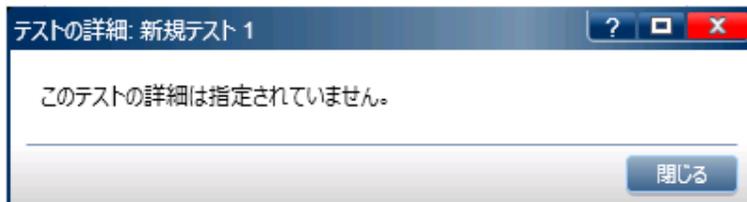
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	添付ファイルの追加 : ファイルを参照して選択し、添付ファイルとして追加します。
	添付ファイルを開く : 選択した添付ファイルのファイル・タイプに対応する標準のプログラムで、その添付ファイルが開きます。
	添付ファイルの削除 : 選択した添付ファイルが削除されます。

[テストの詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、テストの説明と添付ファイルが表示されます。

次に、[テストの詳細] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法	「 【実行制御】 サイドバー 」(88ページ) > 「 テストの詳細 」ボタン  の順に選択します。
重要な情報	添付ファイルのサムネイルをクリックすると、そのファイル・タイプに対応する標準のプログラムで添付ファイルが開きます。

ダイアログ・ボックスでポインタをユーザ・インタフェース要素上に移動すると、その説明が表示されます。

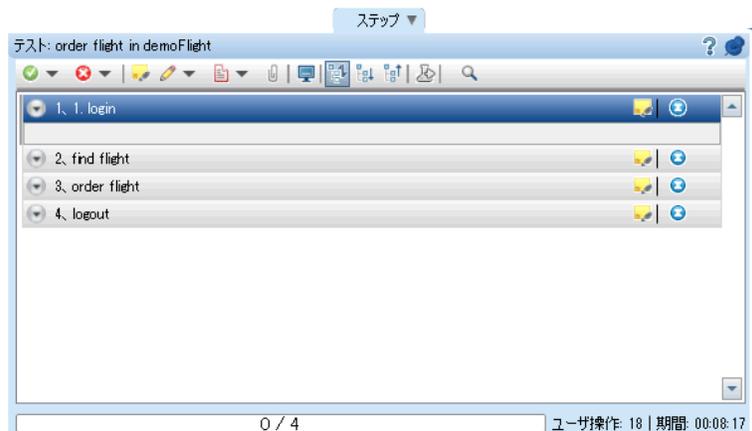
[ステップ] サイドバー

このサイドバーでは、テストのステップの操作や編集、ステータス設定を行うことができます。

[ステップ] サイドバーで実行できるタスクを次に示します。

- 「[ステップの操作方法](#)」(69ページ)
- 「[ステップのステータスの設定方法](#)」(70ページ)
- 「[実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法](#)」(71ページ)

次に、[ステップ] サイドバーの図を示します。



アクセス方法	次の操作を実行します。 <ol style="list-style-type: none">1. 実行モードに切り替えます。2. テストを開きます。3. 「実行」ボタン  または 「パワーモードで実行」ボタン  をクリックします。 <p>ヒント: サイドバーを開いた位置にロックするには、押しピン  アイコンをクリックします。サイドバーの位置を変更するには、サイドバーのヘッダをドラッグします。</p>
重要な情報	• テストでは、テストにステップがなく、Sprinter 設定ファイルを手動で変更していない場合、[ステップ] サイドバーは表示されません。

[ステップ] サイドバーは次の要素で構成されています。

- ・ 「[\[ステップ\] ツールバー](#)」 (93ページ)
- ・ 「[\[ステップ\] 表示領域](#)」 (94ページ)
- ・ 「[ステップのステータス・バー](#)」 (96ページ)

【ステップ】 ツールバー

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<タイトル・バー>	【ステップ】 サイドバーのタイトル・バーには、テスト名が表示されます。
	<p>選択したステップを成功にする：（標準設定）選択したステップを Passed に指定します(複数のステップを選択するには、CTRL キーを押しながらクリックします)。</p> <p>下向き矢印をクリックすると、次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成功： 選択したステップを Passed に指定します。 ・ すべて成功にする： すべてのステップを Passed に指定します。 ・ 選択したステップを成功にし、マーク解除された前のステップを成功にする： 選択したステップを Passed に指定し、選択したステップよりも前の未指定のステップをすべて Passed に指定します。このオプションを利用できるのは、1つのステップを選択しているときだけです。
	<p>選択したステップを失敗にする：（標準設定）選択したステップを Failed に指定します(複数のステップを選択するには、CTRL キーを押しながらクリックします)。</p> <p>下向き矢印をクリックすると、次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 失敗： 選択したステップを Failed に指定します。 ・ 選択したステップを失敗にし、マーク解除された前のステップを成功にする： 選択したステップを Failed に指定し、選択したステップよりも前の未指定のステップをすべて Passed に指定します。このオプションを利用できるのは、1つのステップを選択しているときだけです。
	<p>実際の結果： 実際の結果を変更し、通常の画面キャプチャまたは注釈付き画面キャプチャを実際の結果に追加できます。詳細については、「[実際の結果] ダイアログ・ボックス」(98ページ)を参照してください。</p>
	<p>ステップの編集： 「[ステップの編集] ダイアログ・ボックス」(97ページ)が開きます。</p> <p>下向き矢印をクリックすると、次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ステップの編集：（標準設定）ステップを編集できます。 ・ 前に挿入： 現在のステップの前に新しいステップを挿入できます。 ・ 後に挿入： 現在のステップの後に新しいステップを挿入できます。 ・ ステップの削除： 選択したステップが削除されます。
	<p>スマート不具合： 不具合を不具合追跡システムに送信します。</p> <p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p>

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • スマート不具合：（標準設定）「[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス (114ページ)が開きます。ここでは、自動的に生成された不具合シナリオの情報を不具合の説明に追加できます。 • 新規不具合：[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、不具合を手動で不具合追跡システムに送信します。新しく不具合を作成する際、関連する添付ファイルと、不具合の再現に必要なステップを追加します。 • 不具合メモの追加：「[不具合メモ] ダイアログ・ボックス」(120ページ)が開きます。
	<p>添付ファイル：「[実行の添付ファイル] ダイアログ・ボックス」(90ページ)が開きます。ステップに添付ファイルを追加、編集、削除します。</p>
	<p>サブタイトルの表示：ステップが画面上のサブタイトルとして表示されます。サブタイトルを使用した作業の詳細については、「[サブタイトル] ツールバー」(99ページ)を参照してください。</p>
	<p>自動展開：各ステップの見出しをクリックすると、ステップが展開されます。</p>
	<p>すべて展開：[ステップ] 表示領域のステップがすべて展開されます。</p>
	<p>すべて折りたたみ：[ステップ] 表示領域のステップがすべて折りたたまれます。</p>
	<p>次のテスト：現在のテストの実行が終了し、実行の次のテストに進みます。前のテストに戻るには、「[実行制御] サイドバー」の「[前のテスト]」ボタンを使用します(88ページを参照)。</p>
	<p>検索：特定のテキストのステップを検索できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [検索] では、指定したテキストがステップの名前、説明、期待される結果から検索されます。 • 検索テキストは大文字と小文字が区別されません。 • 検索テキストを含む最初のステップが自動的に開きます。

【ステップ】表示領域

この領域には、現在の実行に含まれるステップが表示されます。

<p>操作</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 標準では、[ステップ] 表示領域は[自動展開] に設定されているので、ステップの見出しをクリックすると、そのステップが展開されます。 • 実行を開始すると、[ステップ] 表示領域に最初のステップが展開されて表示されます。完了していない別の実行に切り替えると、ステータスが設定されている中で一番最後のステップが展開されます。 • [自動展開] が選択されている場合（標準設定）、ステップの見出しをクリックすると、そのステップが選択および展開されます。もう一度クリックするとステップが折りたたまれます。
------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> • 〔自動展開〕 が選択されていない場合は、ステップの見出しをダブルクリックすると、そのステップが選択および展開されます。もう一度ダブルクリックするとステップが折りたたまれます。 • ステップのステータスを設定すると、〔ステップ〕表示領域がテストの次のステップに自動的に進みます。
--	--

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
	展開/折りたたみ ：選択したステップが展開または折りたたまれます。ステップが展開されると、名前、説明、期待される結果が表示されます。
	実際の結果 ：「 〔実際の結果〕ダイアログ・ボックス 」(98ページ)が開きます。ここでは、実際の結果を修正したり、注釈付きまたは注釈なしの画面キャプチャを実際の結果に追加したりすることができます。
	<p>ステータス：ステップのステータスを設定するドロップダウン・リストが表示されます。標準のステータス値を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  Passed：ステップが成功しました。 •  Failed：ステップは失敗しました。 •  Blocked：ステップはブロックされています。 •  Not Completed：ステップは実行の途中で停止されました。 •  No Run：（標準設定）ステップはまだ実行されていません。 <p>ヒント：CTRL キーを押しながらクリックして複数のステップを選択し、ドロップダウン・リストの選択項目のいずれかをクリックすると、選択したすべてのステップのステータスを設定できます。</p>
<ステップの内容>	<p>ステップが展開されているときの表示内容を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前：ステップ名が長すぎてステップの見出しに表示しきれない場合は、途中までしか表示されず、完全なステップ名はステップの説明に表示されます。 • 説明 • 期待される結果 • 実際の結果（追加されている場合）：実際の結果に画面キャプチャを追加している場合は、この領域にアイコンが追加されます。このアイコン上にカーソルを移動すると、画面キャプチャが表示されます。 • ステップの添付ファイル：ステップに添付ファイルを追加した場合は、添付ファイルのアイコンが表示されます。 <p>アイコンをダブルクリックすると、そのファイル・タイプに対応する標準のプログラムで添付ファイルが開かれます。画像の場合、ポインタをアイコン上に移動すると、添付ファイルのプレビューが表示されます。</p>

ステップのステータス・バー

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
<ステップのステータス・バー>	進行状況バーと、ステータスが No Run ではないステップの数と合計ステップ数を示すテキストが表示されます。
ユーザ操作	現在のテストの実行で行われたユーザ操作の数が表示されます。
経過時間	現在の実行にかかった時間が表示されます。【経過時間】カウンタが0（ゼロ）にリセットされるのは、【実行制御】サイドバーで別の実行に移動したときです。

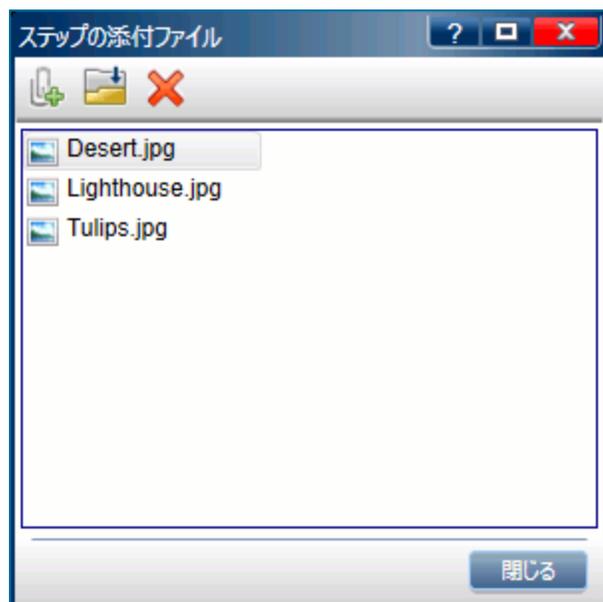
[ステップの添付ファイル] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、実行またはステップの添付ファイルが表示されます。また、添付ファイルの追加、編集、削除を実行できます。

[ステップの添付ファイル] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「[実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法](#)」(71ページ)

次に、[ステップの添付ファイル] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法

【ステップ】サイドバーで【ステップの添付ファイル】ボタン  をクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	添付ファイルの追加 : ファイルを参照して選択し、添付ファイルとして追加します。
	添付ファイルを開く : 選択した添付ファイルのファイル・タイプに対応する標準のプログラムで、その添付ファイルが開きます。
	添付ファイルの削除 : 選択した添付ファイルが削除されます。

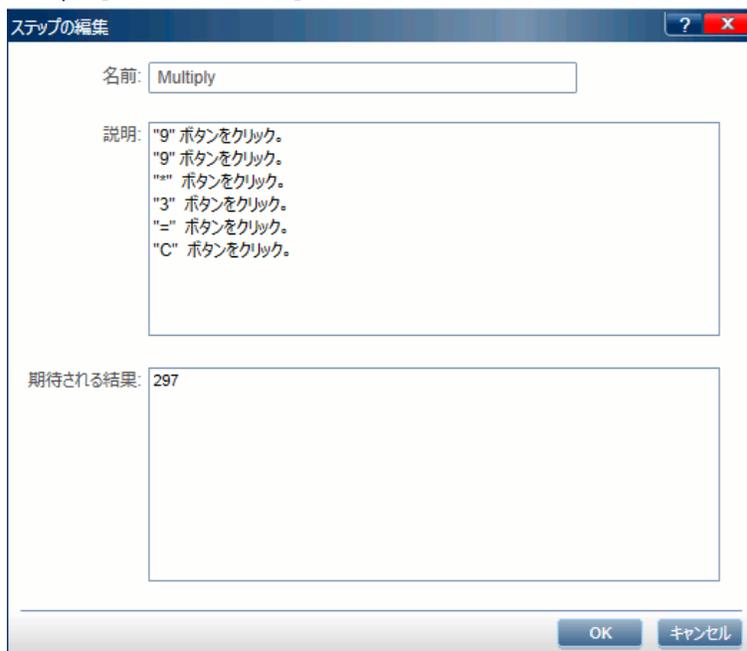
[ステップの編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テストに含まれるステップを編集できます。

[ステップの編集] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「[実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法](#)」(71ページ)

次に、[ステップの編集] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法	「 [ステップ] サイドバー 」(92ページ) > 「 ステップの編集 」ボタン  の順にクリックします。
参照情報	「 ステップ単位のテスト 」(64ページ)

ダイアログ・ボックスでポインタをユーザ・インタフェース要素上に移動すると、その説明が表示されます。

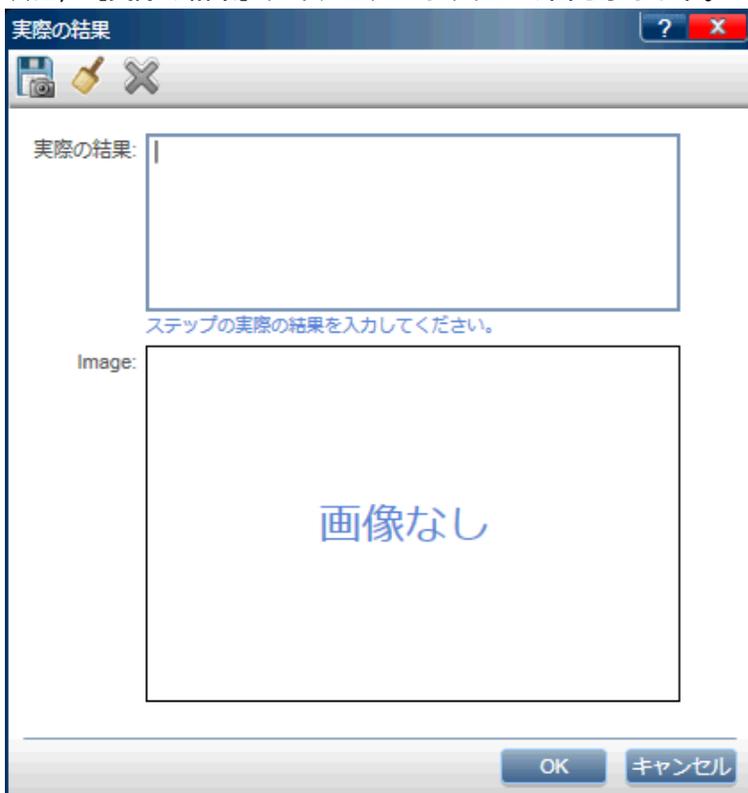
[実際の結果] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テストに含まれるステップの実際の結果を編集できます。

[実際の結果] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「[実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法](#)」(71ページ)
- 「[不具合を検出および送信する方法](#)」(107ページ)

次に、[実際の結果] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法

次のいずれかを行います。

- 「[\[ステップ\] サイドバー](#)」(92ページ) > **[実際の結果]** ボタン  の順にクリックします。
- 「[\[ステップ\] サイドバー](#)」(92ページ) > ステップのヘッダ > **[実際の結果]** ボタン  の順にクリックします。
- 「[\[ツール\] サイドバー](#)」(111ページ) > **[画面キャプチャ]** セクション > **[実際の結果に保存]** ボタン  の順にクリックします。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
	画面キャプチャを実際の結果として保存 ：アプリケーションの画面キャプチャが保存され、現在のステップの実際の結果に追加されます。
	注釈を実際の結果として保存 ：注釈ワークスペースが開きます。ここでは、アプリケーションの画面キャプチャに注釈を付けることができます。注釈ワークスペースを閉じると、注釈付きの画面キャプチャが現在のステップの実際の結果に追加されます。注釈ワークスペースでの作業の詳細については、「 【注釈ツール】 サイドバー 」(122ページ)を参照してください。
	削除 ：現在のステップの実際の結果から画面キャプチャまたは注釈が削除されます。
実際の結果	現在のステップの実際の結果です。
画像	現在のステップの実際の結果とともに保存した添付ファイルの画像が表示されます。

[サブタイトル] ツールバー

このツールバーでは、サブタイトル・モードになっているときに、テストのステップの実行や編集、ステータス設定を行うことができます。

[サブタイトル] ツールバーで実行できるタスクを次に示します。

- ・ [「ステップの操作方法」](#) (69ページ)
- ・ [「ステップのステータスの設定方法」](#) (70ページ)
- ・ [「実際の結果の編集方法と添付ファイルのステップへの追加方法」](#) (71ページ)

次に、[サブタイトル] ツールバーの図を示します。



アクセス方法	「 【ステップ】 サイドバー 」(92ページ) > [サブタイトル] ボタン  の順にクリックし、ポインタをサブタイトル上に移動します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">・ ホット・キーを使用して、ステップのステータスの設定、ステップの操作、その他の機能の実行ができます。詳細については、「【ホットキー設定】 表示枠（【設定】 ダイアログ・ボックス）」(35ページ)を参照してください。・ サブタイトル・モードになっていても、[ステップ] サイドバー・タブをクリックして、[ステップ] サイドバーを表示できます。

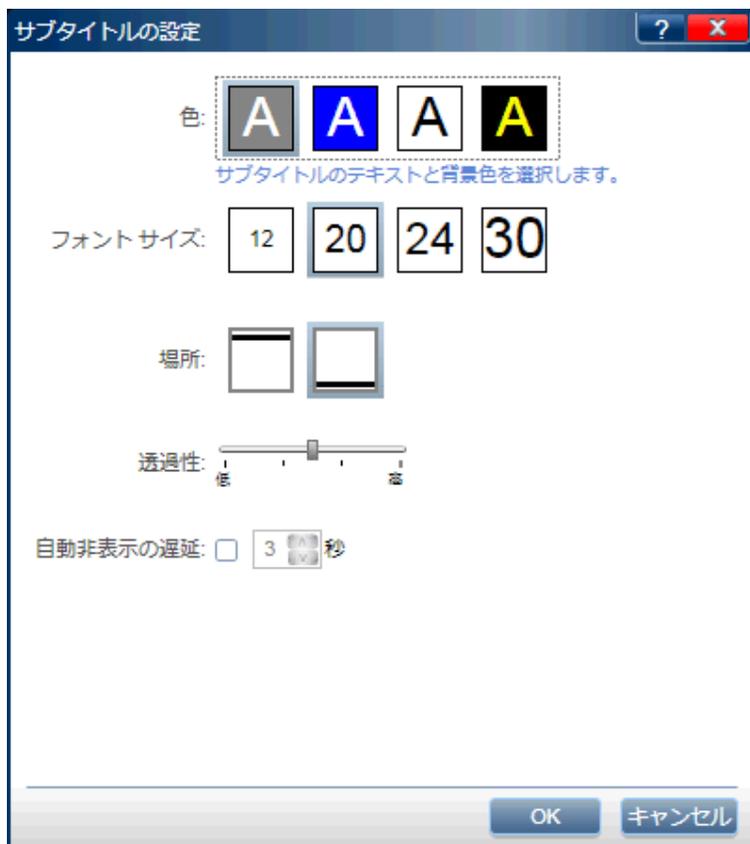
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	前のステップ : 前のステップが表示されます。
	次のステップ : 次のステップが表示されます。
	成功 : 現在のステップが Passed に設定され、次のステップが表示されます。
	失敗 : 現在のステップが Failed に設定されます。次のステップは自動的に表示されません。このため、現在のステップで不具合を開くことができます。
	実際の結果 : 「 [実際の結果] ダイアログ・ボックス 」(98ページ)が開きます。ここでは、実際の結果を修正したり、注釈付きまたは注釈なしの画面キャプチャを実際の結果に追加したりすることができます。
	ステップのステータス : 現在のステップのステータスをドロップダウン・リストで選択できます。
	サブタイトルの非表示 : サブタイトルが非表示になります。
	設定 : 「 [サブタイトルの設定] ダイアログ・ボックス 」(100ページ)が開きます。
	ステップの詳細 : ステップの次の詳細が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• 名前• 説明• 期待される結果• 実際の結果 : 実際の結果に画面キャプチャを追加している場合は、この領域にアイコンが追加されます。このアイコン上にカーソルを置くと、画面キャプチャが表示されます。• ステップの添付ファイル : ステップに添付ファイルを追加した場合は、添付ファイルのアイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックすると、そのファイル・タイプに対応する標準のプログラムで添付ファイルが開かれます。画像の場合、ポインタをアイコン上に移動すると、添付ファイルのプレビューが表示されます。 このボタンをもう一度クリックすると、ステップの詳細表示が閉じます。

[サブタイトルの設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、サブタイトルの表示オプションを設定できます。

次に、[サブタイトルの設定] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法

「[ステップ] サイドバー」(92ページ) > [サブタイトル] ボタン  の順にクリックし、ポインタをサブタイトル上に移動して [設定] ボタン  をクリックします。

ダイアログ・ボックスでポインタをユーザ・インタフェース要素上に移動すると、その説明が表示されます。

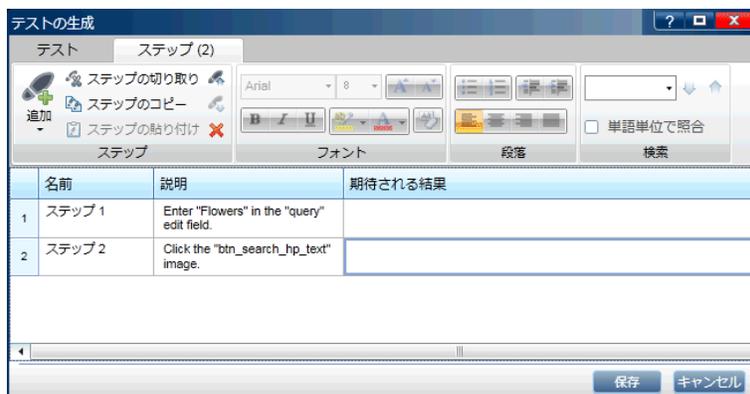
[テストの生成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい手動テストの詳細とステップを編集します。テストは、予備テストの実行セッション中に実行したユーザ操作に基づいて作成されます。

[テストの生成] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「[予備テストを Sprinter で実行する方法](#)」(72ページ)

次に、[テストの生成] ダイアログ・ボックスの [ステップ] タブの図を示します。



アクセス方法	「 結果グループ 」(130ページ)で[ユーザ操作]を選択し、[テストの生成]ボタン  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> この機能は、実行セッションの最後でのみ利用できます。

[テストの生成] ダイアログ・ボックスには次のユーザ・インタフェース要素があります。

UI 要素	説明
【テスト】タブ	「 [詳細] 表示枠 (計画モードの [定義] グループ) 」(49ページ)と同じ機能が提供されています。
【ステップ】タブ	「 [ステップ] タブ 」(52ページ)と同じ機能が提供されています。
保存	[保存] ダイアログ・ボックスが開くので、テストの場所を指定します。

トラブルシューティングと制限事項 - テストの実行

本項では、ステップ単位のテストの実行に関するトラブルシューティングと制限事項について説明します。

- ディスプレイの表示色を 256 色 (8 ビット) にして Sprinter を使用することはできません。
- [実行の添付ファイル]** ダイアログ・ボックスを閉じた後、添付のアップロード中にダイアログ・ボックスを再度開くと、添付が表示されなくなります。アップロードが完了するまで、添付ファイルは削除しないでください。
- iOS スライダーを使用する場合は、実デバイスを使って操作する必要があります。
- プロキシ・サーバを介した構成はサポートされていません。
- アナログ・モードはサポートされていません。

第5章: 不具合の検出と送信, およびツールの使用

このガイドでは, パワー・モードでのみ利用可能な機能をパワー・モード  アイコンで示します。

本章の内容

概念

- 「不具合の検出と送信の概要」(103ページ)
- 「注釈ツールによる不具合の検出」(104ページ)
- 「不具合の送信」(106ページ)

タスク

- 「不具合を検出および送信する方法」(107ページ)
- 「DTS で使用するフィールドのカスタマイズ方法」(109ページ)

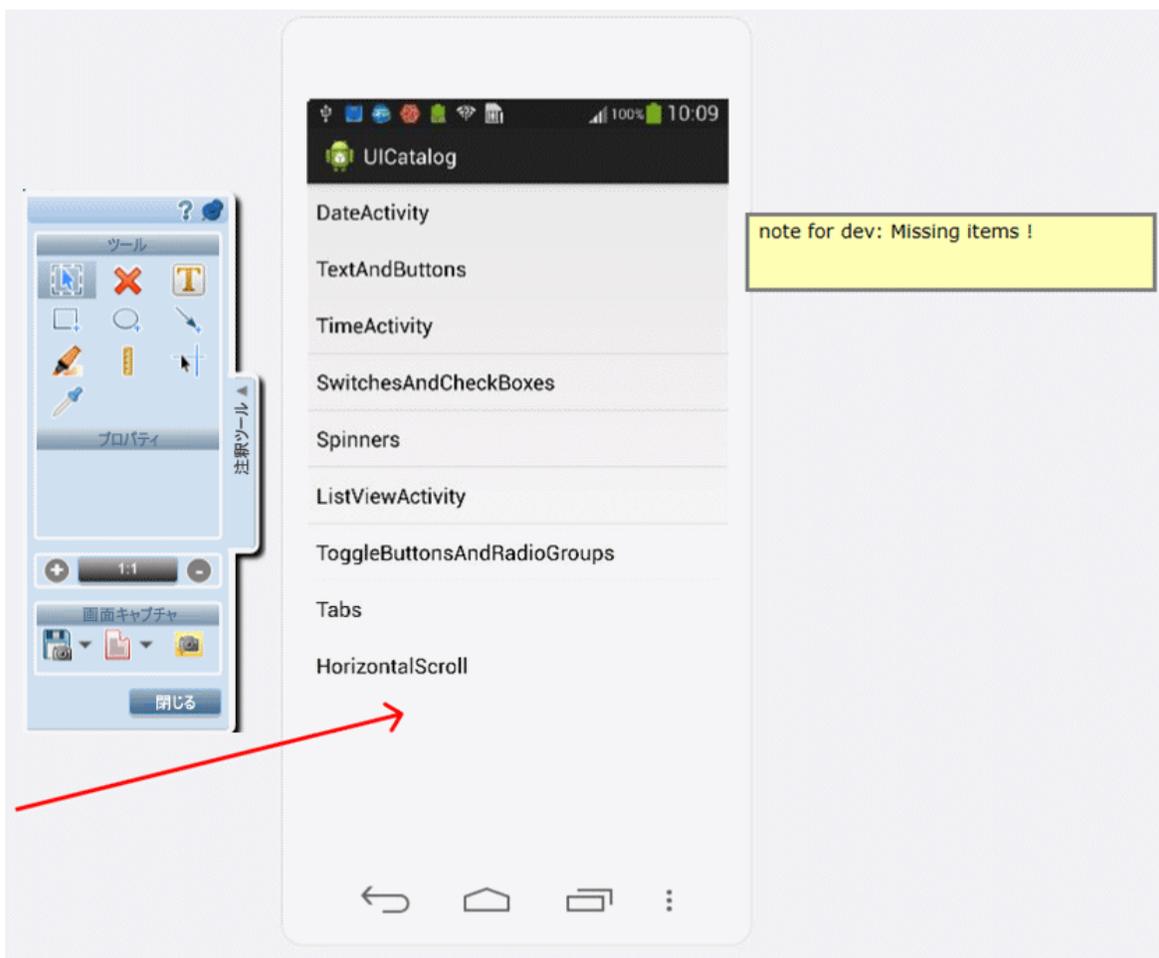
リファレンス

- 「[ツール] サイドバー」(111ページ)
- 「[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス」(114ページ)
- 「[カスタム選択] ダイアログ・ボックス」(116ページ)
- 「[新規不具合] ダイアログ・ボックス」(117ページ)
- 「Sprinter 不具合追跡システム API」(120ページ)
- 「[不具合メモ] ダイアログ・ボックス」(120ページ)
- 「[コメント] ダイアログ・ボックス」(121ページ)
- 「[注釈ツール] サイドバー」(122ページ)
- 「トラブルシューティングと制限事項 - DTS」(125ページ)

不具合の検出と送信の概要

Sprinter には, アプリケーションの不具合を検出し, 不具合追跡システム (DTS) に報告するツールがあります。このツールを使用すると, テストのフローを中断せずに不具合を検出して報告できます。

Sprinter の不具合検出ツールを使用すると, テストしているアプリケーションの表示を検査して整列状態, 間隔, 色の使い方などの不具合を見つけることができます。また, 図形, 直線, 矢印, テキストを使って画面キャプチャに注釈を付けることで, 不具合を明確に伝えることも可能です。



Sprinter の不具合送信ツールは、不具合追跡システム (DTS) への不具合の送信、アプリケーション画面またはファイル・システムの注釈付きの画面キャプチャの電子メール送信または印刷を実行できます。

不具合の検出ツールと送信ツールは注釈ワークスペースにあります。注釈ワークスペースを開くと、現在の画面のキャプチャがこのワークスペースに表示されます。この画面キャプチャ内の要素を調べて、画面キャプチャに注釈を追加します。不具合の送信時に画面キャプチャを添付したり、ステップの実際の結果に画面キャプチャを追加したり、注釈ワークスペースから不具合を記録すると、追加した注釈付きのこの画面キャプチャが添付されます。

本項の内容

- [「注釈ツールによる不具合の検出」 \(104ページ\)](#)
- [「不具合の送信」 \(106ページ\)](#)

注釈ツールによる不具合の検出

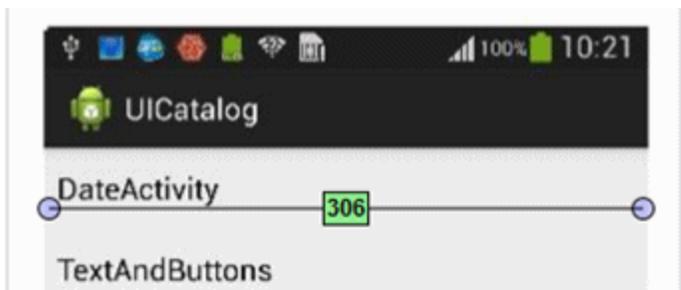
Sprinter には、アプリケーションの表示の不具合を検出するためのさまざまなツールがあります。

本項の内容

- ルーラー・ツール
- ガイド・ツール
- カラー・ピッカー・ツール

ルーラー・ツール

ルーラー・ツール  を使用すると、表示されているアプリケーションのユーザ・インタフェース要素間の間隔を正確に測定できます。ルーラー・ツールでは罫線の長さがピクセル単位で表示されません。



ユーザ・インタフェース要素は、通常は画面で水平および垂直に配列されます。このため、ルーラー・ツールでは、要素間の間隔を測定しやすくなるように、罫線をドラッグするときに罫線が水平軸方向または垂直軸方向にロックされます (SHIFT キーを押しながらドラッグでロック解除)。また、ユーザ・インタフェースの複数の要素の間隔を比較できるように、複数の罫線を注釈ワークスペースに配置することも可能です。注釈ワークスペースを拡大すると、さらに正確に要素の測定を行うことができます。

ルーラー・ツールを表示することにより、2つのユーザ・インタフェース要素間の距離を正確に測定できます。

ガイド・ツール

ガイド・ツール  を使用すると、アプリケーションのユーザ・インタフェース要素の整列状態を調べることができます。

ガイド・ツールを選択すると、注釈ワークスペースでアプリケーションの画面キャプチャ上にカーソルを移動する際に、垂直および水平のガイド・ラインがカーソルに追従します。マウスの左ボタンをクリックすると、ガイド・ラインがワークスペースに配置されるので、要素が整列しているかどうかを判断できます。不具合を報告したり、画面キャプチャの保存、電子メール送信、印刷を行ったりするときには、ガイド・ラインをワークスペースに残してアプリケーションの画面キャプチャに含めることができます。ワークスペースには、複数のガイド・ラインを配置することが可能です。注釈ワークスペースを拡大すると、要素の配置を詳細に確認できます。

カラー・ピッカー・ツール

カラー・ピッカー・ツール  を使用すると、画面の任意の箇所の色を検出したり、画面の複数の箇所の色を比較したりできます。このため、テストしているアプリケーションで使用されている色に整合性があるかどうかを判定できます。

カラー・ピッカー・ツールを選択し、注釈ワークスペースにカーソルを移動すると、カーソルの上のポップアップ・バルーンにRGB（赤、緑、青）の値が表示されます。複数のポップアップ・バルーンをワークスペースに配置して、画面上のさまざまな要素の色に整合性があるかどうかを判定できます。不具合を報告したり、画面キャプチャの保存、電子メール送信、印刷を行ったりするときには、ポップアップ・バルーンをワークスペースに残してアプリケーションの画面キャプチャに含めることができます。

親トピック： [「不具合の検出と送信の概要」\(103ページ\)](#)

不具合の送信

Sprinter には、不具合を送信する次の方法が用意されています。

• スマート不具合

Sprinter の**スマート不具合**で不具合を送信する場合、不具合に自動的に追加する情報のタイプを指定できます。

- **不具合の説明：**不具合シナリオを不具合の説明に追加できます。シナリオには、自動的に生成されたテスト・ステップのリストや、実行中に行ったユーザ操作が記録されたリストを追加できます。

追加する情報を選択すると、選択した情報が不具合の説明にすでに入力された状態で [新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。そこで、その他の不具合のフィールドに入力し、不具合を送信します。

- **画面キャプチャおよびムービー：**不具合を表す画面キャプチャを不具合に添付できます。不具合を注釈ワークスペースから送信する場合は、追加した注釈が画面キャプチャに含まれます。詳細については、[「\[注釈ツール\] サイドバー」\(122ページ\)](#)を参照してください。また、実行のムービーを添付することも可能です。

不具合に追加する情報の詳細および設定方法については、[「\[スマート不具合設定\] ダイアログ・ボックス」\(114ページ\)](#)を参照してください。

• 新規不具合

[新規不具合の詳細] ダイアログ・ボックスを Sprinter から直接開いて、不具合のすべてのフィールドに手動で入力できます。注釈は Sprinter のテストとともに保存され、不具合に添付ファイルとしては追加されません。

• 不具合メモ

不具合メモを作成することにより、フローを中断しなくてもテストを続行できます。

不具合メモでは、アプリケーションの不具合を要約できます。メモはテスト結果に追加され、テストの最後に確認できます。その後、テスト結果から不具合を送信します。テスト中に利用可能な情報と同じ情報を、テスト結果からも利用できます。このため、その時点で画面キャプチャ、ムービー、ステップや操作に関する情報を不具合に追加することが可能です。

Sprinter で不具合を送信すると、不具合は「[\[不具合追跡システムの設定\] ダイアログ・ボックス](#) (31ページ)で設定されている DTS サーバとプロジェクトで作成されます。

不具合を検出および送信する方法

このタスクでは、Sprinter を使用して不具合を送信する方法をいくつか説明します。また、アプリケーションの不具合の画面キャプチャを電子メール送信、保存、印刷することもできます。

このタスクは次の手順で構成されています。

- [アプリケーションの画面キャプチャの検証および注釈付け \(オプション\)](#)
- [不具合の送信](#)
- [不具合メモの作成](#)
- [不具合の画面キャプチャの電子メール送信、保存、印刷 \(オプション\)](#)

アプリケーションの画面キャプチャの検証および注釈付け (オプション)

Sprinter の画面検査ツールや注釈ツールを使用して、アプリケーションの画面キャプチャの不具合を検出したり、マークを付けたりすることができます。

1. **[ツール]** サイドバーで **[注釈ワークスペース]** ボタン  をクリックし、注釈ワークスペースを開きます。
2. **[注釈ツール]** サイドバーのツールを使用して、不具合を探し、画面キャプチャを準備します。詳細については、「[\[注釈ツール\] サイドバー](#)」(122ページ)を参照してください。詳細については、「[不具合の検出と送信の概要](#)」(103ページ)を参照してください。

不具合の送信

不具合は次のいずれかの場所から送信できます。

- 「[\[ツール\] サイドバー](#)」(111ページ)
- 「[\[ステップ\] サイドバー](#)」(92ページ)
- 「[\[注釈ツール\] サイドバー](#)」(122ページ)
- 「[\[ストーリーボード\] ウィンドウ](#)」(135ページ)

これらの場所から、次の操作を実行できます。

- **[ツール]** , **[ステップ]** , **[注釈ツール]** のいずれかのサイドバーで **[スマート不具合]** ボタン



をクリックして**スマート不具合**を開きます (標準設定)。スマート不具合を使用すると、アプリケーションの不具合の画面キャプチャやムービーだけでなく、不具合シナリオの詳細情報を不具合の説明に自動的に追加できます。詳細については、「[不具合の送信](#)」(106ページ)を参照してください。

スマート不具合に追加する情報の設定方法の詳細については、「[\[スマート不具合設定\] ダイアログ・ボックス](#)」(114ページ)を参照してください。

詳細については、「[不具合の送信](#)」(106ページ)を参照してください。

- **[スマート不具合]** ボタンの隣の下向き矢印をクリックし、**[新規不具合]** を選択して **[新規不具合]** ダイアログ・ボックスを開きます。これで、不具合のフィールドを手動で設定できます。詳細については、「[不具合の送信](#)」(106ページ)を参照してください。

注釈ワークスペースから不具合を送信する場合は、**[注釈ツール]** サイドバーの **[閉じる]** ボタンをクリックして注釈ワークスペースを閉じ、アプリケーションに戻ります。

詳細については、次の項目を参照してください。

- 「[\[ツール\] サイドバー](#)」(111ページ)
- 「[\[ステップ\] サイドバー](#)」(92ページ)
- 「[\[注釈ツール\] サイドバー](#)」(122ページ)

不具合の送信は、「[\[不具合メモ\] 表示枠 \(結果グループ\)](#)」(133ページ)でミラーリング・テストの差異を解決しているときにも実行できます。

不具合メモの作成

不具合メモは、次のいずれかの場所で作成できます。

- 「[\[ツール\] サイドバー](#)」(111ページ)
- 「[\[ステップ\] サイドバー](#)」(92ページ)

これらの場所から、次の操作を実行できます。

- **[スマート不具合]** ボタンの隣の下向き矢印をクリックし、**[不具合メモ]** を選択して、後で不具合を送信するためにメモを追加します。

詳細については、「[\[不具合メモ\] ダイアログ・ボックス](#)」(120ページ)を参照してください。

不具合の画面キャプチャの電子メール送信, 保存, 印刷 (オプション)

アプリケーションの不具合の画面キャプチャの電子メール送信, 保存, 印刷は次の場所から行うことができます。

- **[ツール] サイドバー**
- **[注釈ツール] サイドバー**

この場所では、**[画面キャプチャ]** ボタン  の隣の下向き矢印をクリックして、次のいずれかを選択します。

- **電子メール**: 標準設定の電子メール・エディタで電子メール・メッセージを開き、アプリケーションの不具合の画面キャプチャを添付ファイルとして追加します。
- **保存**: アプリケーションの不具合の画面キャプチャをファイル・システムに保存します。
- **印刷**: アプリケーションの不具合の画面キャプチャを印刷します。

注釈ワークスペースで画面キャプチャを電子メール送信, 保存, 印刷する場合は, **[注釈ツール]** サイドバーの **[閉じる]** ボタンをクリックして注釈ワークスペースを閉じ, アプリケーションに戻ります。

詳細については, 「**[ツール] サイドバー**」(111ページ)および「**[注釈ツール] サイドバー**」(122ページ)を参照してください。

DTS で使用するフィールドのカスタマイズ方法

本項では, Sprinter と DTS の統合をカスタマイズする方法を説明します。たとえば, **[新規不具合]** ダイアログ・ボックスにフィールドを追加し, 不具合を表示する URL を指定する操作などがあります。

注: HP Agile Manager DTS のフィールドはカスタマイズできません。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「**カスタマイズ・ファイルの場所の特定**」(109ページ)
- 「**編集用にファイルを開く**」(110ページ)
- 「**プロジェクト名の指定 (オプション)**」(110ページ)
- 「**既存フィールドでの標準設定値の指定 (オプション)**」(110ページ)
- 「**新しいフィールドの追加 (オプション)**」(110ページ)
- 「**必須フィールドの指定 (Bugzilla のみ)**」(110ページ)
- 「**不要なフィールドの削除 (オプション)**」(111ページ)
- 「**不具合を表示する URL の選択**」(111ページ)
- 「**問題タイプ名の設定 (JIRA のみ)**」(111ページ)
- 「**ファイルの保存**」(111ページ)

カスタマイズ・ファイルの場所の特定

DTS フォルダ (<インストール・フォルダ>/bin/DTS/JIRA や <インストール・フォルダ>/DTS/Bugzilla など)を開き, **DefaultFieldCustomization.xml** ファイルを探します。

DTS 内のすべてのプロジェクトにフィールドを追加する場合は, このフィールドを直接編集します。特定のプロジェクトにカスタム・フィールドを追加するには, このファイルをコピーし, 別名で保存

します。カスタム・ファイルにプロジェクト名を指定すると、プロジェクトの標準設定が上書きされます。

編集用にファイルを開く

XML ファイルを開きます。JIRA の XML の例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Project>
  <DefectSubmissionFields>
    <Field Name="Priority" IsVisible="True" IsMandatory="true">Minor</Field>
    <Field Name="Component/s" IsVisible="false"/>
    <Field Name="Affects Version/s"/>
  </DefectSubmissionFields>
</Project>
```

プロジェクト名の指定 (オプション)

カスタマイズするプロジェクト名を指定するには、Name 属性 (大文字と小文字を区別) を **Project** 要素に追加します。例:

```
<Project Name="MyDTSPProject">
```

既存フィールドでの標準設定値の指定 (オプション)

開始タグの後に値を追加します。IncludeField タグでエントリがクローズされていることを確認してください。次の例では、標準設定バージョンとして 2.00 が追加されています (サーバは自動的に標準設定値を取得しません)。

```
<Field Name="Affects Version">2.00</Field>
```

新しいフィールドの追加 (オプション)

フィールドを追加し、必要に応じて標準設定値を指定します。例:

```
<Field Name="Responsible">QA</Field>
```

DTS のカスタム・フィールドを指定する場合には、次のフィールドは使用できません。

- **JIRA ユーザ**: 次の特殊文字を含むフィールド: <>\/:;[]*^%\$#@!

フィールド・タイプに関連する制限事項については、「[トラブルシューティングと制限事項 - DTS](#)」(125ページ)を参照してください。

必須フィールドの指定 (Bugzilla のみ)

Bugzilla で必須フィールドを指定するには、IncludeField 要素の **Mandatory** 属性を true に設定します。例:

```
<Field Name="Responsible" IsMandatory="true"/>
```

不要なフィールドの削除 (オプション)

[新規不具合] ダイアログ・ボックスに表示したくないフィールドを削除します。

注: DTS で必須フィールドとして指定したフィールドはすべて [新規不具合] ダイアログ・ボックスに表示され、削除できません。このフィールドは XML ファイルには表示されません。

不具合を表示する URL の選択

不具合の表示に使用する URL パスを設定します。標準設定では、Sprinter は [不具合追跡システムの設定] ダイアログ・ボックスで指定したサーバ・パスを使用します。ただしシステムによっては、これとは異なる URL を使用して不具合を表示します。

表示用 URL を変更するには、Project 要素に **URLForDefectView** 属性 (大文字と小文字を区別) を追加します。例:

```
<Project URLForDefectView="http://myserver/bugzilla/">
```

問題タイプ名の設定 (JIRA のみ)

問題タイプ名は、標準設定 (**Bug**) 以外の値に設定できます。

問題タイプ名を変更するには、Project 要素に **IssueTypeName** 属性 (大文字と小文字を区別) を追加します。例:

```
<Project IssueTypeName="Story">
```

ファイルの保存

DefaultFieldCustomization.xml ファイルを保存して閉じます。

[ツール] サイドバー

このサイドバーでは、アプリケーションのユーザ・インタフェースの不具合を検出し、不具合追跡システムに報告します。注釈ワークスペースを開くと、アプリケーションの画面キャプチャに注釈を付けて、画面キャプチャを不具合に追加したり、画面キャプチャの保存、印刷、電子メール送信を行ったりすることができます。

 パワー・モードでは、このサイドバーでテストへのコメントの追加、タイムライン・ビューアのオープン、実行に含まれるユーザ操作のリストの表示を行うことも可能です。

[ツール] サイドバーで実行できるタスクを次に示します。

- 「不具合を検出および送信する方法」(107ページ)

次に、パワー・モードがオフの場合の [ツール] サイドバーの図を示します。



次に, パワー・モードがオンの場合の [ツール] サイドバーの図を示します。



<p>アクセス方法</p>	<p>次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実行モードに切り替えます。 2. テストを開きます。 3. [実行] ボタン  または [パワーモードで実行] ボタン  をクリックします。 <p>ヒント: サイドバーを開いた位置にロックするには, 押しピン  アイコンをクリックします。サイドバーの位置を変更するには, サイドバーのヘッダをドラッグします。</p>
<p>参照情報</p>	<p>「不具合の検出と送信の概要」 (103ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	<p> ストーリーボード: [ストーリーボード] ウィンドウが開きます。ここでは, テストに含まれるすべてのユーザ操作が画像で示される一覧を表示できます。詳細については, 「[ストーリーボード] ウィンドウ」 (135ページ)を参照してください。</p>
	<p> ユーザ操作: 記録されているユーザ操作のリストが表示されます。このリストは .xls ファイルまたは .csv ファイルにエクスポートできます。また, このリストを印刷または電子メール送信することも可能です。詳細については, 「[ユーザ操作] 表示枠/ [ユーザ操作の概要] ダイアログ・ボックス」 (134ページ)を参照してください。</p>
	<p>スマート不具合: 不具合を送信できます。 ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  スマート不具合: (標準設定) 自動生成された不具合シナリオの情報を不具合の説明に追加できます。詳細については, 「[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス」 (114ページ)を参照してください。 •  新規不具合: 新しい不具合を手動で送信できます。詳細については, 「[新規不具合] ダイアログ・ボックス」 (117ページ)を参照してください。 •  不具合メモの追加: 不具合メモを追加できます。詳細については, 「[不具合メモ] ダイアログ・ボックス」 (120ページ)を参照してください。
	<p>注釈ワークスペース: 注釈ワークスペースが開きます。ここでは, アプリケーションのユーザ・インタフェースの不具合を検出し, アプリケーションの画面キャプチャに注釈を追加します。</p> <p>注釈ワークスペースでは, 注釈付きの画面キャプチャを不具合に追加したり, 現在のステップの実際の結果に保存したりできるほか, 注釈付きの画面キャプチャの保存, 印刷, 電子メール</p>

UI 要素	説明
	送信を行うことが可能です。 詳細については、「 【注釈ツール】 サイドバー (122ページ) 」を参照してください。
	画面キャプチャ : アプリケーションのスナップショット画像を取得します。 ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 電子メール: (標準設定) アプリケーションの画面キャプチャが添付された状態で、標準の電子メール・アプリケーションでメッセージが開きます。 • 保存: アプリケーションの画面キャプチャを保存します。 • 印刷: アプリケーションの画面キャプチャを印刷します。
	コメントを追加 : 現在のユーザ操作にコメントを追加できます。詳細については、「 【コメント】 ダイアログ・ボックス (121ページ) 」を参照してください。 ストーリーボード・ウィンドウでテストに追加したコメントは、操作ごとに確認できます。タイムライン・ビューアの詳細については、「 【ストーリーボード】 ウィンドウ (135ページ) 」を参照してください。
<カスタム・アイコン>	最初のカスタム・ツールを示すアイコンです。詳細については、下記を参照してください。

[ツール] サイドバーへのカスタム・ツールの追加

Sprinter では、[ツール] サイドバーにツールを追加することができます。このツールは、[ツール] サイドバーのボタンと同様に、テストの実行中に利用できます。

ツールとは、コマンド・ラインから実行可能なすべてのプログラムを指します。たとえば、実行可能ファイル、VB スクリプトなどがあります。ツールを追加するには、次の手順で行います。

1. **<インストール・フォルダ> /bin** フォルダを開き、**CustomCommands.xml** ファイルを探します。このファイルには、いくつかの例がコメント行として記述されています。
2. XML ファイルを開きます。
3. 実行可能ファイル、またはコマンド・ラインから実行可能なプログラムを指定します。
例: `<FileName>notepad.exe</FileName>`
4. コマンド・ラインと同じ構文で、引数を指定します。
例: `<Arguments>C:\temp.txt</Arguments>`
5. ツールを示すアイコンのパスを指定します。例: `<ImageSource>C:\Mylcon.jpg</ImageSource>`
6. ツールのタイトルを指定します。このタイトルは、[ツール] サイドバーのドロップダウン・リストに表示されます。例: `<Title>メモ帳</Title>`
7. ツールの操作を指定します。この内容は、ツールヒントのヘッダに表示されます。
例: `<TooltipHeader>メモ帳を開く</TooltipHeader>`
8. ツールの説明を指定します。この内容は、ツールヒントのヘッダに表示されます。

例 : <TooltipDescription>メモ帳で C:\temp.txt ファイルを開く</TooltipDescription>

9. ファイルを保存して閉じます。

[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, 不具合の説明に追加される情報と不具合の添付ファイルを指定できます。

[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- [「不具合を検出および送信する方法」\(107ページ\)](#)

次に, [スマート不具合設定] ダイアログ・ボックスの図を示します。

アクセス方法

テストの実行中に, 次のいずれかのサイドバーで [スマート不具合] ボタン  をクリックします。

- [ツール] サイドバー
- [ステップ] サイドバー
- [注釈ツール] サイドバー

	<ul style="list-style-type: none"> • [ストーリーボード] ウィンドウ
重要な情報	 操作のオプションは、パワー・モードで作業している場合にのみ利用できます。
参照情報	「不具合の検出と送信の概要」(103ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ステップの情報>	<p>このUI要素は、ステップ単位のテストの操作時のみに利用できます。</p> <p>ステップの情報を不具合の説明の一部として追加できます。</p> <p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 現在までのすべてのステップ : テストに含まれるステップのうち、現在のステップまでの全ステップのステップ名と説明が追加されます。 • すべてのステップ : テストのすべてのステップのステップ名と説明が追加されます。 • カスタム : 不具合の説明に追加するステップを選択します。詳細については、「[カスタム選択] ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。 <p>不具合の説明には、説明に追加する最後のステップの期待される結果も追加されます。</p>
最終ステップの実際の結果を含める	<p>不具合の説明に含めた最終ステップの実際の結果が追加されます (実際の結果がある場合)。</p>
 <操作の情報>	<p>ユーザ操作の情報を不具合の説明の一部として追加できます。</p> <p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最新 5 件のユーザ操作 : 最新の 5 件のユーザ操作の説明を追加します。 • 最新 10 件のユーザ操作 : 最新の 10 件のユーザ操作の説明を追加します。 • すべてのユーザ操作 : すべてのユーザ操作の説明を追加します。 • カスタム : 不具合の説明に追加するユーザ操作を選択します。詳細については、「[カスタム選択] ダイアログ・ボックス」(116ページ)を参照してください。
説明のプレビュー	<p>不具合の説明に追加される情報をプレビューできます。</p>
不具合に添付	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の画面キャプチャ : アプリケーションの画面キャプチャを不具合の添付ファイルとして追加します。 <ul style="list-style-type: none"> • 不具合を注釈ワークスペースから送信する場合は、画面キャプチャに注釈が含まれます。 • 不具合を差異ビューアから送信する場合は、両方のマシンの画面キャプチャが不具合に添付されます。 • 画面のムービー : 実行のムービーを追加します。ドロップダウン・ボックスで値を選択して、追加するムービーの数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 画面ムービーは、有効化または無効化が可能です。テスト実行前に画面ムービーを有効にする必要があります。詳細については、「[実行設定] 表示枠 ([設定] ダイアログ・ボックス) 」(37ページ)を参照してください。 • Sprinter のサイドバーはムービーに表示されないことがあります。

UI 要素	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション・ログ: 不具合の添付ファイルとして実行中に作成されるアプリケーション・ログを追加します。 • デバイス・メトリックス: 実行中に収集されるデバイス・パラメータを追加します。 • Network Virtualization レポート: 不具合の添付ファイルとして実行中に作成される Network Virtualization レポートを追加します。このレポート (ZIP ファイル, HTML ファイルと CSV ファイルを含む) は, ネットワークの仮想化:をテストでアクティブ化した場合に作成されます。 <p>注: テスト実行で不具合を複数作成する場合, Network Virtualization レポートには最初の不具合のみが含まれます。これ以降の不具合で作成されるレポートには何も表示されません。</p>
不具合の送信	<p>[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックスが閉じ, [新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは, 不具合の残りの情報を入力できます。詳細については, 「[新規不具合] ダイアログ・ボックス」(117ページ)を参照してください。</p>
キャンセル	<p>不具合の送信が取り消されます。</p>



ヒント: 不具合に添付したムービーは, .fbr ファイルとして保存されます。DTS マシンにあるムービーを再生するには, マシンに MSR プレイヤーをコピーします。プレイヤー (**Free_MSR_Player.exe**) は Sprinter の **bin** フォルダに格納されています。

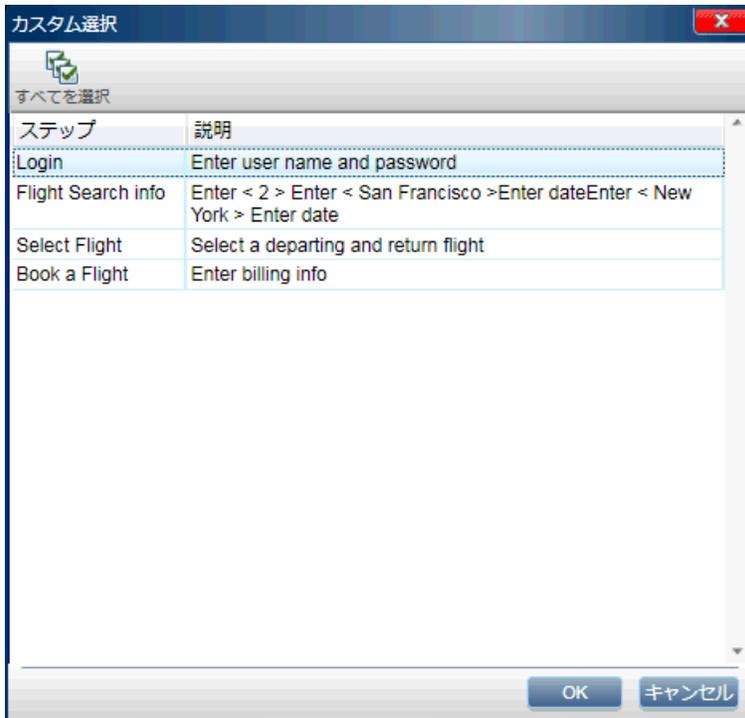
[カスタム選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログでは, 不具合に追加する特定のステップまたはユーザ操作を選択できます。

[カスタム選択] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「[不具合を検出および送信する方法](#)」(107ページ)

次に, [カスタム選択] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法

「[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス」(114ページ)で、**ステップの情報**または**操作の情報**のいずれかのドロップダウン・リストで**【カスタム】**を選択します。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
すべて選択	リストのステップまたは操作がすべて選択されます。
<ステップ/操作のリスト>	<p>テストに含まれるステップまたはテストでのユーザ操作のリストです。CTRL キーを押しながらかlickすると、複数のステップまたは操作を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 操作のリストには、実行でこれまでにを行った操作のみが含まれています。 ステップのリストには、テストのすべてのステップが含まれています。

[新規不具合] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、不具合追跡システムに新しい不具合を送信します。

[新規不具合] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「不具合を検出および送信する方法」(107ページ)

次に、Bugzilla DTS の [新規不具合] ダイアログ・ボックスの図を示します。

新規不具合

* サマリ:

説明:
[不具合の説明を入力](#)

Version:

Component:

Severity:

Priority:

添付ファイル: 添付ファイルなし
[添付ファイルの追加](#)

次に, JIRA DTS の [新規不具合] ダイアログ・ボックスの図を示します。

新規不具合

* サマリ:
不具合の短いサマリを入力します

説明:

* Reporter:

* Priority:

Affects Version/s:

添付ファイル: 添付ファイルなし
[添付ファイルの追加](#)

次に, HP Agile Manager DTS の [新規不具合] ダイアログ・ボックスの図を示します。

<p>アクセス方法</p>	<p>テストの実行中に, 次のいずれかのサイドバーで [新規不具合] ボタン  をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ツール] サイドバー • [ステップ] サイドバー
<p>参照情報</p>	<p>「不具合の検出と送信の概要」(103ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
サマリ	この不具合で送信するサマリです。
説明	この不具合で送信する説明です。
添付ファイル	この不具合に添付するファイルのリストです。添付ファイルを追加するには, リストの下にある [添付ファイルの追加] リンクをクリックします。
不具合の送信	不具合を DTS に送信します。

UI 要素	説明
キャンセル	不具合の送信が取り消されます。

また、ダイアログ・ボックスの下の部分には、DTS プロジェクトに必要なフィールドと、手動で追加できるフィールドが表示されます。[新規不具合] ダイアログ・ボックスにフィールドを追加する方法の詳細については、「[DTS で使用するフィールドのカスタマイズ方法](#)」(109ページ)を参照してください。

Sprinter 不具合追跡システム API

Sprinter では、不具合追跡システムのコネクタをユーザが作成できます。不具合追跡システム API を使用すれば、不具合追跡アプリケーションに不具合を送信するコネクタを記述できます。Sprinter でテストを実行すると、コネクタが実行されます。リファレンスを開くには、[こちら](#)をクリックしてください。

[不具合メモ] ダイアログ・ボックス

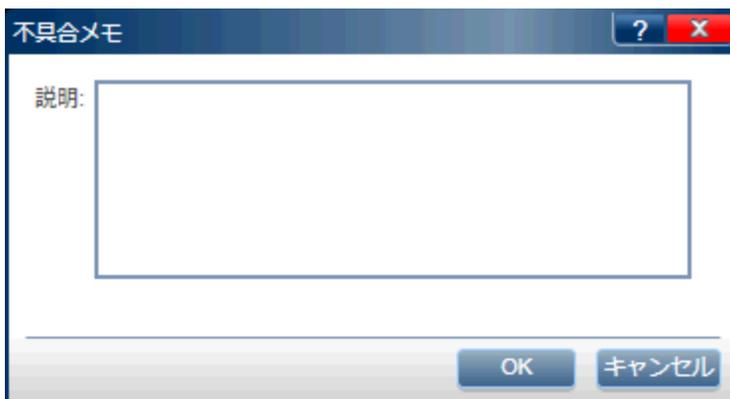
パワー・モードのみが対象

このダイアログ・ボックスでは、後で不具合を開くためにメモを追加します。

[不具合メモ] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「[不具合を検出および送信する方法](#)」(107ページ)

次に、[不具合メモ] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法

テストの実行中、次のいずれかの場所からアクセスできます。

- [ツール] サイドバー
- [ステップ] サイドバー

	<p>テストの実行中に 【スマート不具合】 ボタン  の隣の下向き矢印をクリックし, 【不具合メモの追加】 を選択します。</p>
重要な情報	<p>不具合メモは次のように表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 【ストーリーボード】 ウィンドウで, 不具合メモを作成したユーザ操作に表示されます。詳細については, 「【ストーリーボード】 ウィンドウ (135ページ)」を参照してください。 • 【結果】 > 【不具合メモ】 の順に選択すると表示されます。 <p>注: 【実行セットアップ】 領域から実行を削除, 既存の実行を新しい実行で置換, Sprinterを終了などの操作を行うと, 不具合メモは破棄されます。不具合メモが追加された実行を閉じると, 警告メッセージが表示されます。</p>

[コメント] ダイアログ・ボックス

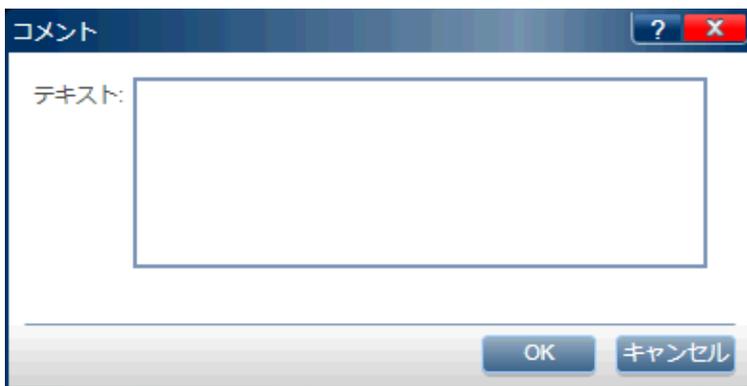
パワー・モードのみが対象

このダイアログ・ボックスでは, 現在のユーザ操作にコメントを追加できます。

【コメント】 ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「**【テストをSprinterで実行する方法】 (67ページ)**」

次に, **【コメント】** ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法	<p>テストの実行中に 【ツール】 サイドバー > 【コメントを追加】 ボタン  をクリックします。</p>
重要な情報	<p>コメントは, 各ユーザ操作に1つだけ追加できます。現在の操作に対して作成したコメントを編集するには, 【コメントを追加】 ダイアログ・ボックスをもう一度開きます。</p> <p>コメントは次のように表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイムライン・ビューアで, 不具合メモを作成したユーザ操作に表示されます。 • 【結果】 > 【実行の概要】 の順に選択し, 【追加されたコメント】 の隣のリンクをクリックすると表示されます。

[注釈ツール] サイドバー

このサイドバーでは、視覚的に示される注釈をアプリケーションの画面キャプチャに追加できます。また、アプリケーションのユーザ・インタフェース要素の特徴を調べて、レイアウトや色の不具合を検出することも可能です。

注釈付きの画面キャプチャは、DTS の不具合に追加できるほか、印刷、保存、電子メールへの添付を行うこともできます。

[注釈ツール] サイドバーで実行できるタスクを次に示します。

- 「[不具合を検出および送信する方法](#)」(107ページ)

次に、[注釈ツール] サイドバーの図を示します。



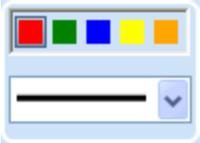
アクセス方法

- [ツール] サイドバーまたは「[\[実際の結果\] ダイアログ・ボックス](#)」(98ページ)で、**[注釈ワークスペース]** ボタン  をクリックします。
- [注釈ツール] サイドバーが開いた状態で、注釈ワークスペースが開きます。
- サイドバー・タブをクリックするか、サイドバー・タブ以外の場所をクリックすると、サイドバーが閉じます。

	<ul style="list-style-type: none"> • サイドバーを開いた位置にロックするには、押しピン  アイコンをクリックします。 • サイドバーの位置を変更するには、サイドバーのヘッダをドラッグします。
重要な情報	注釈ワークスペースが開くと、ドロップダウン・メニューなどの一部のオブジェクトが自動的に閉じます。これらのオブジェクトが表示された状態で注釈ワークスペースを開くには、キーボード・ショートカット (CTRL + F10) を使用します。
参照情報	「注釈ツールによる不具合の検出」 (104ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ツール	
	選択 : 注釈ワークスペースで前に作成した注釈が選択されます。選択した注釈は、移動、サイズ変更、削除することができます。選択した注釈以外の場所をクリックすると、選択が解除されます。
	注釈の削除 : 選択した注釈がワークスペースから削除されます。
	テキスト : 注釈ワークスペースにテキスト・ボックスを追加します。[プロパティ] 領域では、テキスト・ボックスの背景色とテキスト色を決定します。背景色が黄色の場合はテキストは黒色で、背景色が黒色の場合はテキストは白色です。テキスト・ボックスを描画する領域に応じて、最も見やすい色を選択してください。
	四角形 : 注釈ワークスペースに四角形を描画します。[プロパティ] 領域では、四角形の色と幅を決定します。
	楕円 : 注釈ワークスペースに楕円形を描画します。[プロパティ] 領域では、楕円形の色と幅を決定します。
	矢印 : 注釈ワークスペースに矢印を描画します。[プロパティ] 領域では、矢印の色と幅を決定します。
	ハイライト : 注釈ワークスペースの一定部分を強調表示します。クリックしてドラッグし、強調表示する部分の長さや幅を定義します。[プロパティ] 領域では、強調表示する部分の色を決定します。
	ルーラー : 直線を注釈ワークスペースに描画します (長さはピクセル単位で表示されます)。ルーラー・ツールでは、ドラッグ中にルーラーの線が水平軸方向または垂直軸方向にロックされます。軸がロックされないようにするには、Shift キーを押しながらドラッグします。詳細については、 「注釈ツールによる不具合の検出」 (104ページ) を参照してください。
	ガイド : 注釈ワークスペースの縦方向と横方向に沿って垂直および水平のガイドラインが表示されます。ガイドラインの交点 (十字線) はカーソルの下に表示されます。ガイドラインの位置は 選択 ツールを使用して変更できます。垂直および水平の線を個別に選択して位置を変更することも可能です。 クリックすると、ガイドがワークスペースに配置されます。詳細については、 「注釈ツールによる不具合の検出」 (104ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
	<p>カラー・ピッカー：注釈ワークスペース上の任意の点の RGB 値がポップアップ・ウィンドウに表示されます。任意の場所をクリックすると、ポップアップ・ウィンドウがワークスペースに配置されます。詳細については、「注釈ツールによる不具合の検出」(104ページ)を参照してください。</p>
<p>プロパティ</p>	
	<p>色と太さ：現在選択しているツール（テキスト、強調、矢印、四角形、円）の色と幅を指定します。</p>
	<p>ズーム：注釈ワークスペースの画面をズームインまたはズームアウトします。ズーム機能には、次のコントロールが用意されています。</p> <ul style="list-style-type: none">  画面をズームインします。  画面を 100% に戻します。  画面をズームアウトします。100% を超えてズームアウトすることはできません。 <ul style="list-style-type: none"> 画像にズームインしたときは、CTRL キーを押しながらマウスの左ボタンを押すと画像をドラッグできます。カーソルが手の形に変わり、画像のさまざまな領域を表示範囲内または表示範囲外にマウスまたはキーボードの矢印キーでドラッグできます。 <p>また、マウスのホイールを使用してもズームインおよびズームアウトできます。</p>
<p>画面キャプチャ</p>	
	<p>画面キャプチャ：アプリケーションの画面キャプチャを取得します。ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保存：アプリケーションの画面キャプチャを保存します。 印刷：アプリケーションの画面キャプチャを印刷します。 電子メール：アプリケーションの画面キャプチャが添付された状態で、標準の電子メール・アプリケーションでメッセージが開きます。
	<p>スマート不具合：DTS に不具合を送信できます。ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> スマート不具合：（標準設定）「[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス」(114ページ)が開きます。ここでは、自動的に生成された不具合シナリオの情報を不具合の説明に追加できます。詳細については、「[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス」(114ページ)を参照してください。 新規不具合：[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、手動でDTSに不具合を送信できます。
	<p>実際の結果に保存：注釈付きの画面キャプチャが現在のステップの実際の結果に追加されます。ステップのないテストの場合は無効化されます。</p>

UI 要素	説明
閉じる	注釈ワークスペースが閉じます。

トラブルシューティングと制限事項 - DTS

ここでは、不具合追跡システムのトラブルシューティングと制限事項について説明します。

次の制約事項は、[New Defect] ダイアログ・ボックスのフィールドに適用されます。この制約事項は、サーバ上で必須と指定されたフィールド、またはカスタマイズで追加されたフィールドに適用されます。詳細については、「[DTS で使用するフィールドのカスタマイズ方法](#) (109ページ)を参照してください。

- DTS プロバイダに [Mail] を選択した場合、マシン上にインストールされた標準設定の電子メール・クライアントに基づいて、不具合情報が電子メールで送信されます。Sprinter を使ったテスト・セッション中は、電子メール・クライアントを開いたままの状態にすることをお勧めします。

JIRA 不具合追跡システムのカスタマイズ

次の制約事項は、JIRA 不具合追跡システムの [New Defect] ダイアログ・ボックスのフィールドに適用されます。

- [New Defect] ダイアログ・ボックスの [Date Time] フィールドで、[Date/Time] ピッカーを使って日付は選択できますが時刻は選択できません。サーバへの送信日時は、手動での指定が可能です。
- [New Defect] ダイアログ・ボックスの [Labels] フィールドに、既存のラベルが表示されません。ラベルを複数指定する場合は、空白文字で区切って手動で入力します。ラベルが存在しない場合は作成されます。これは、REST API の制限事項です。
- [Linked Issues] と [Work Log] の各フィールドはサポートされません。この2つのフィールドがサーバで必須フィールドとして指定されている場合、不具合は送信できません。
- [New Defect] ダイアログ・ボックスで、[Time Tracking] フィールドの名前が [Original Estimate] フィールドと表示されます。
回避策: [Time Tracking] フィールド名をカスタマイズ・ファイルに手動で追加します。詳細については、「[DTS で使用するフィールドのカスタマイズ方法](#) (109ページ)を参照してください。
- [Number Field] をカスタム・フィールドとして追加する場合、不具合の送信時に数値で適切な小数点を使用する必要があります。JIRA サーバでの地域設定に応じて、カンマまたはピリオドを使用してください。
- Sprinter では、[Select List (cascading)] カスタム・フィールドの標準設定値が表示されません。
- 特殊文字が使用されているフィールド名の表示を xml で設定している場合、カスタム・フィールドは表示されません。

- [New Defect] ダイアログ・ボックスでは [Remaining Estimate] カスタム・フィールドは表示されません。

Bugzilla 不具合追跡システムのカスタマイズ

次の制約事項は, Bugzilla 不具合追跡システムの [New Defect] ダイアログ・ボックスのフィールドに適用されます。

- フィールドの標準設定値の式には, " (反転カンマ) と \ (バックスラッシュ) は使用できません。
- フラグ (バグまたは添付ファイル) は Bugzilla ではサポートされません。
- [Blocks] と [Depends On] カスタム・フィールドには, 既存の不具合 ID を指定する必要があります。
- [CC], [Assignee], [QA Contact] の各カスタム・フィールドには, ユーザのログイン名を指定する必要があります。
- **usebugaliases** が **False** に設定されていても, [New Defect] ダイアログ・ボックスには [Alias] フィールドが表示されます。
- **letsubmitterchoosepriority** が **Off** に設定されていても, [New Defect] ダイアログ・ボックスに [Priority] フィールドが表示されます。
- カスタム・フィールドを追加する際, [Field only appears when:] オプションは使用できません。
- 添付ファイルで [Description], [Content Type], [AttachURL] を指定できません。
- カスタマイズ・ファイルに追加したカスタム・フィールドのみが, ユーザに表示されます。

第6章: 実行結果

このガイドでは、パワー・モードでのみ利用可能な機能をパワー・モード  アイコンで示します。

本章の内容

概念

- [「実行結果の概要」](#) (127ページ)

タスク

- [「実行結果の表示方法」](#) (128ページ)

リファレンス

- [「結果グループ」](#) (130ページ)
- [「\[ユーザ操作\] 表示枠/ \[ユーザ操作の概要\] ダイアログ・ボックス」](#) (134ページ)
- [「\[ストーリーボード\] ウィンドウ」](#) (135ページ)

実行結果の概要

Sprinter の実行結果には実行内容の概要が表示されます。実行結果では、次の作業を行うことができません。

- 実行に関する基本情報、ユーザ操作の数、実行された不具合、コメント、ステータスごとのステップの内訳といった実行内容の概要を表示する。
- 実際の結果や、添付された画面キャプチャなどの添付ファイルといった、実行に含まれるすべてのステップの詳細を表示する。
- 実行中に送信したすべての不具合の詳細を表示する。
- ストーリーボードを開く。ストーリーボードでは、実行中に行った各ユーザ操作の詳細情報を確認できます。またこの情報を PDF または Microsoft Word ファイルにエクスポートすることができます。
- Sprinter は、テスト内のすべての操作のスクリーン・キャプチャを一時的に保存します。実行後、ストーリーボードで表示されている画像を Sprinter で保存するか、破棄するかを指定します。キャプチャする画像の指定は、Sprinter の [設定] ダイアログ・ボックスにある **[実行]** 表示枠で行います。詳細については、[「\[実行設定\] 表示枠 \(\[設定\] ダイアログ・ボックス\) 」](#) (37ページ)を参照してください。

詳細については、[「結果グループ」](#) (130ページ)を参照してください。

実行結果の表示方法

 一部の手順は、パワー・モードで実行されたテストにのみ該当します。

このタスクでは、実行結果を確認するためのさまざまな手順について説明します。

- [実行の概要の表示](#)
- [実行中に行ったステップの表示](#)
- [実行中に送信した不具合の表示](#)
- [実行中に作成した不具合メモの表示](#)
- [実行中に行ったユーザ操作の表示](#)
- [ストーリーボードでのユーザ操作の詳細および画面キャプチャの表示](#)

実行の概要の表示

【**実行の概要**】表示枠には、テストの基本情報やテストの実行に関する基本情報のほか、テストに含まれるステップや操作の概要など、テスト実行の概要が表示されます。また、開いた不具合や追加したコメントを表示したり、この概要の印刷または電子メール送信を行うことも可能です。

【**結果グループ**】の【**実行の概要**】ノードをクリックすると、【**実行の概要**】表示枠が表示されません。

実行中に行ったステップの表示

【**ステップの概要**】表示枠には、実際の結果および画面キャプチャなどの添付ファイルといった、テストで行ったステップの概要が表示されます。また、テストに含まれるステップのエクスポート、印刷、電子メール送信を行うことも可能です。

【**結果グループ**】の【**ステップの概要**】ノードをクリックすると、【**ステップの概要**】表示枠が表示されます。詳細については、「[「\[ステップ\] タブ \(結果グループ\)」 \(132ページ\)](#)」を参照してください。

実行中に送信した不具合の表示

【**実行不具合**】表示枠には、実行中に送信したすべての不具合の概要が表示されます。【**実行不具合**】表示枠から【**不具合の詳細**】ダイアログ・ボックスを開いて、不具合の情報を参照できます。また、実行不具合の概要を印刷または電子メール送信を行うことも可能です。

【**結果グループ**】の【**実行不具合**】ノードをクリックすると、【**実行不具合**】表示枠が表示されません。

詳細については、「[「\[実行不具合\] 表示枠 \(結果グループ\)」 \(132ページ\)](#)」を参照してください。

実行中に作成した不具合メモの表示

【**不具合メモ**】表示枠には、実行中に作成した不具合メモの概要が表示されます。この不具合メモを

使用して不具合を送信できます。また、不具合メモの概要の印刷または電子メール送信を行うことも可能です。

【結果グループ】の【不具合メモ】ノードをクリックすると、【不具合メモ】表示枠が表示されません。

詳細については、「[【不具合メモ】表示枠（結果グループ）](#)」（133ページ）を参照してください。

実行中に行ったユーザ操作の表示

【ユーザ操作】表示枠には、実行中に行ったユーザ操作の概要が表示されます。このユーザ操作は、.xls ファイル、.xlsx ファイル、.csv ファイルにエクスポートできます。また、ユーザ操作のリストの印刷または電子メール送信を行うことも可能です。

【結果グループ】の【ユーザ操作】ノードをクリックすると、【ユーザ操作】表示枠が表示されません。

詳細については、「[【ユーザ操作】表示枠/【ユーザ操作の概要】ダイアログ・ボックス](#)」（134ページ）を参照してください。

ストーリーボードでのユーザ操作の詳細および画面キャプチャの表示

1. 【結果】グループで【ストーリーボード】ノードを選択します。

ストーリーボードが開きます。

2. タイムラインで操作を選択します。

実行中に行ったすべてのユーザ操作が、ストーリーボードの下部に並んだサムネイル画像としてタイムラインに示されます。

タイムラインで操作を選択すると、操作の画面キャプチャと詳細がそれぞれストーリーボードの左上と右上の表示枠に表示されます。

タイムラインに表示されている操作にフィルタを適用できます。タイムラインのフィルタ処理と操作の詳細については、「[【ストーリーボード】ウィンドウ](#)」（135ページ）を参照してください。

3. 操作の詳細の表示

ストーリーボードの右上の表示枠には、タイムラインで選択している操作の情報が表示されません。

この表示枠では、次の作業を行うことができます。

- 操作の説明を表示する。
- 操作に対して送信した不具合のリストを表示する。不具合 ID のリンクをクリックすると、不具合の表示または編集を行うことができます。
- 操作に対して作成した不具合メモのリストを表示する。この不具合メモを使用して不具合を送信できます。
- コメントを表示する（コメントを操作に追加した場合）。

4. ストーリーボードを PDF ファイルまたは Word ファイルにエクスポートします。

ファイル・システム上で、PDF ファイルの保存先を選択します。このファイルには、実行情報、ステップのステータス、アクションの詳細など、実行セッション全体の情報が格納されています。

ストーリーボードの表示と操作の詳細については、「[\[ストーリーボード\] ウィンドウ](#)」(135 ページ)を参照してください。

結果グループ

結果グループは、メイン・ウィンドウの左側にあります。

新規テスト 8

印刷 電子メール

定義

- 一般設定
- ステップ (1)
- パラメータ (0)

結果

- 実行の概要
- ステップ (1)
- 実行不具合 (0)
- 不具合メモ (0)
- ユーザ操作 (0)
- ストーリーボード...

実行の概要

テスト名: 新規テスト 8
ステータス: ✔ Passed

実行名: 5
テスト担当者: CSSG_LnG_Auto

開始時刻: N/A
終了時刻: N/A
期間: N/A

操作	実行不具合	不具合メモ	コメント
0	0	0	0

ステップ 1

No Run

1

結果グループには次の表示枠があります。

- ・ 「[実行の概要] 表示枠 (結果グループ) 」 (131ページ)
- ・ 「[ステップ] タブ (結果グループ) 」 (132ページ)
- ・ 「[実行不具合] 表示枠 (結果グループ) 」 (132ページ)
- ・ 「[不具合メモ] 表示枠 (結果グループ) 」 (133ページ)
- ・ 「[ユーザ操作] 表示枠/ [ユーザ操作の概要] ダイアログ・ボックス」 (134ページ)
- ・ 「[ストーリーボード] ウィンドウ」 (135ページ)

[実行の概要] 表示枠 (結果グループ)

この表示枠には、テスト実行の概要が表示されます。テストの基本情報やテストの実行に関する基本情報のほか、テストに含まれるステップや操作、開いた不具合やコメントの概要を参照できます。

[実行の概要] 表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- ・ 「[実行結果の表示方法](#)」 (128ページ)

次に、[実行の概要] 表示枠の図を示します。

結果の情報の一部は、パワー・モード  で実行したテストのみで表示されます。

実行の概要

	テスト名: 新規テスト 8 ステータス:  Passed
	実行名: 5 テスト担当者: CSSG_LnG_Auto
	開始時刻: N/A 終了時刻: N/A 期間: N/A

 操作	 実行不具合	 不具合メモ	 コメント
0	0	0	0

 ステップ 1
 No Run
1

アクセス方法	実行後, [結果] > [実行の概要] ノードの順に選択します。
---------------	----------------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明は, この表示枠で確認できます。

[ステップ] タブ(結果グループ)

このタブには, テストで実行したステップの概要が表示されます。また, この表示枠でステップに関する情報のエクスポート, 印刷, 電子メール送信を行うことも可能です。

[ステップ] タブで実行できるタスクを次に示します。

- 「[実行結果の表示方法](#)」(128ページ)

次に, [ステップ] タブの図を示します。

#	ステータス	名前	説明	期待される結果
1	➡	ステップ 1	"i_username" フィールドに "jo" を入力する。	
2	➡	ステップ 2	"i_password" フィールドにパスワードを入力する。	
3	➡	ステップ 3	"Login" ボタンをクリックする。	
4	➡	ステップ 4	"Money Transfer" リンクをクリックする。	
5	➡	ステップ 5	"fromAccount" コンボボックスから "Money Market [543877 \$84.00]" を選択する。	
6	➡	ステップ 6	"toAccount" コンボボックスから "Checking [843875] \$1.757.00" を選択する。	
7	➡	ステップ 7	"Next" ボタンをクリックする。	
8	➡	ステップ 8	"amount" フィールドに "68" を入力する。	
9	➡	ステップ 9	"25" リンクをクリックする。	
10	➡	ステップ 10	"Next" ボタンをクリックする。	
11	➡	ステップ 11	"OK" ボタンをクリックする。	
12	➡	ステップ 12	"Logout" ボタンをクリックする。	

アクセス方法	テストの実行後, [結果] > [ステップ] ノードの順に選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • 表示されている Sprinter のウィンドウやカラムのサイズを変更して, 情報がすべて表示されるようにすることができます。 • [画面キャプチャ] カラムまたは [添付ファイル] カラムのサムネイルをダブルクリックすると, そのファイル・タイプに該当する, コンピュータの標準設定のプログラムで添付ファイルが開きます。

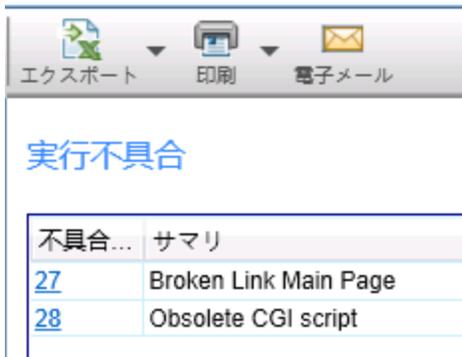
[実行不具合] 表示枠(結果グループ)

この表示枠には, テストの実行中に送信した不具合の概要が表示されます。また, 実行時の不具合の概要のエクスポート, 印刷, 電子メール送信を行うことも可能です。

[実行不具合] 表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- 「[実行結果の表示方法](#)」(128ページ)

次に, [実行不具合] 表示枠の図を示します。



アクセス方法	実行後, [結果] > [実行不具合] ノードの順に選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">• 不具合 ID 番号をクリックすると, [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。

[不具合メモ] 表示枠(結果グループ)

この表示枠には, テストの実行中に作成した不具合メモの概要が表示されます。この表示枠では, 不具合メモの情報を使用して不具合を送信したり, 不具合メモのエクスポート, 印刷, 電子メール送信を行うことができます。

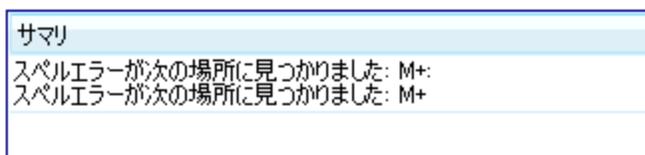
[不具合メモ] 表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- 「[実行結果の表示方法](#)」(128ページ)

次に, [不具合メモ] 表示枠の図を示します。



不具合メモ



アクセス方法	テストの実行後, [結果] > [不具合メモ] ノードの順に選択します。
---------------	--------------------------------------

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ [実行セットアップ] 領域から実行を削除、既存の実行を新しい実行で置換、Sprinterを終了などの操作を行うと、不具合メモは破棄されます。不具合メモが追加された実行を閉じると、警告メッセージが表示されます。
--------------	--

次の表で、いくつかの要素に関して詳細な情報を説明します。

UI 要素	説明
	<p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規不具合：[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、手動で不具合を送信できます。 ・ 不具合の送信：(標準設定) 自動的に生成された不具合シナリオの情報を不具合に追加できます。詳細については、「[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス」(114 ページ)を参照してください。 <p>[不具合メモ] 表示枠で不具合を作成するときは、実行中に不具合を開いたときと同じ情報を不具合に追加できます。メモを作成したときにユーザ操作に対して表示されたアプリケーションの画面キャプチャ、テスト実行に含まれるステップまたは操作を追加できます。</p> <p>不具合メモから不具合を作成すると、その不具合メモは削除されます。</p>

[ユーザ操作] 表示枠/ [ユーザ操作の概要] ダイアログ・ボックス

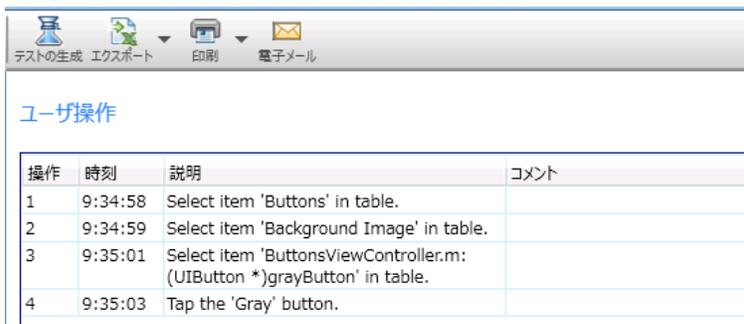
パワー・モードのみが対象

この領域には、実行中に行ったユーザ操作の概要と各操作に追加したコメントが表示されます。また、この領域でユーザ操作に関する情報のエクスポート、印刷、電子メール送信を行うことも可能です。さらに、手動テストに実行をエクスポートすることもできます。

[ユーザ操作] 表示枠/ [ユーザ操作の概要] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- ・ [「実行結果の表示方法」\(128ページ\)](#)

次に、[ユーザ操作] 表示枠の図を示します。



操作	時刻	説明	コメント
1	9:34:58	Select item 'Buttons' in table.	
2	9:34:59	Select item 'Background Image' in table.	
3	9:35:01	Select item 'ButtonsViewController.m: (UIButton *)grayButton' in table.	
4	9:35:03	Tap the 'Gray' button.	

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ テスト実行後、[結果] > [ユーザ操作] ノードの順に選択します。
---------------	---

	<ul style="list-style-type: none">• 実行中に、【ツール】 サイドバー > 【ユーザ操作の表示】 ボタンの順にクリックします。• 【結果】 > 【ユーザ操作】 ノードの順に選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">• 【ユーザ操作の概要】 ダイアログ・ボックスには、テスト実行中のユーザ操作の情報が表示されます。このダイアログ・ボックスの情報と機能は、【ユーザ操作】 表示枠とほぼ同じです。• ユーザ操作はパワー・モードでのみ記録されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

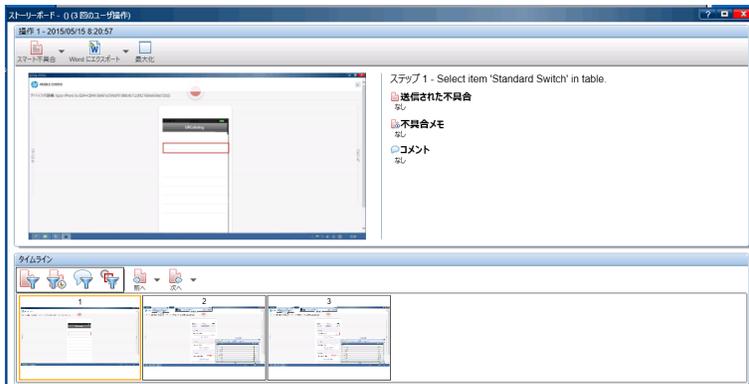
UI 要素	説明
テストの生成	すべてのユーザ操作をエクスポートし、新しい手動テストのテスト・ステップとして追加できます。テストの詳細情報の追加、ステップの書式指定と編集、新規テストの保存を実行できます。詳細については、「 【テストの生成】ダイアログ・ボックス 」(101ページ)を参照してください。 注： このオプションは、実行セッションの最後でのみ利用できます。
エクスポート	ユーザ操作をすべて外部スプレッドシートにエクスポートします。外部ファイルのデータを変更した後、計画モードの 【ステップ】 タブにある 【ステップのインポート】 オプションを選択します。 ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• Excel にエクスポート• CSV にエクスポート
印刷	ユーザ操作リストを印刷します。 ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• 印刷• 印刷プレビュー
電子メール	ユーザ操作リストを電子メールに添付して送信します。Sprinter マシンには、標準設定のメールクライアントをインストールする必要があります。
ユーザ操作	実行セッションで行われたユーザ操作のリスト。次の内容がユーザ操作ごとに表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• 操作• 時間• 説明• コメント

[ストーリーボード] ウィンドウ

このウィンドウには、実行に含まれる各ユーザ操作の情報が表示されます。次の作業を行うことができます。

- 各ユーザ操作の説明を表示する。
 - 送信された不具合、不具合メモ、コメント、見つかった各操作の差異を表示する。
 - 表示される操作をフィルタ処理する。
 - ストーリーボードを PDF ファイルまたは Microsoft Word ファイルにエクスポートする。
- ストーリーボードで実行できるタスクを次に示します。
- [「実行結果の表示方法」\(128ページ\)](#)

次に、ストーリーボードの図を示します。



アクセス方法	<p>次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実行中、[ツール] サイドバー > [ストーリーボード] の順にクリックします。 • [結果] > [ストーリーボード] の順に選択します。 • [テスト実行] リストでテストを右クリックし、[すべての実行を表示] を選択します。「[テスト<'テスト名'> : すべての実行] ダイアログ・ボックス」(82ページ)が開きます。[ストーリーボード] ボタンをクリックします。
---------------	--

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
スマート不具合	<p>不具合を 不具合追跡システムに送信します。</p> <p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スマート不具合 : (標準設定) 自動的に生成された不具合シナリオの情報を不具合の説明に追加できます。詳細については、「[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックス」(114ページ)を参照してください。 • 新規不具合 : [新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、手動で不具合を送信できます。 <p>ストーリーボードで不具合を作成するときは、実行中に不具合を開いたときと同じ情報を不具合に追加できます。ユーザ操作の実行時のアプリケーションの画面キャプチャを追加したり、テスト実行に含まれるステップや操作のリストを追加したりすることが可能です。</p>
Word にエクス	<p>ストーリーボードを Word または PDF ファイルにエクスポートするためのドロップダウン・メ</p>

UI 要素	説明
ポート	<p>ニュー。このファイルには、実行サマリ、ステップのステータス、不具合の詳細など、実行セッションの情報が格納されています。</p> <p>注：画像も格納する場合には、[設定] ダイアログ・ボックスの[実行] 領域で画像キャプチャを有効にしてから、実行を開始してください。詳細については、「[実行設定] 表示枠（[設定] ダイアログ・ボックス）」(37ページ)を参照してください。</p>
最大化/最小化	タイムラインで選択した操作の画面キャプチャをズームインまたはズームアウトします。
<操作の画面キャプチャ>	タイムラインで選択した操作の画面キャプチャが表示されます。
<操作の詳細>	<p>次の内容が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ操作の説明 • 不具合：送信された、操作のすべての不具合です。 • 不具合メモ：操作に対して作成した不具合メモのリストです。[不具合の作成] をクリックすると、[スマート不具合設定] ダイアログ・ボックスが開きます。ここでは、不具合シナリオの情報を不具合に自動的に追加できます。 • コメント：操作に追加したすべてのコメントのリストです。
タイムライン	<p>実行に含まれる各操作のサムネイルが表示されます。各サムネイルには、操作の詳細を示す次のアイコンを含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  この操作について、不具合が送信された。 •  この操作について、不具合メモが作成された。 •  この操作にコメントが追加された。
<タイムラインのフィルタ処理オプション>	<p>タイムラインには、次のフィルタ処理ボタンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  不具合のフィルタ •  不具合メモフィルタ •  コメントのフィルタ <p>フィルタ処理ボタンをクリックすると、選択したフィルタ項目を含む操作のみがタイムラインに表示されます。フィルタ処理ボタンをもう一度クリックすると、フィルタ処理がオフになります。</p>
<タイムラインのナビゲーション・ボタン>	<p>タイムラインには、次のナビゲーション・ボタンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  前へ : タイムラインの1つ前の不具合に戻ります。 •  次へ : タイムラインの1つ先の不具合に進みます。 <p>タイムラインにフィルタを適用している場合、[前へ] ボタンまたは[次へ] ボタンを押すと、フィルタが適用された操作リストの中で前または次の操作に移動します。</p> <p>また、[前へ] ボタンまたは[次へ] ボタンの下のドロップダウン・オプションを使用して、前に戻る動作および次に進む動作にのみフィルタを適用することも可能です。</p> <p>このドロップダウン・オプションによって[前へ] ボタンと[次へ] ボタンの機能が制御され</p>

UI 要素	説明
	<p>ますが、タイムラインにはフィルタは適用されません。</p> <p>一方のボタンのドロップダウン・オプションを選択すると、それと同じオプションがもう一方のボタンでも自動的に選択されるため、[前へ] ボタンまたは [次へ] ボタンを押すと、選択したオプションを含む前の操作または次の操作に移動します。</p> <p>ドロップ・ダウンのオプションを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前の不具合/次の不具合 前の不具合メモ/次の不具合メモ 前のコメント/次のコメント

トラブルシューティングと制限事項 - 実行結果

本項では、実行結果のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

- レポートに2つ以上続く空白文字が含まれている場合、エクスポートした .csv ファイルで文字化けが発生します。
- モバイル・ハイブリッド・アプリケーションでユーザ操作を記録する際、ストーリーボードでターゲット UI 要素の周囲に赤い四角が表示されません。
- Chrome ブラウザを使用してユーザ操作を記録する際、ストーリーボードでターゲット UI 要素の周囲に赤い四角が表示されません。Internet Explorer または Firefox を使用してください。
- ハイブリッド・アプリケーションでの手動テストから自動テストへの変換はサポートされていません。

第7章: パワー・モード

このガイドでは、パワー・モードでのみ利用可能な機能をパワー・モード  アイコンで示します。

本章の内容

概念

- 「[パワー・モードの概要](#)」(139ページ)
- 「[アプリケーション](#)」(140ページ)

タスク

- 「[パワー・モードで実行するテストの準備方法](#)」(142ページ)

リファレンス

- 「[\[パワー・モード\] グループ](#)」(143ページ)
- 「[\[アプリケーション\] 表示枠 \(\[パワー・モード\] グループ \)](#)」(144ページ)
- 「[トラブルシューティングと制限事項 - パワー・モード](#)」(147ページ)

パワー・モードの概要

パワー・モードでテストを実行すると、Sprinter はアプリケーションの表示を調べて、アプリケーションのオブジェクトを識別します。Sprinter では、この情報に基づいてテスト実行中の操作を追跡します。また、ユーザ操作の一部をアプリケーションで実行することもできます。

この情報を使用して、Sprinter で次の処理を行うことができます。

- マクロを作成および実行して、アプリケーションの一連の操作を Sprinter で実行する。
- ユーザ操作の記録を保存する。後で参照するために、実行に含まれる記録済みのユーザ操作にコメントやメモを追加します。
- 送信した各操作の不具合の記録を保存する。
- ステップまたはユーザ操作のリストを、送信する不具合に自動的に追加して不具合シナリオを作成する。

Sprinter がアプリケーションの表示を検出できるようにするために、テストするアプリケーションを定義する必要があります。

詳細については、次の項目を参照してください。

- 「[アプリケーション](#)」(140ページ)
- 「[パワー・モードで実行するテストの準備方法](#)」(142ページ)

- [「パワー・モードでのテストの実行」\(66ページ\)](#)
- [「マクロの記録方法と実行方法」\(150ページ\)](#)

アプリケーション

パワー・モード機能を使用するには、テストするモバイル・アプリケーションを定義する必要があります。アプリケーションを定義すると、パワー・モードを使用して高度な機能をアプリケーションで実行できます。

パワー・モードの多くの構成が、その構成に固有のアプリケーションに関連付けられています。

テストに対してアプリケーションを定義するので、同じアプリケーションが定義されているすべてのテストは同じパワー・モードの構成を共有します。このため、1つ1つのテストにこのような構成を再定義する時間が不要になっています。

テストの新規作成時に、**計画モード**でアプリケーションを定義することも可能です。詳細については、[「\[アプリケーションの選択\] ダイアログ・ボックス」\(57ページ\)](#)を参照してください。

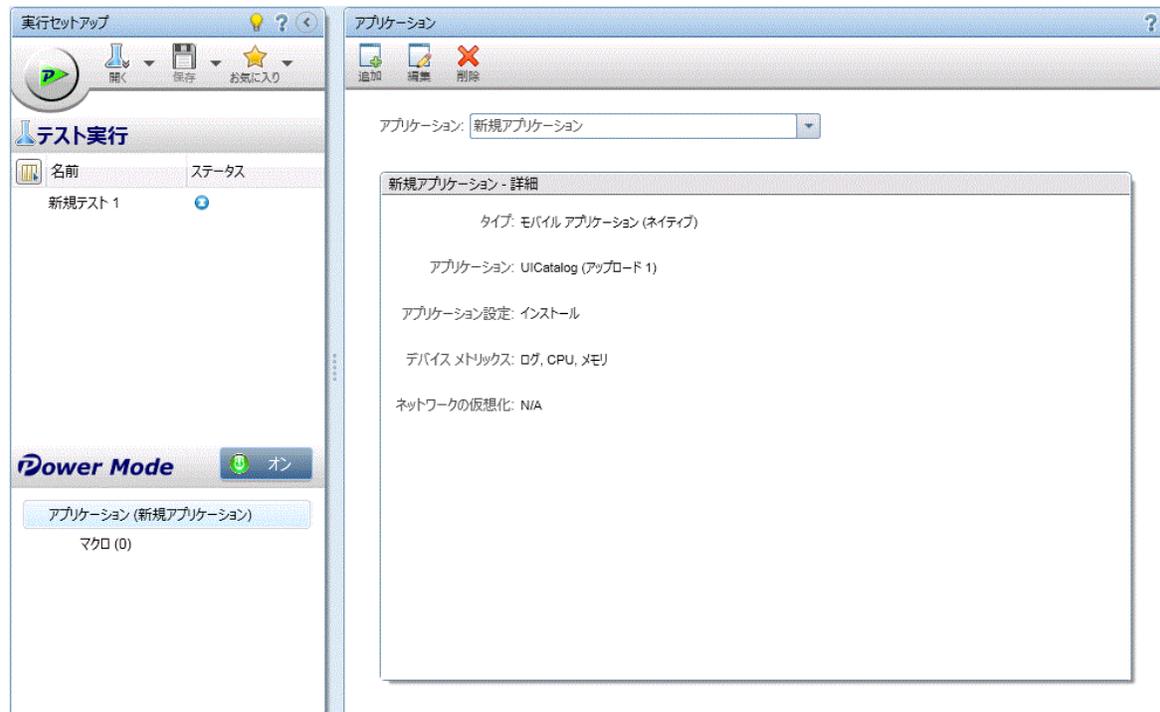
例：銀行業務モバイル・アプリケーションをテストしているとします。テストを作成し、My_Banking_App という名前でアプリケーションを定義します。次に、テスト中にログイン・ページでマクロを記録し、Login_Macro という名前で保存します。Sprinter に記憶されるのは、アプリケーション My_Banking_App を対象としてマクロ Login_Macro が記録されたことです。

今後、アプリケーションとして定義されている My_Banking_App でテストを行うたびに、テストでマクロ Login_Macro を利用することができます。

次の情報がテストのアプリケーションに関連付けられます。

- マクロ

アプリケーションを定義するときは、Sprinter でアプリケーションの論理名を指定します。情報はこの論理名に関連付けられます。この論理名は、「[パワー・モード] グループ」の[アプリケーション] ノードの横 (143 ページを参照) と「[アプリケーション] 表示枠 ([パワー・モード] グループ)」 (144 ページを参照) に表示されます。



1つのアプリケーションの複数のバージョンを別々の論理名で作成し、固有の情報を各バージョンに関連付けることもあります。

例: 異なる言語ごとに複数のバージョンがある銀行業務モバイル・アプリケーションをテストしているとします。実際のアプリケーションの各バージョンの名前は Banking です。テストに対して複数の銀行業務モバイル・アプリケーションを定義し、Banking_Spanish や Banking_French などのわかりやすい論理名を各アプリケーションに付けることができます。

この結果、モバイル・アプリケーションの各バージョンに別々の情報を関連付けることが可能になります。たとえば、スペイン語のデータ・セットをアプリケーション Banking_Spanish に関連付け、フランス語のデータ・セットをアプリケーション Banking_French に関連付けることができます。

定義されているモバイル・アプリケーションが Banking_Spanish であるテストを実行するときは、スペイン語のデータ・セットが利用可能になります。定義されているモバイル・アプリケーションが Banking_French であるテストを実行するときは、フランス語のデータ・セットが利用可能になります。

パワー・モード機能の設定方法の詳細については、「[パワー・モードで実行するテストの準備方法](#) (142ページ)を参照してください。

Sprinter でアプリケーションの情報が保持される仕組みの詳細と、定義されたアプリケーションに関連付けられている機能の詳細については、「[ユーザ情報が保持される仕組み](#) (27ページ)を参照してください。

パワー・モードで実行するテストの準備方法

下記の手順では、パワー・モードの高度な機能を使用して実行するテストの準備方法が説明されています。

- このタスクは、Sprinter でテストを実行する方法をすでに理解していることを前提としています。詳細については、「[テストをSprinter で実行する方法](#) (67ページ)を参照してください。

パワー・モードの機能の詳細については、「[パワー・モードでのテストの実行](#) (66ページ)を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- [テストでのパワー・モードの有効化](#)
- [テストのアプリケーションの設定](#)
- [アプリケーション用のマクロの確認](#)
- [結果](#)

テストのパワー・モードの有効化

パワー・モードグループで [パワー・モード] ボタン  をクリックします。[パワー・モード] ボタンが緑色になってオンと表示され、[実行] ボタンにパワー・モードアイコン  が表示されるほか、パワー・モードグループ・ノードが表示されます。

テストのアプリケーションの設定

パワー・モードでテストを実行するために、テストに対してアプリケーションを設定する必要があります。

[パワー・モード] グループの [アプリケーション] ノードをクリックし、[アプリケーション] 表示枠のオプションを使用してアプリケーションを設定します。

[アプリケーション] 表示枠での作業の詳細については、「[\[アプリケーション\] 表示枠 \(\[パワー・モード\] グループ \)](#) (144ページ)を参照してください。

アプリケーション用のマクロの確認

アプリケーションに対してマクロをすでに定義している場合は、[マクロ] ノードをクリックすると、アプリケーションに関連付けられているマクロを確認、編集、削除できます。

詳細については、「[マクロ] 表示枠 ([パワー・モード] グループ) 」(151ページ)を参照してください。

結果

これで、パワー・モードでテストを実行する準備は完了です（「[テストをSprinter で実行する方法](#)」(67ページ)を参照）。

[パワー・モード] グループ

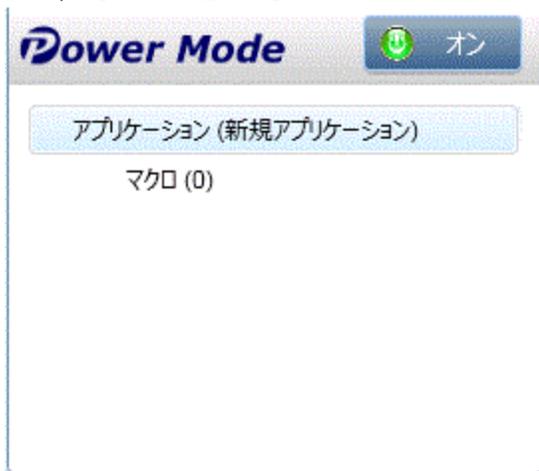
[パワー・モード] グループでは、パワー・モードをオンまたはオフにすることができます。パワー・モードをオンにし、[パワー・モード] グループでいずれかのノードを選択すると、右の表示枠にそのノードの設定が表示されます。

パワー・モードで利用できる機能の詳細については、「[パワー・モードでのテストの実行](#)」(66ページ)を参照してください。

[パワー・モード] グループで実行できるタスクを次に示します。

- 「[パワー・モードで実行するテストの準備方法](#)」(142ページ)

次に、[パワー・モード] グループの図を示します。



アクセス方法	[パワー・モード] グループで、[オン] ボタンをクリックします。
重要な情報	パワー・モードでテストを実行するには、テストでアプリケーションを定義する必要があります。

[パワー・モード] グループには次のノードがあります。

UI 要素	説明
アプリケーション	テストするアプリケーションを定義します。 テストに対して現在定義されているアプリケーションは、[アプリケーション] ノードの括弧内に表示されます。 詳細については、「 [アプリケーション] 表示枠 ([パワー・モード] グループ) 」(144ページ)を参照してください。
マクロ	現在定義されているアプリケーションに関連付けられているマクロが表示されます。 アプリケーションで使用するために現在定義されているマクロの数が、[マクロ] ノードの括弧内に表示されます。 詳細については、「 [マクロ] 表示枠 ([パワー・モード] グループ) 」(151ページ)を参照してください。

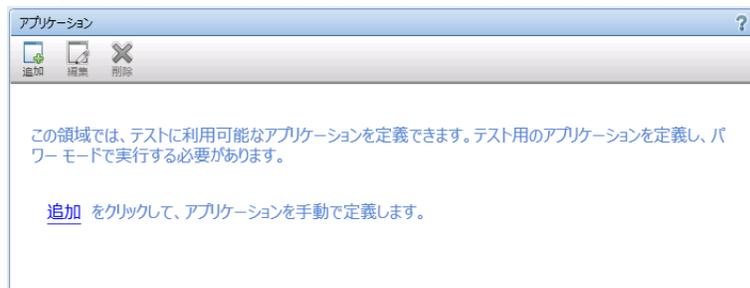
[アプリケーション] 表示枠 ([パワー・モード] グループ)

この表示枠では、テストで使用するアプリケーションを定義または選択できます。また、アプリケーションを追加、変更、削除することも可能です。

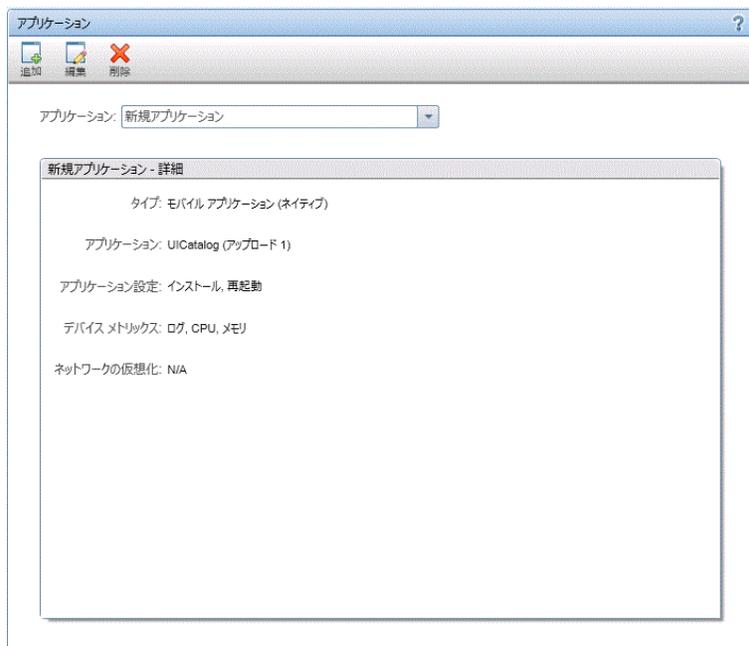
[アプリケーション] 表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- [「パワー・モードで実行するテストの準備方法」\(142ページ\)](#)

次に、事前に定義したアプリケーションがない場合の [アプリケーション] 表示枠の図を示します。



次に、事前に定義したアプリケーションがある場合の [アプリケーション] 表示枠の図を示します。



アクセス方法	[パワー・モード] グループ > [アプリケーション] ノードの順に選択します。
重要な情報	Sprinter でアプリケーション・リストが保持される仕組みの詳細については、 「ユーザ情報が保持される仕組み」(27ページ) を参照してください。
参照情報	「アプリケーション」(140ページ)

次に、[アプリケーション] 表示枠のユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	「[アプリケーションの追加/編集] ダイアログ・ボックス」(146ページを参照) が開きます。このダイアログ・ボックスでは、アプリケーション・リストに追加する新しいアプリケーションを手動で定義できます。
	「[アプリケーションの追加/編集] ダイアログ・ボックス」(146ページを参照) が開きます。このダイアログ・ボックスでは、アプリケーション・リストで選択したアプリケーションの詳細情報を編集できます。
	選択したアプリケーションがアプリケーション・リストから削除されます。
アプリケーション	<p>利用可能なアプリケーションのリストです (アプリケーションが定義されている場合)。[追加]、[編集]、[削除] の各ボタンを使用して、アプリケーション・リストを管理します。</p> <p>事前に定義したアプリケーションを使用するには、アプリケーション名の初めの数文字を入力し、表示されたリストからアプリケーションを選択します。</p> <p>Sprinter でアプリケーション・リストが保持される仕組みの詳細については、「ユーザ情報</p>

UI 要素	説明
	が保持される仕組み (27ページ)を参照してください。
アプリケーションの詳細領域	アプリケーション・リストで選択したアプリケーションの情報が表示されます (アプリケーションが定義されている場合)。[編集] ボタンをクリックすると、「 [アプリケーションの追加/編集] ダイアログ・ボックス 」 (146ページを参照) が開きます。ここで詳細を編集します。

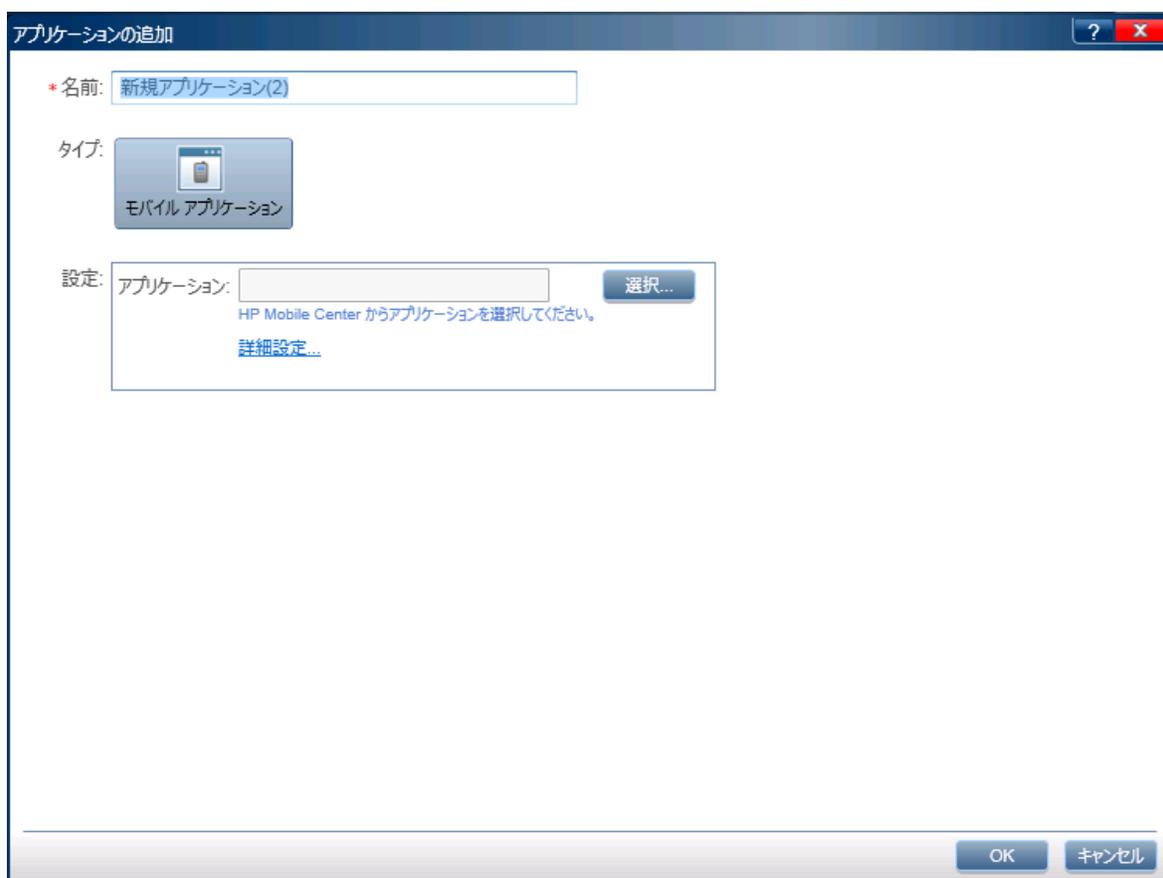
[アプリケーションの追加/編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、アプリケーションの設定を定義または変更できます。

[アプリケーションの追加/編集] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「[テストを作成する方法](#)」 (42ページ)
- 「[パワー・モードで実行するテストの準備方法](#)」 (142ページ)

[[モバイル アプリケーション](#)] ボタンを選択すると、[設定] 領域でモバイル・アプリケーション固有のオプションを設定できます。



アクセス方法

計画モード:

	<ul style="list-style-type: none">• テストを作成または開きます。• 右の表示枠の 【ステップ】 タブをクリックします。• 【ステップ キャプチャ】 ボタンを展開し、【アプリケーションの選択】 をクリックします。• 【追加】 ボタンまたは 【編集】 ボタンをクリックします。 実行モード： <ul style="list-style-type: none">• 【パワー・モード】 グループ > 【アプリケーション】 ノード > 【追加】 ボタンまたは 【編集】 ボタンの順に選択します。
参照情報	「アプリケーション」 (140ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
名前	テストで実行するアプリケーションの名前です。アプリケーションには、わかりやすい任意の名前を付けることができます。 たとえば、My application - Spanish など、アプリケーションが外国語バージョンのアプリケーションであることを示す名前を使用できます。
タイプ	モバイル・アプリケーション ：このボタンは、モバイル・アプリケーションを定義する場合にクリックします。
設定	モバイル・デバイス上でテストするアプリケーション、収集するデバイス・メトリックス、各テスト実行の前後にアプリケーションで行う操作。 <ul style="list-style-type: none">• アプリケーション： 【選択】 ボタンをクリックし、テスト対象のアプリケーションを選択します。• 詳細設定：収集するデバイス・メトリックテスト実行の前後にアプリケーションで行う操作、使用する Network Virtualization プロファイルを決定します。 詳細については、 「HP Mobile Center を使用してモバイル・アプリをテストする方法」 (73ページ) を参照してください。

トラブルシューティングと制限事項 - パワー・モード

ここでは、パワー・モードのトラブルシューティングと制限事項について説明します。

一般的な制限事項

- Excel 2007 をコンピュータにインストールしていない場合は、**.xlsx** 形式のデータ・セットを処理するために 2007 Office System ドライバをインストールする必要があります。2007 Office システム・ドライバは、[here](http://www.microsoft.com/download/en/details.aspx?displaylang=en&id=23734)
<http://www.microsoft.com/download/en/details.aspx?displaylang=en&id=23734> からダウンロードで

きます。

- アプリケーション名には、次の文字は使用できません。

`\/:*?"<>|'%!{}`

回避策 : Sprinter のアプリケーション名に上記の文字が含まれている場合は、文字を削除してからテストを実行します。

ハイブリッド・アプリケーション

- スタンドアロン・モバイル・ブラウザは、ハイブリッド・アプリケーションとしてサポートされていません。
- ハイブリッド・アプリケーションでの WebAudio および WebVideo 要素の記録はサポートされていません。
- ハイブリッド・アプリケーションでの手動テストから自動テストへの変換はサポートされていません。

第8章: マクロ

このガイドでは、パワー・モードでのみ利用可能な機能をパワー・モード  アイコンで示します。

本章の内容

概念

- 「[マクロの概要](#)」(149ページ)

タスク

- 「[マクロの記録方法と実行方法](#)」(150ページ)

リファレンス

- 「[\[マクロ\] 表示枠 \(\[パワー・モード\] グループ \)](#)」(151ページ)
- 「[\[マクロ\] サイドバー](#)」(151ページ)
- 「[\[マクロの詳細\] ダイアログ・ボックス](#)」(152ページ)
- 「[\[マクロの管理\] ダイアログ・ボックス](#)」(154ページ)
- 「[トラブルシューティングと制限事項 - マクロ](#)」(155ページ)

マクロの概要

テスト・プロセスのいくつかの部分で、一連のユーザ操作を Sprinter に実行させたい場合があります。また、テスト内に、アプリケーションの複数のセクションで同じ一連の操作を実行しなければならない部分が存在する場合があります。一連の操作を Sprinter に実行させると、テスト時間を短縮してエラーを減らすことができます。

マクロとは、1つのコマンドとして保存および実行可能な一連の操作です。

マクロを作成して実行すると、これらの操作を Sprinter に実行させることができます。

たとえば、マクロを使用すると次のことが可能になります。

- ログイン手順を自動化する。
- テスト用にアプリケーションを設定する一連の予備的手順を行う。

Sprinter でマクロが保存されるのは、少なくとも1つのユーザ操作がマクロに含まれている場合だけです。ユーザ操作は、完了しないと記録されません。編集ボックスやコンボ・ボックスでの操作は、フォーカスをボックスから移動した時点で完了し、記録されます。

マクロの記録方法と実行方法

このタスクでは、マクロを使用して、テストの一連のユーザ操作を Sprinter に実行させたり、テストの一連のユーザ操作を1つのコマンドとして実行したりする方法について説明します。

 マクロはパワー・モードで実行するテストでのみ使用できます。

このタスクは次の手順で構成されています。

- [パワー・モードのアクティブ化](#)
- [マクロの記録](#)
- [マクロの実行](#)

1. パワー・モードのアクティブ化

 実行モードで、テストが開いていてパワー・モードがアクティブになっていることを確認します。[パワー モードで実行] ボタンをクリックします。詳細については、[「パワー・モードで実行するテストの準備方法」\(142ページ\)](#)に記載されている手順を参照してください。

2. マクロの記録

アプリケーションに、実行したいマクロがすでに関連付けられている場合は、この手順を省略できます。

- a. [マクロ] サイドバーで、[記録] ボタン  をクリックします。
- b. マクロに記録する操作を行います。
- c. [マクロ] サイドバーで、[停止] ボタン  をクリックします。[マクロの詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。
- d. マクロの定義を設定し、保存します。詳細については、[「\[マクロの詳細\] ダイアログ・ボックス」\(152ページ\)](#)を参照してください。
サイドバーの詳細については、[「\[マクロ\] サイドバー」\(151ページ\)](#)を参照してください。

3. マクロの実行

- a. マクロを記録するアプリケーションのインスタンスを終了します。これにより、パワー・モードでアプリケーションを再度開くことができます。
- b. [マクロ] サイドバーで、実行するマクロをマクロ・ドロップダウン・リストで選択します。
- c. [マクロ] サイドバーで、[実行] ボタン  をクリックします。
- d. [マクロ] サイドバーのタブに、マクロの進行状況と成功または失敗を示すアイコンが表示されます。アイコンをクリックして詳細を確認します。

サイドバーの詳細については、「[\[マクロ\] サイドバー](#)」(151ページ)を参照してください。
テストでのマクロの詳しい使用方法については、「[マクロの概要](#)」(149ページ)を参照してください。

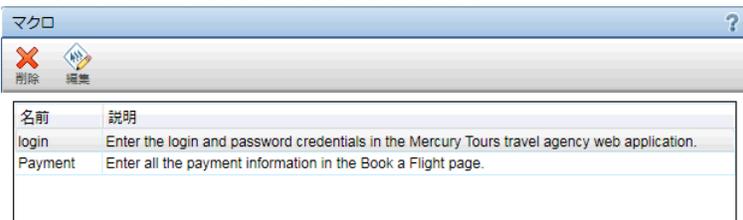
[マクロ] 表示枠 ([パワー・モード] グループ)

この表示枠には、現在定義されているアプリケーションに関連付けられているマクロが表示されます。

[マクロ] 表示枠で実行できるタスクを次に示します。

- [「パワー・モードで実行するテストの準備方法](#)」(142ページ)

次に、[マクロ] 表示枠の図を示します。



アクセス方法	[パワー・モード] グループ > [マクロ] ノードの順に選択します。
重要な情報	編集できるのはマクロの名前と説明だけです。
参照情報	「マクロの概要」 (149ページ)

表示枠でポインタをユーザ・インタフェース要素上に移動すると、その説明が表示されます。

[マクロ] サイドバー

パワー・モードのみが対象

このサイドバーでは、テストの実行中にマクロを記録および実行できます。

[マクロ] サイドバーで実行できるタスクを次に示します。

- [「マクロの記録方法と実行方法」](#) (150ページ)
- [「テストをSprinter で実行する方法」](#) (67ページ)

次に、[マクロ] サイドバーの図を示します。



アクセス方法	<p>テストの実行中に マクロ サイドバー・タブをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サイドバー・タブをもう一度クリックするか、サイドバー・タブ以外の場所をクリックすると、サイドバーが閉じます。 • サイドバーを開いた位置にロックするには、押しピン  アイコンをクリックします。 • サイドバーの位置を変更するには、サイドバーのヘッダをドラッグします。
参照情報	<p>「マクロの概要」 (149ページ)</p>

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します（ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります）。

UI 要素	説明
 	<p>マクロの記録/記録の停止：アプリケーションで行うユーザ操作の記録を開始または停止します。マクロの記録を停止すると マクロの詳細 ダイアログ・ボックスが開くので、マクロの名前を指定して保存します。詳細については、「マクロの詳細」ダイアログ・ボックス (152ページ)を参照してください。</p>
	<p>実行：マクロのドロップダウン・リストで選択したマクロが実行されます。</p>
	<p>管理：マクロの管理 ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「マクロの管理」ダイアログ・ボックス (154ページ)を参照してください。</p>
<p><マクロのドロップダウン・リスト></p>	<p>テストで実行できるマクロのリストです。マクロは、その作成対象のアプリケーションに関連付けられます。</p>
<p><マクロのステータス></p>	<p>マクロ サイドバーのタブには、マクロの進行状況と実行されたマクロの成功または失敗を示すアイコンが表示されます。アイコンをクリックして詳細を確認します。</p>

[マクロの詳細] ダイアログ・ボックス

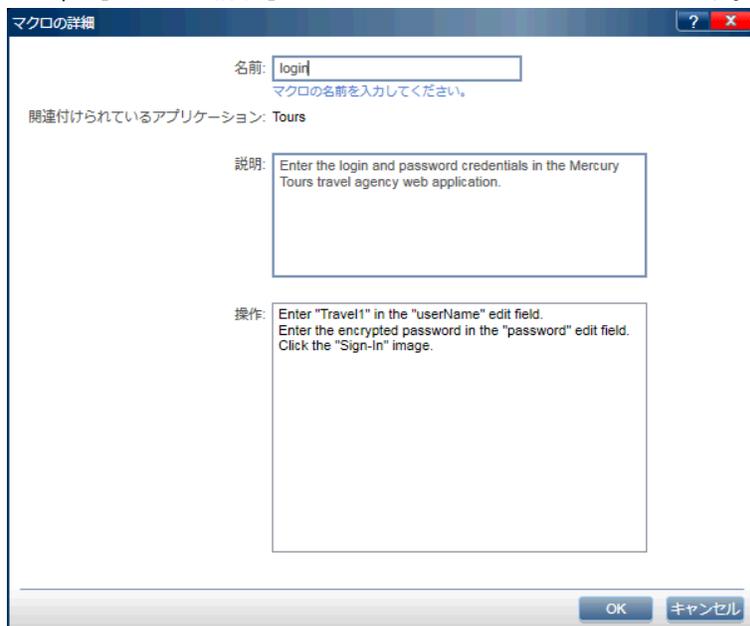
パワー・モードのみが対象

このダイアログ・ボックスでは、マクロに名前を付けたり、マクロの詳細を参照および編集できます。

[マクロの詳細] ダイアログ・ボックスで実行できるタスクを次に示します。

- 「マクロの記録方法と実行方法」(150ページ)
- 「テストをSprinter で実行する方法」(67ページ)

次に、[マクロの詳細] ダイアログ・ボックスの図を示します。



<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいマクロを記録した後、[マクロ] サイドバー > [停止] ボタン  の順にクリックします。 • [マクロ] サイドバーで、[マクロの管理] ボタン  をクリックします。[マクロ] 表示枠でマクロを選択し、[編集] ボタンをクリックします。 • メイン・ウィンドウの「[パワー・モード] グループ」(143ページ)で [マクロ] ノードを選択します。[マクロ] 表示枠でマクロを選択し、[編集] ボタンをクリックします。
<p>参照情報</p>	<p>「マクロの概要」(149ページ)</p>

ダイアログ・ボックスでポインタをユーザ・インタフェース要素上に移動すると、その説明が表示されます。次の表で、いくつかの要素に関して詳細な情報を説明します。

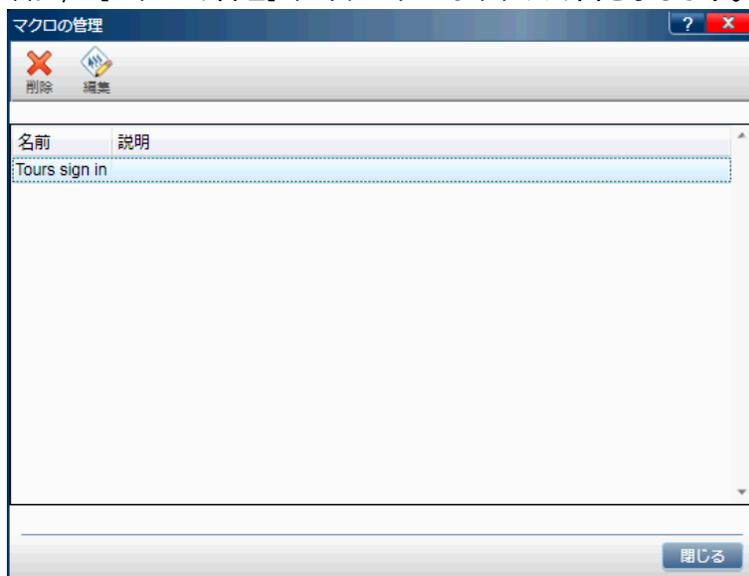
UI 要素	説明
<p>関連付けられているアプリケーション</p>	<p>マクロを利用できるアプリケーションです。 関連付けられているアプリケーションは、マクロが記録されたテストに対して定義されているアプリケーションです。</p>
<p>ステップ</p>	<p>マクロに記録されたステップのリストです。アプリケーションの各ユーザ操作がマクロのステップとして記録されます。</p>

[マクロの管理] ダイアログ・ボックス

パワー・モードのみが対象

このダイアログ・ボックスでは、マクロの削除およびマクロの詳細の編集が可能です。

次に、[マクロの管理] ダイアログ・ボックスの図を示します。



アクセス方法	[マクロ] サイドバー > [マクロの管理] ボタン  をクリックします。
参照情報	「マクロの概要」 (149ページ)

ダイアログ・ボックスでポインタをユーザ・インタフェース要素上に移動すると、その説明が表示されます。次の表で、いくつかの要素に関して詳細な情報を説明します。

UI 要素	説明
マクロ・リスト	アプリケーションに関連付けられているマクロのリストです。 <ul style="list-style-type: none">マクロを編集するには、このリストからマクロを選択して [編集] ボタンをクリックします。「[マクロの詳細] ダイアログ・ボックス」(152ページ)が開き、マクロを編集できます。マクロを削除するには、このリストからマクロを選択して [削除] ボタンをクリックします。

トラブルシューティングと制限事項 - マク ロ

ここでは、マクロのトラブルシューティングと制限事項について説明します。

- マクロは、ハイブリッド・アプリケーションではサポートされません。